圍碁玄妙落穂集

全

795
I472i2
W(0)

井上保申編輯

圍碁玄妙洛穂集 全

圍棋玄妙落穂集

井上保申述

贈寄
瀬越憲作殿

國會圖書館藏書
38.8.14

617859

緒言

抑も此著作を圍棋玄妙落穂集と題したる理由たるや曩に予の編輯發行の圍碁獨習定石解なるものは目下世に行なはれる置碁相先定石の原理を解釋爲したるものにして是を普通定石と見なし此に漏たる異形の變化最も不尠尙古來棋家に祕密祕傳として公けに爲さゞる奇手玄妙の棋局多々有と雖も之を世に陰滅せしむるは斯道にとりて尤も悲歎する處なり爰を以て棋道を嗜む後進者の爲にもと普通に漏る處の局部を普く拾輯し之に初學者の解し易からん事を慮り夫々解釋を附し號けて圍棋玄妙落穂集と題す

編輯者　方圓社五段　井上保申述

圍碁玄妙落穗集　置碁之部

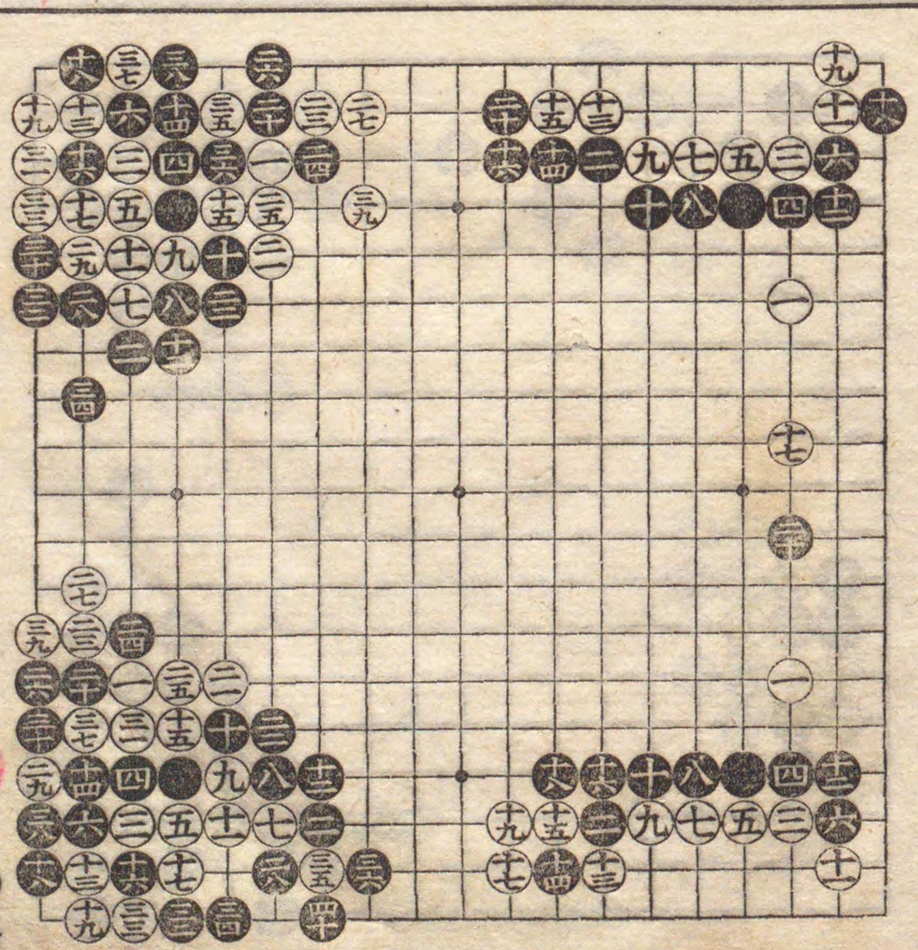
小斜走掛り三々打込の變化

◉此定石に於て黑六の綽は普通の定石に異る所にして場合によりては此六の手大に利益有るものとす尙其場合とは黑二十と把へし方に黑の地位存する時或は白の十七の邊に黑の配石在る時と知るべきなり

◉の乙同く變化にして白十三と綽けし時黑十四と二段に押へ白十五を切り十七へ押へし時黑十八へ當て而して二十と打しは黑一子を捨て二十と外面を打の趣向に出しものと知るべし

◉の丙同く變化白七と附しより變化し手順を追ひ黑十六と切而して十八と綽ける手順肝要とす又白二一へ綽け二三へ押へし時黑二四を切り而して二六の下りよし決局持となるも黑方優勢なりと知るべし

◉の丁同く變化白二九の打込み惡手なり此時黑三十の押へし白三一と眼欠きの時黑に三二へ打ち三四と引れては白一手足すの死石となるなり心得べき手順なり

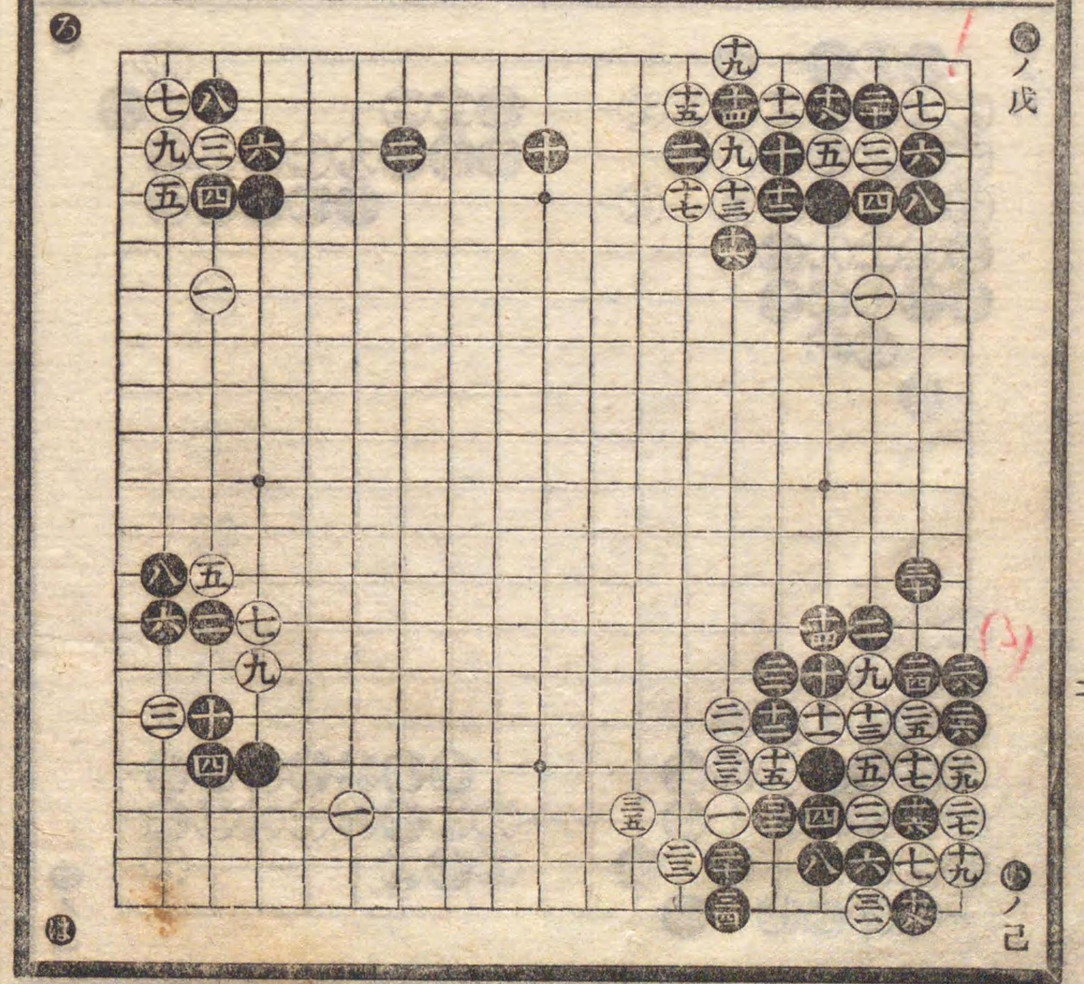


ゐの戊同く變化白七と押へ黑八へ粘ぎ白九へ附し時黑十の割込場合によりては面白し猶手順を追ひ白十五と一子を抱へし時黑十六へ綽げよし而して十八を切り振替りし黑の手順働きありて尤も優勢なり

ゑの己同く變化にして前上丙隅の同形にして白二三へ押へし時黑直に二四へ綽げしを以て變化黑三十へ粘し時白三一の打込よし此時黑三二へ當て而して三四へ下りし手順輕くしてよし

ゑ隅は白小斜走掛り黑大斜走啓き古碁の變化を示す黑通常の如く外面より押へずして內より六と押へ白七と掛粘ぎ黑八へ當て而して十と啓きし形古碁に多く見る處なり尤も場合により打も可なり

ひ同く異變化を示す白三と二の五へ打込し時黑四の並び面白し此時白五と外より附け黑六の下りよし白七と綽げ黑八へ曲り白九と行し時黑十の押へ輕くしよし

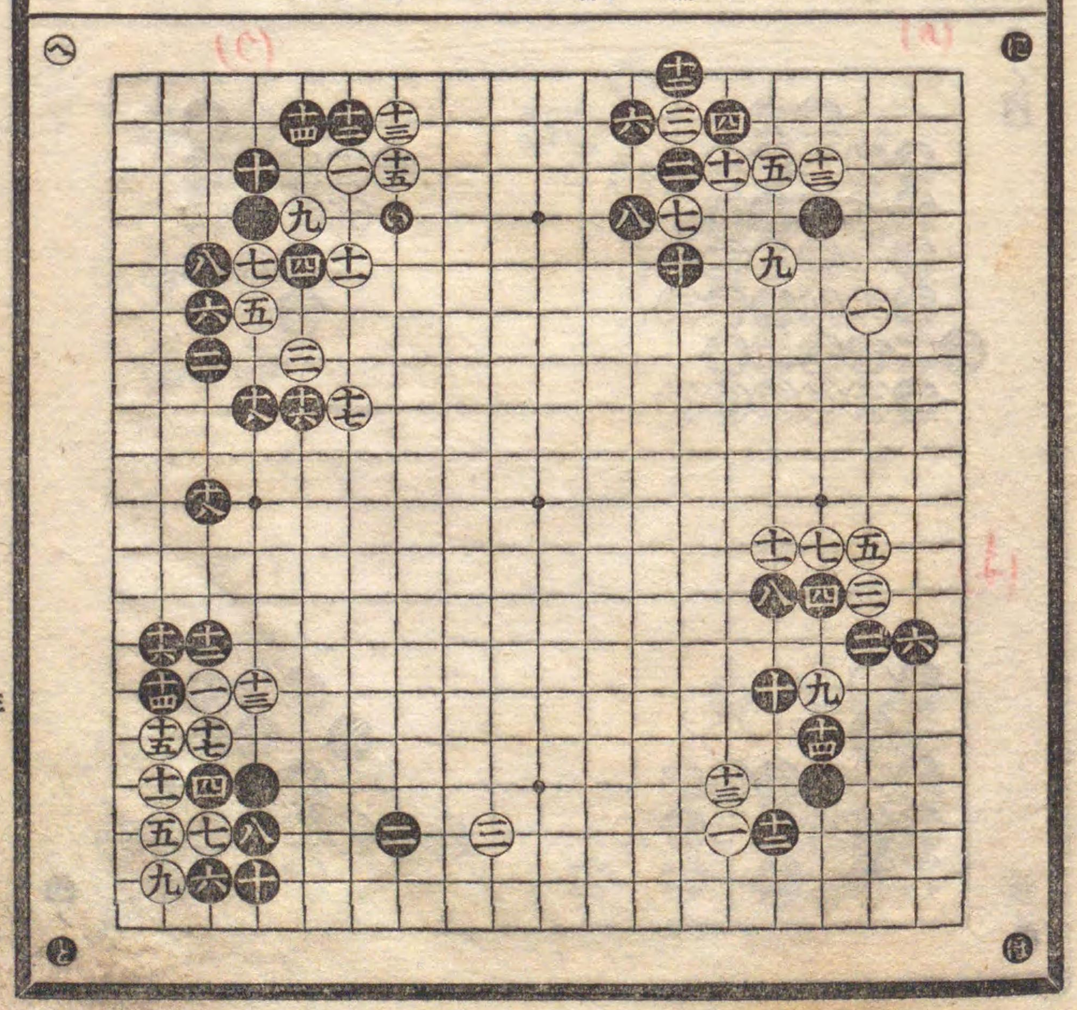


もの角白三の附は異手なり此時黑四と押へれば白五と置き圖の如き變化となるへし尤も黑に於て左の方へ地位を得る場合にては面白し又其の趣向なき時は白三と附し時四と押へすして十一の處へ並ぶを可とす

せ角白外より三と附し時黑四へ綽げ白五と引し時黑六と下りし手筋よし此時白は黑より七の處へ押へ附る手有を以て白七と曲がらざるを得ざるなり此時黑八と立し時白九へ打ち黑十の附よし猶白十一へ押し時黑十二へ尖附け白十三へ立し時黑十四の押へ堅くして手順尤もよし

へ角白三と帽子に打し時黑四の尖よし此手はゑへ掛る手を含みたれば白止むなく五へ尖込み黑六へ白七へ黑八へ白九と切り黑十と下りては形として白十一と綽げざるを得す此時黑先手に十二へ附引を打たれては黑尤も優勢なり

と角黑四と締在る處へ白五と打込し時黑の受手を示す此時黑六と打ち白七へ黑八へ白九へ黑十と粘ぎ白十一と盤り黑十二の附肝要にして十四、十六、と先手に驅粘ぎ十八と啓きては黑の優勢と知るべきなり



ち角切返しの變化を示す白七と並びし時黑普通の如十四の處へ駆込ますして圖の如く八と下るも場合によりては面白し白九と綽げし時黑十の曲りよし白十一へ黑十二へ白十三と粘ぎ黑十四へ割込ては白の一と黑の二と交換の形にして手割黑方少々優れり

ちの乙同く變化黑八と駆込十と下るも前局に大差なきものとす尤も普通にては而して内より㋷へ押へるを定石とすれども是又場合によりては十と下るを可とする事あるべし白十五と粘し時黑十六の尖みよし

ちの丙同く變化此圖の如く黑白に逢附られては黑尤も不可なり之は黑十の惡手より生じたる黑の災害なり猶二六と曲りし黑征に掛る場合に於ては此一局部にて黑の潰碁なるなれば十の手は尤も愼むべき手と知るべし

西 つぐ 三 粘ぐ

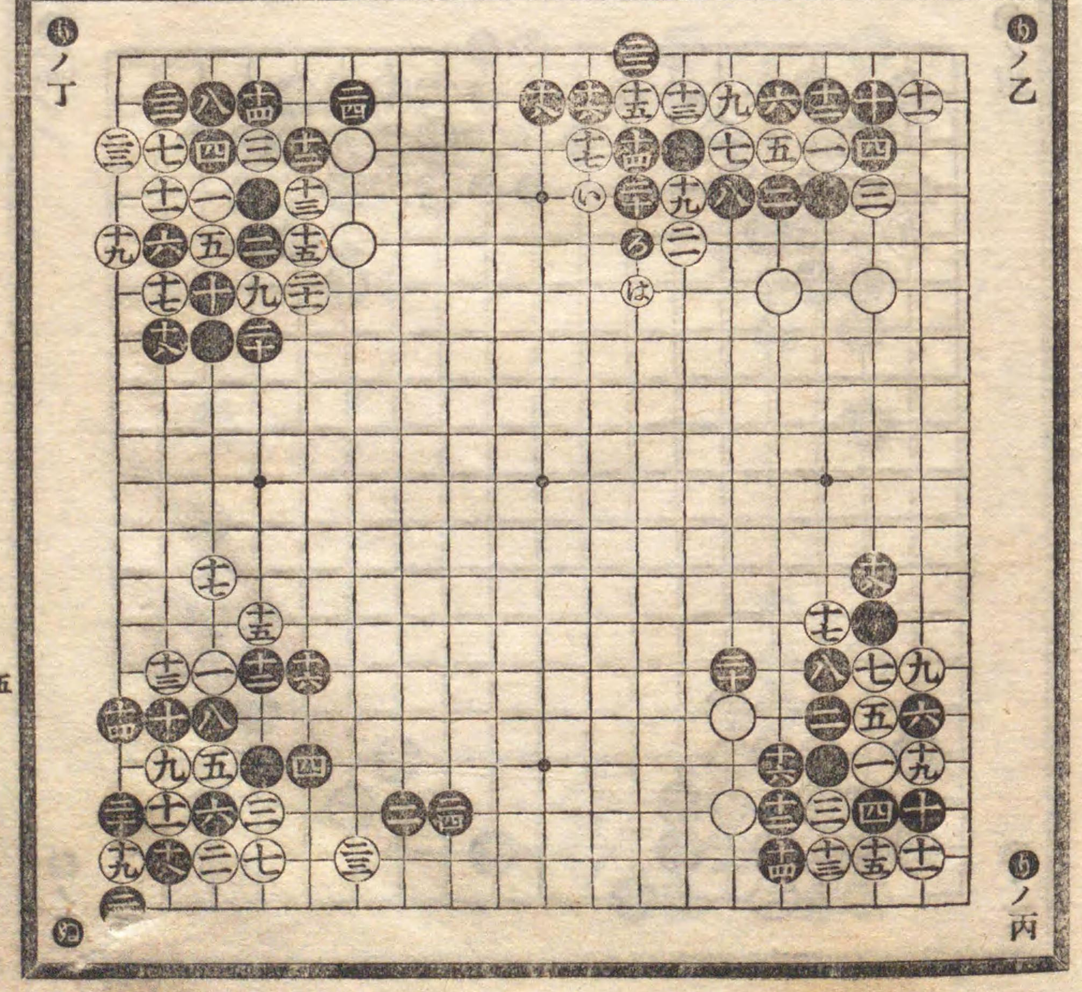
り角黑手拔切 違ひ腹付の變化を示す白五と並し時黑六と附るを腹附と云ふ是は古碁に於て專ら打し手なれども今は六の手を十二の處へ駆込み而して七の處へ押へるを普通とす然れども場合によりては腹附に打も可なり故其變化の大略を示す

り の乙同變化此局黑十と下りし時白十一の附よし黑十二と粘ぎ白十三へ曲り手順を追ひ白十七を切り黑十八へ行ひ白十九を切り黑二十へ曲り白二一へ行ひ黑二二へ綽げし時白㋷押へ黑㋷へ行出し白㋷へ綽げ黑の征に掛る場合には此定石黑の不可なる言を俟ず故に征當りに能々注意し打べき定石と知るべし

り の丙同く變化白十一と附けし時黑十二、十四、と押切り而して十六の手順よし倘白十七を切し時黑十八へ並び白十九へ打し時黑二十と附し手順尤もよし

り の丁同く變化黑六と附し時白七と綽げ而して九へ綽げし時黑十と切り圖の如き結果を得に至ては黑の形勢優等なりと知るべきなり 六 つぐ

㋷角小斜走掛り切違ひの異變化を示す黑六と切し時白七と下りしは卽ち異變化の原因なり此時黑八へ駆込十と押切り而して十二と綽し手順よし此時白十三の押へ無理なり何となれば黑に十四と下がられては黑より十八へ打れては白死石なればなり此押へ白黑ともに心得べき手順なり



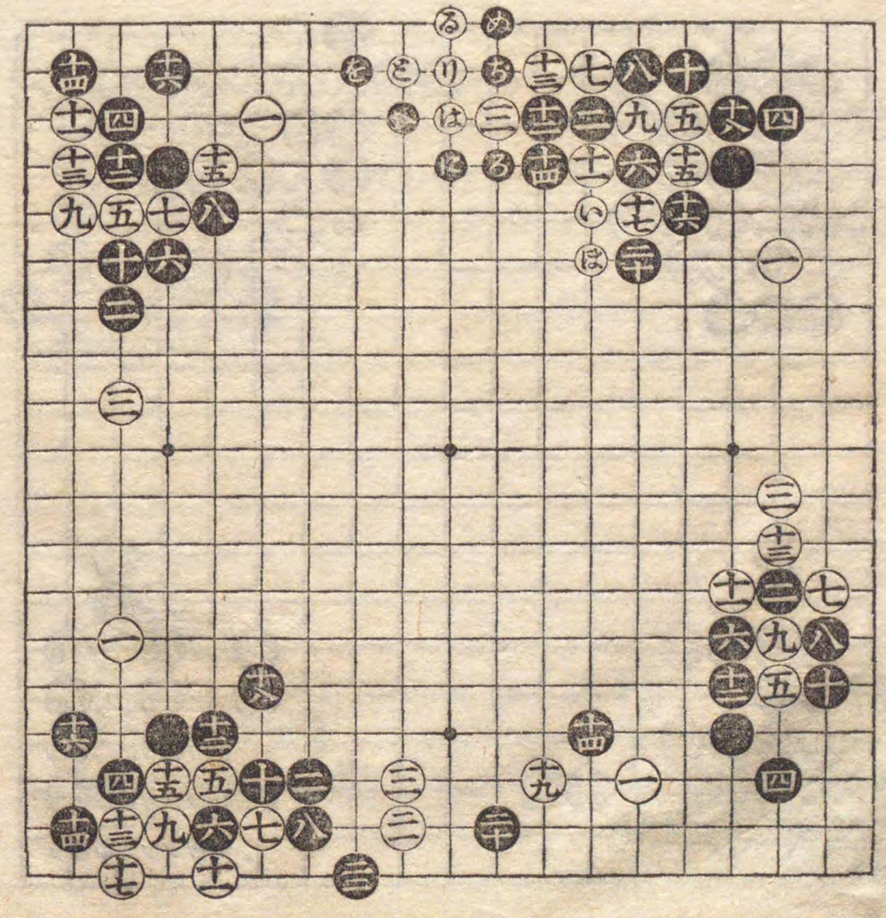
るの角白小斜掛り黒大斜走締を四と尖む事古碁に見る處なれども今は一の白へ響き薄しとし絶て打ざる形なれども場合によりては打も可なりとする事有べし故に其變化の大略を記す白五と打込し時黒六の尖よし又白七と附し時黒八と押へ白九へ突込黒十へ並し手よし尚手順を追ひ黒二十と征に掛りては白の潰なり若し白に征の受有りて白ぬへ征を出し時は黒るへ押へ白はへ黒ぬへ押へ白はへ脱し時黒をへ押へ白とへ締けし時黒ぬを切り白りへ黒ぬへ下り白るへ押へし時黒ぬへ迫手と押るを以て白死石となると知べきなり

るの乙同く變化白十一と切し時黒十二と押へ而して十四と掛し手段場合によりては尤も面白し

るの丙同く變化白七と突出し而して九と下りし時黒十の手よし又白十一へ附し時黒十二へぐずみ十四と押へ白十五を切りし時黒十六の掛粘面白し斯く白死石となりては白大にあしし

るの丁同く變化黒十八の掛粘ぎ左右の白に響き味よき手なり黒二十の打込は二二の尖みを含み手段面白し

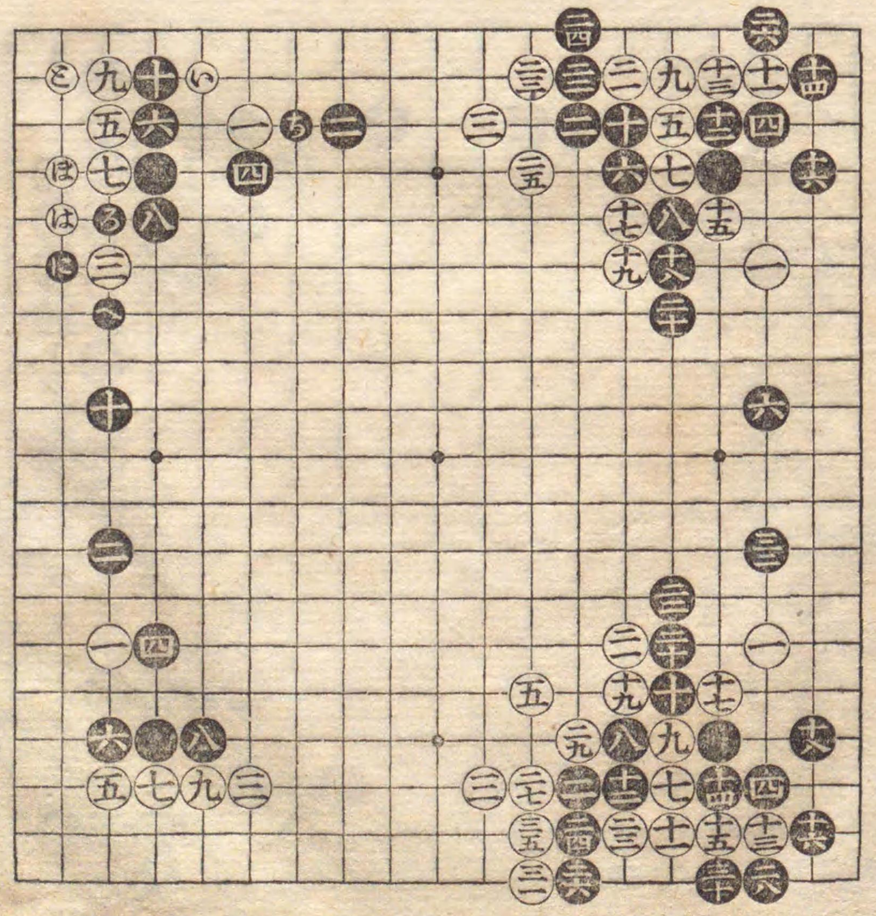
るノ丙



るノ丁

るノ乙

るノ戊



るノ己

るの戊同く變化白十七を切り十九へ押へ二一、二三と手順を運び二五と先手外面を蓋ふと雖も六子を捨し效力薄し之れ白の十七十九の手無理筋なればなり

るの己同く變化白五と打込を含み打たるに黒は遠く慮り六と打しは面白し此時白七と打込み黒は五子を捨て振替の手順として三十まで打堅附け而して三二に振替りし手段尤もよしとす

るの角白一と掛りし時黒二と詰返しの變化を示す白三と兩掛に打し時は黒四と附るを普通とす此時白五へ打込黒六へ押へ白七引し時黒八行よし此とき白若し九の手を十の處へ締けしならば黒九の處を切るを法とす白此時ぬへ行なば黒るへ突出し白はへ黒ぬを切り白はを粘ぎ黒をへ締け白とへ九の一子を押へし時黒をへ押へるを以て黒の優勢と知るべきなり

るの乙同く變化黒八と行し時白九と粘しならば黒此所手拔にて十と打を割合吉と知るべきなり

なの丙同く變化黑二と一間詰返しにして白三と立し時は黑盤りを含み四と打つは古來の定則なり此時白外面より五と詰し時黑六と盤るは道理上當然の手なり尙白十三を切り黑十四へ下り白十五と並びし時黑十六の打尤もよし何となれは此時白ゐ白押へ黑なの覗き白はへ粘ぎ黑にへ押へ附る結果となればなり

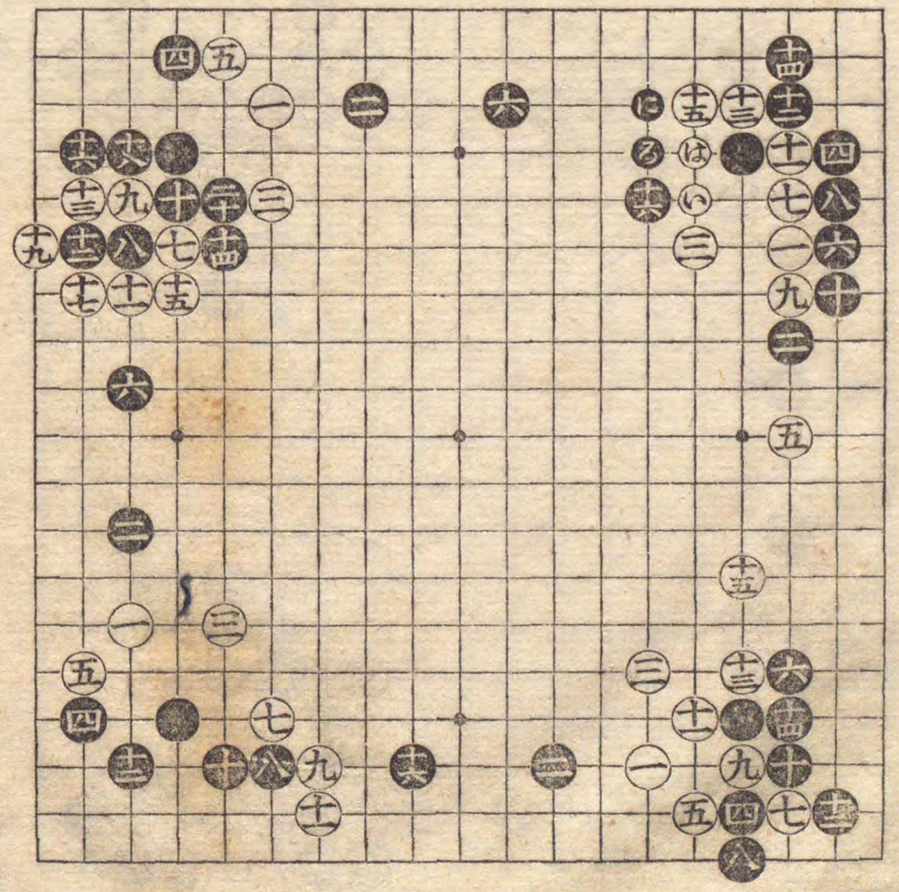
なの丁同く變化白五と尖附し時黑六の尖よし白九と割込み黑十へ押へ白十一へ孕れ黑十二へ押へ白十三へ當て十五へ飛し時黑十六の二間啓きよし

なの戊同く變化白七と打し時黑八と附るは古碁の手順なれども此八の手は定石解の三手拔の部に在る如く十三の處へ斜走に打を優れりとす尤も此十三の處へ斜走に打は故秀甫本因坊の發明なり

なの己同く變化白七と斜走に掛け黑八と附け白九へ押へ黑十と引き白十一と下りし時黑十二と打し手輕くして味よし

元來此一間夾の定石は支那より渡來の時支那碁に見へし定石にして根元古き事此の如し

なノ丙



なノ丁

なノ戊

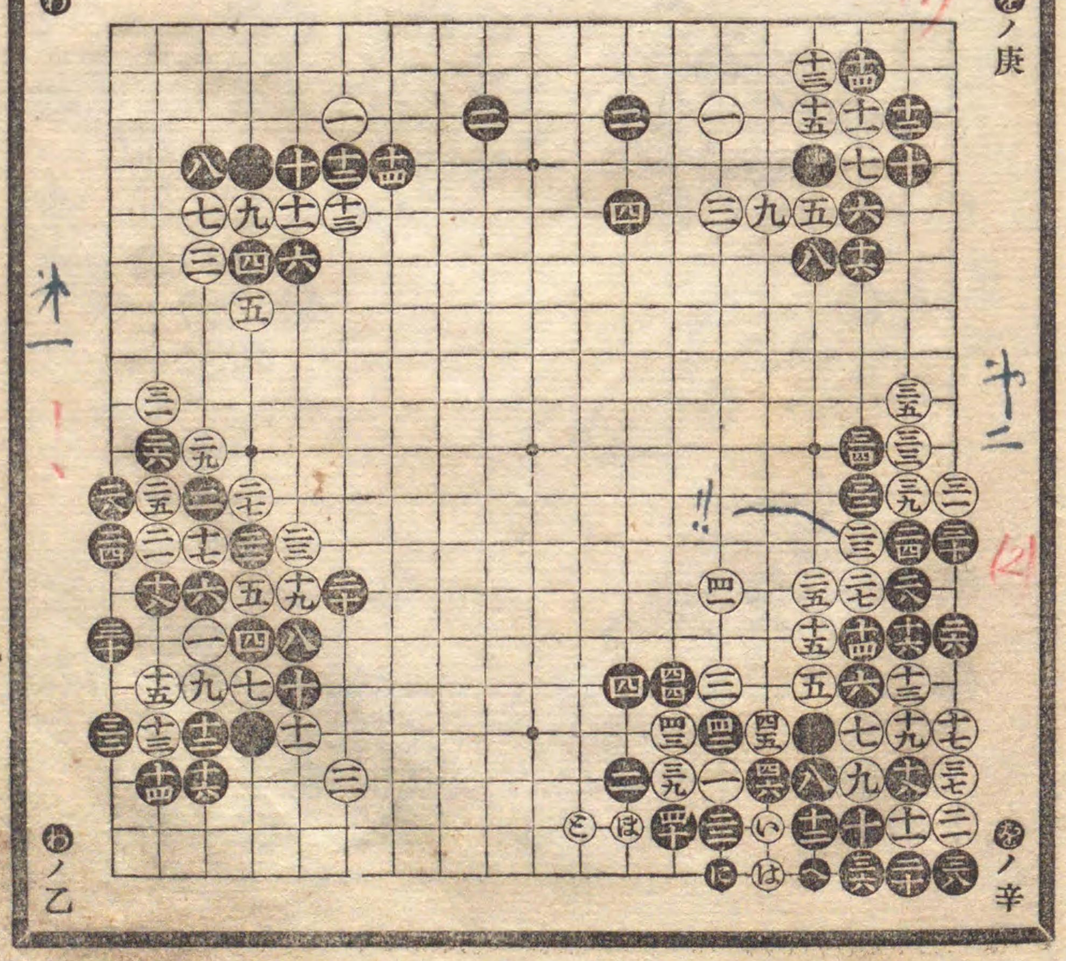
なノ己

なの庚同く變化にして白三と飛び黑も四と飛し時白五と附黑六へ綽け白七を切し時黑八へ綽け而して十へ綽け十二及び十四へ當て十六と粘ぎては黑の手割よし

なの辛同く變化白七と切し時黑八と下りしより此大戰を釀すものにして夫々手順を追ひ白四一と打し時黑四二へ割込み四四、四六と當たる手順よし若し白四一と飛し時此の手順を下さずし手拔の時は黑に大害を生ずるものとす如何となれは其時白ゐへ割込み黑四六の處へ押へ白はへ下り黑にへ押へ白ほを切り黑へへとりし時白とへ行る手有ばなり

角は黑二間詰返しの變化を示す黑二と外面より詰返せし時白三と兩掛りに打し時は黑四の附けをよしとす而して白五黑六白七黑八白九と突出せし時は黑十、十二、十四と行切るを可とす圖の如く一と黑の四、六の二子と交換は黑方の利益と知るべきなり

わの乙同く變化此局白十九と押したる時黑二十の綽けよし白二一と押へし時黑二二を切り二四、二六、二八と手順を追ひ而して黑三十と尖み白を取りし手順尤もよし此結果となりては黑の優等は言を俟ざるべし



なノ庚

なノ辛

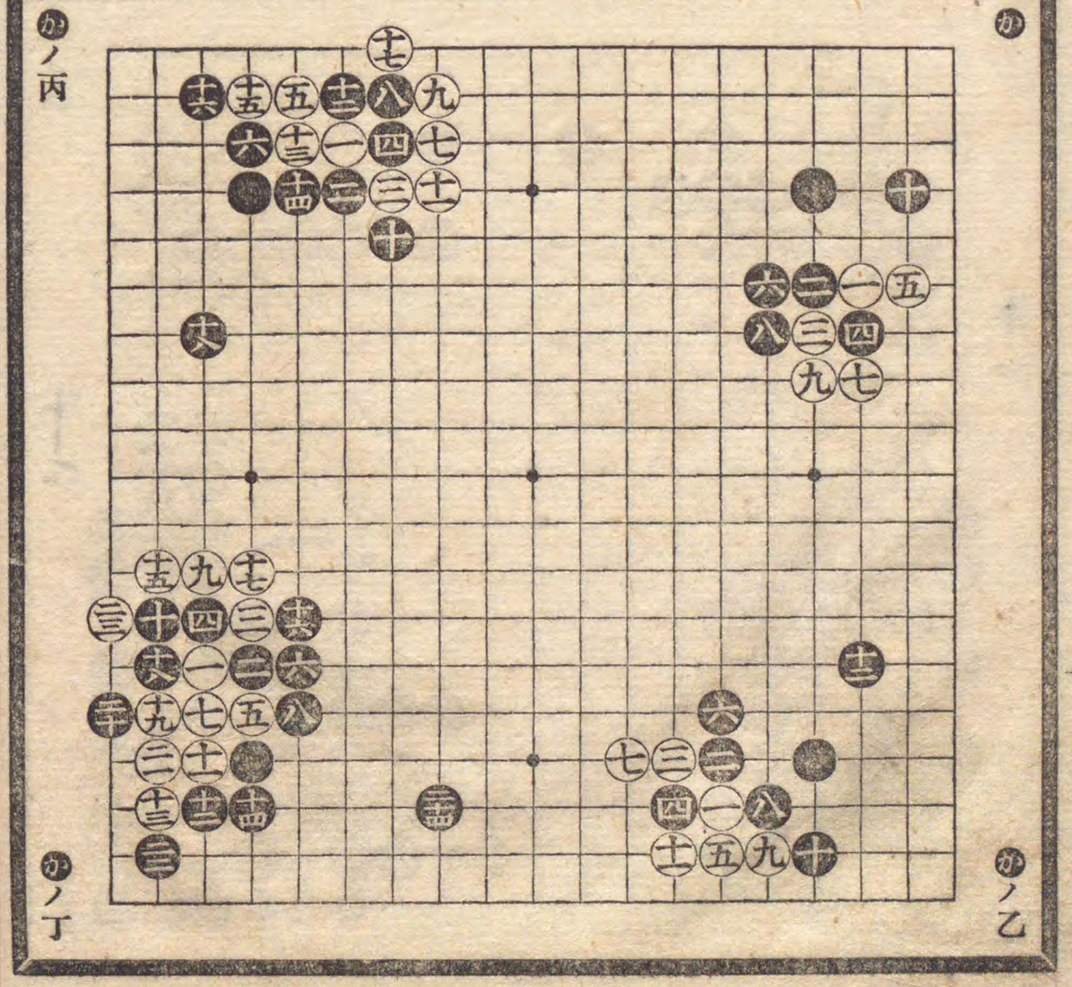
わノ乙

㋕角黒の附手切返しの變化を示す黒四と切り白五へ下りし時黒六の行よし此時白七へ抱へし時黒八と押へ而して十の飛び輕るし

㋕の乙同く變化白七と並びし時黒八へ押へ白九へ曲り黒十と押へ白十一と曲りし時黒十二と小斜走に締りしは打込を防ぎ堅くしてよし

㋕の丙同く變化白五と尖みしとき黒六の立ちよし白九へ押へし時黒十へ綽け而して内より十二へ當て十四と押へし手順よし猶黒十六と押へ十八と啓きては黒方手割優勢なり

㋕の丁同く變化白五へ駆込み七と粘ぎ黒八に押へ白九へ綽け黒十へ下り白十一へ曲り黒十二と二段に押へ白十三へ綽し時黒十四の粘ぎよし此時白十五へ押へ黒十六へ當て而して十八、二十と打堅附二二と綽げるは總じて斯の如き場合に於ては斯く手順を運び打を定則とす猶此場合に於ては大斜走より一間廣く二四と啓くを利益とす

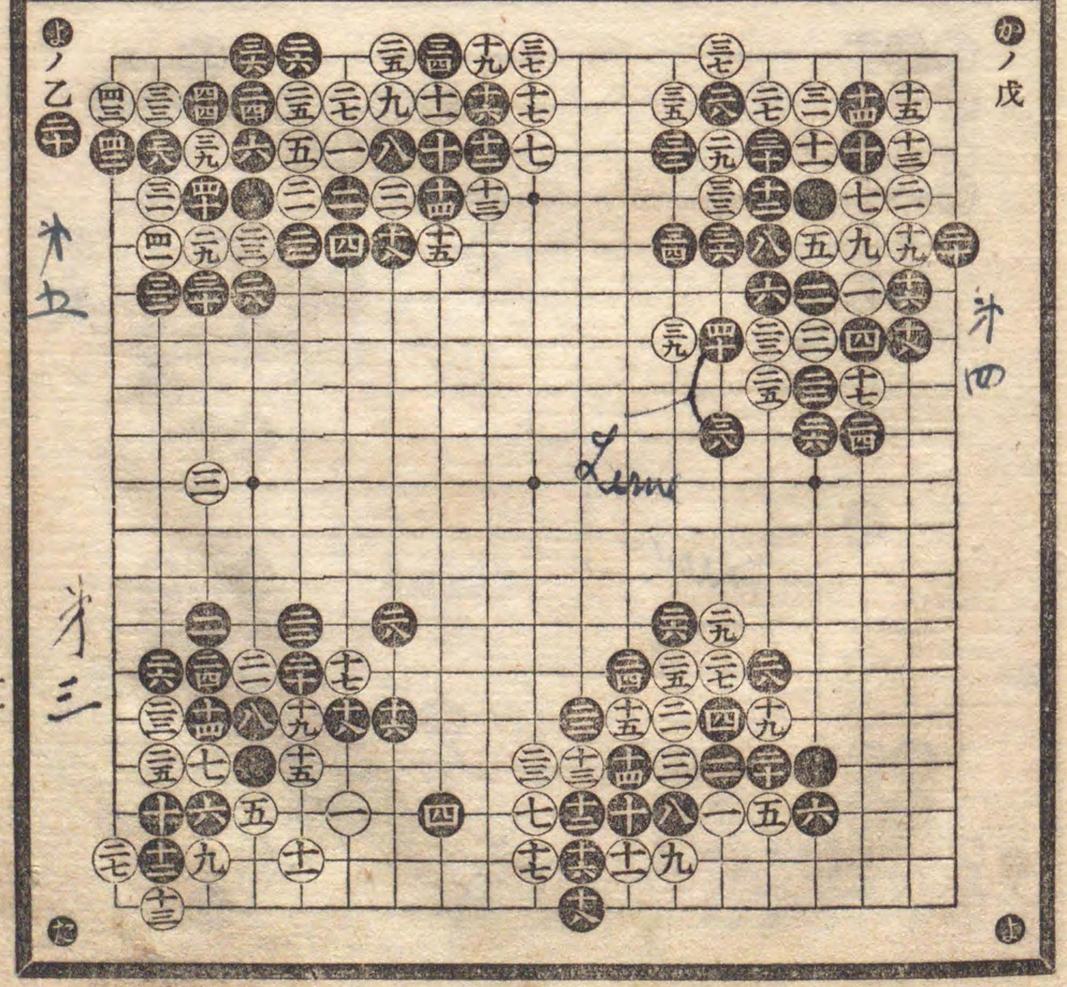


㋕の戊同く變化白十三へ綽け十五と押へしより此變化を來たしたるなり此時黒十六の綽けよし猶手順を追ひ白二七と尖み黒二八へ附け白二九へ綽け黒三十及び三二へ綽け白三三へ行出せし時黒征に追へざれば三四と門に掛け白三五を切し時黒三六へ當て而して三八と掛け白三九へ飛し時黒四十へ割込白の三子を取し手面白し

㋕角黒附手にして白七と三間に啓し時黒直に八と切し時の變化にして黒の陷り手を示す元來此時黒八と切し意味は白より二一の處へ出切を先手に防ぐ捨石に打たるものなり故に白九と下より綽けこの出切を實行せんとす黒十、十二と突當り白十六の處へ押へしならば黒十五の處へ門に掛け一子を取らんとす然るに白意外に十三と綽け黒十四へ出白十五へ押へ黒十六へ下り白十七へ押へし時黒十八へ行切りしは卽ち陷りなり此時白十九と妙手を打れ圖の如く黒不利となるなり猶乙局に陷らざる手順を示す

㋕の乙同く變化白十七と押へし時は黒十八と一子を取を必要とす此時白十九と先手に磐り而して白二一へ出切し黒二四へ下り白二五へ押へ黒二六へ綽け白二七へ粘し時黒二八へ押へ手順を追ひ白三三へ飛し時黒三四へ打交へ三六と粘手肝要なり而して三八へ割込ば圖の如き結果となると知るべきなり之卽ち陷りとならざる手段なり

㋕角切遮の異變化を示す白十七の手面白し然れども圖の如き結果となりては黒方優等なり

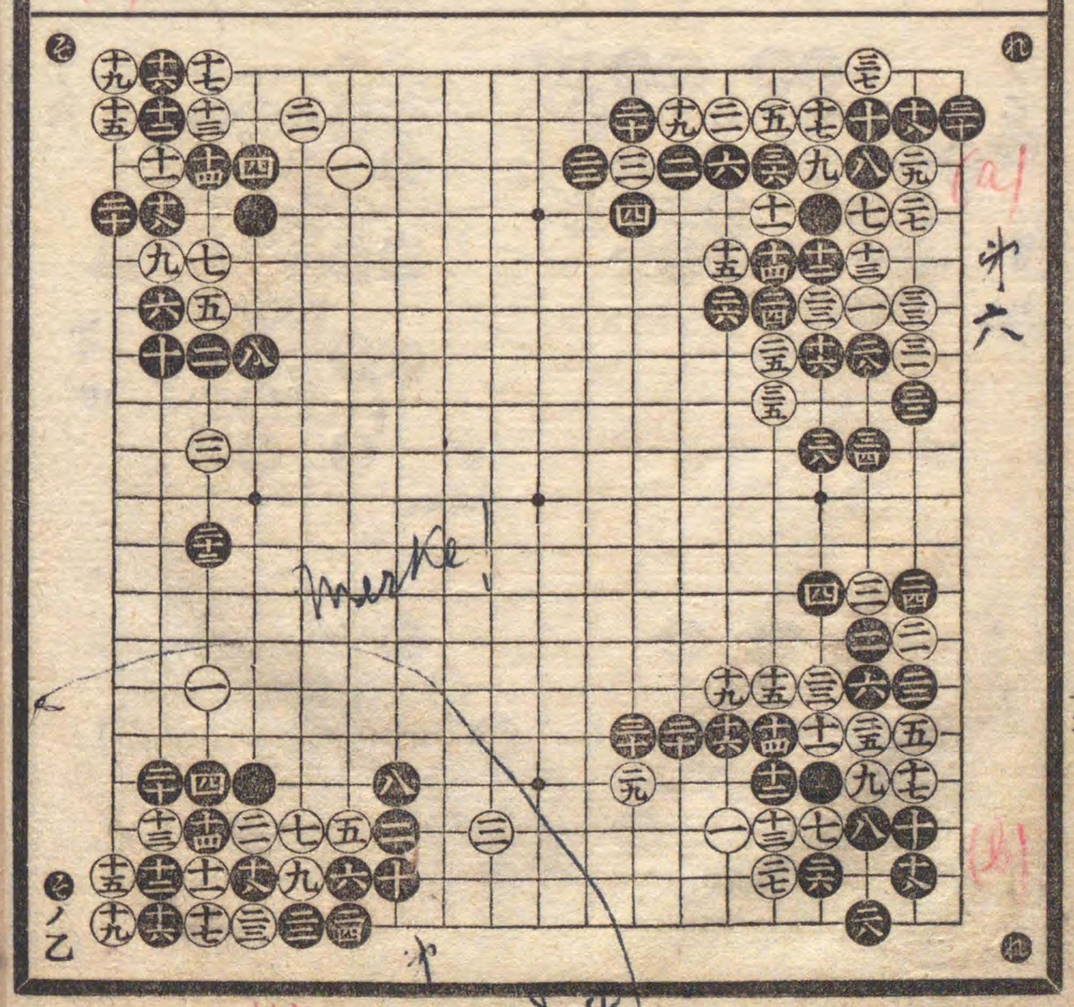


㋹角は大斜走鼻附　古碁の變化を示す白九と切し時黑十の下よし又白十七と押へし時黑十八の曲り肝要なり白十九へ附け二一と引き手を行ばしたる手順面白し白二九へ突當し時黑三十の下りよし白二五へ行しに黑は征防ぎに三六を切り先手を取り㋺三八と並びし手順働きあり

㋻の乙同く變化白十五と綽し時黑十六の曲りよし尤も此手にて前局と變化する處なり此局白二一の妙手にて白切拔けしと雖も圖の如き結果となりては黑方優勢なり

㋼角は大斜走　締打込　異變化を示す白五と内附の時黑六と下より綽けしは普通に異る處にして決局二二へ打の趣向に出たるなり白七と並ひし時黑八の立よし白十一と打し時黑十二へ附十四と切通常なり此時白十五へ綽け黑十六へ行白十七へ黑十八へ白十九へ取り黑二十へ行下り白に半數を盤せ黑二二と打しは場合により面白し

㋽の乙同く變化圖の如き結果となりては白死石となり大に不可なり之は白の卒忽より生じたる災害なり如何となれは黑十四を切し時白十六の方より十五と綽ければ前局の如き結果となるべきを白十五と外より綽し故なり尤も白の心得べき手順なり

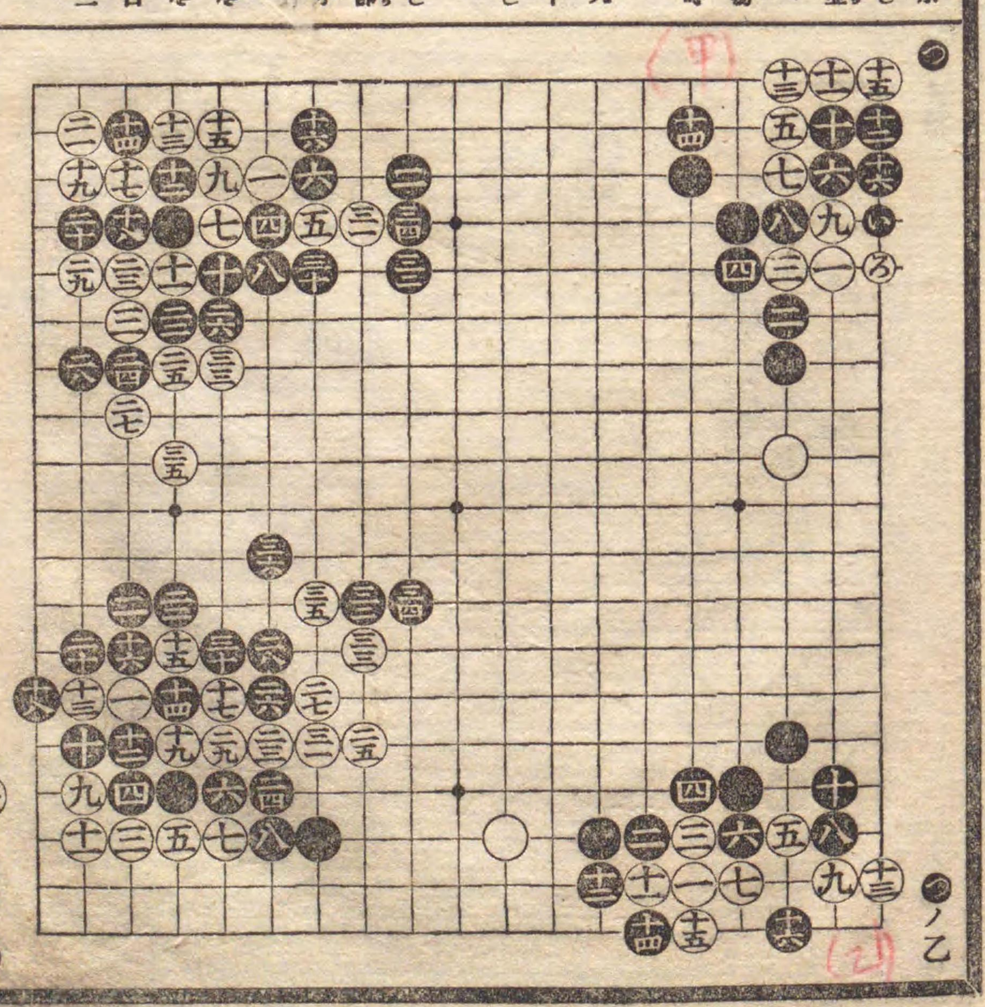


㋾角は黑大斜走　尖　締へ對し白の打込たる手順の結果を示す白一と打込し時は黑二と並ぶを定式とす此時白三へ出而して五と打し時黑六と打も定則なり白七と出切を打ち黑十へ並び白十一へ綽け黑十二へ曲りし時白十三へ粘き而して十五へ追手と打つ時は黑十六とぐつむ手にて白死石となるなり此場合にては白十三の粘の手にて十六の處へ打込み黑㋺へ取し時白㋻へ押へ劫に打の外白に手段なきものと知るべし

㋿の乙同く變化白五と打し時黑六へ突出し而して八へ附白九へ綽し時黑十の引きよし白十三へ行切り黑十四へ綽け白十五へ押へ黑十六へ置を以て白死石となるなり之黑の十と引し手によるものとす

㋺角は白小斜掛り黑二間詰返の異變化を示す白十五と粘し時黑十七の處を粘がずして黑十六と下りしは異る處にして卽ち此變化を生じたる處なり尤も黑右方に大模樣在るときは小なりとするも此一部分に於ては黑の不利とす

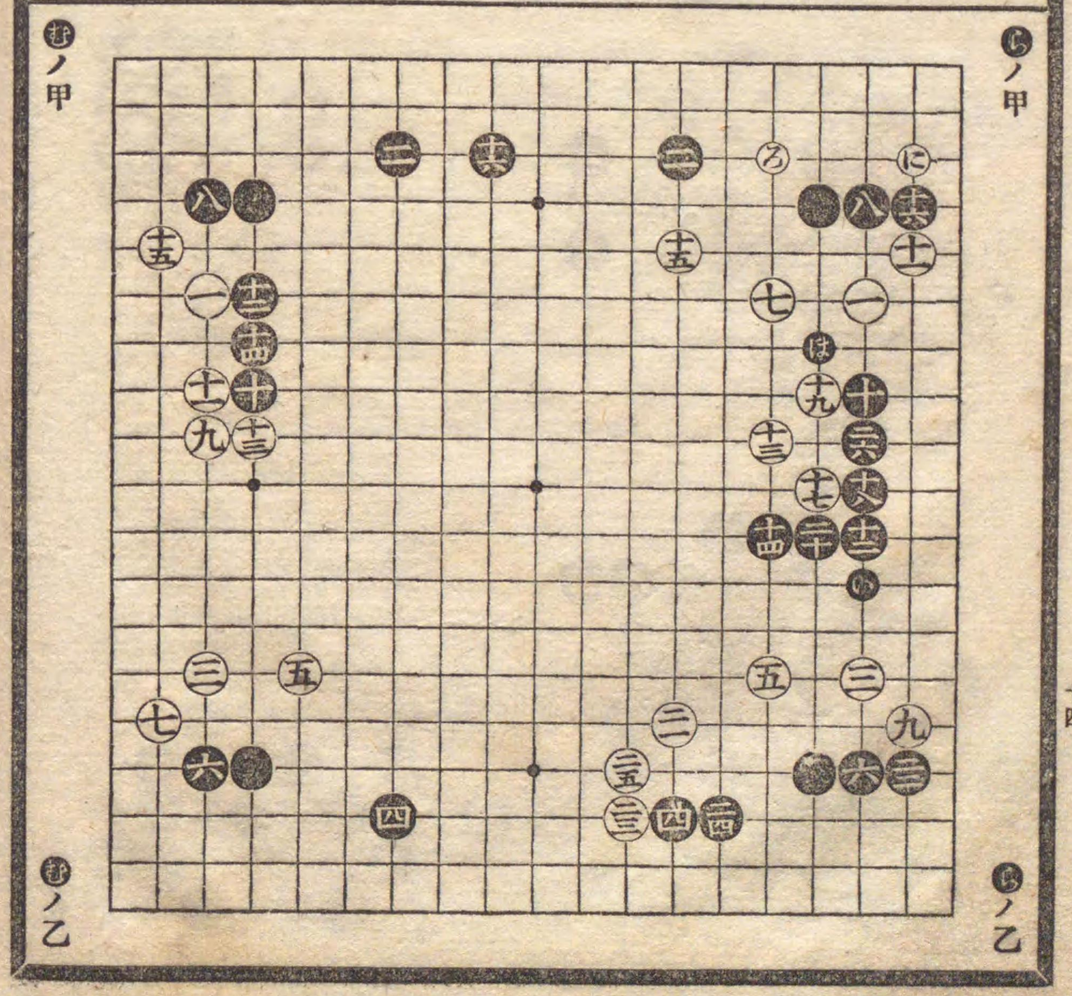
㋻角黑大斜啓き在處へ白一と掛り黑外面より二と夾し變化を示す白十三へ押へし時黑十四へ綽け白十五へ驅出し黑十六を切り白十七へ綽けし時黑十八へ綽け二十と押へし手順よし白二五へ飛し時黑二六へ打しは妙手なり又白三五へ打し時黑三六最もよし



四子置碁之部

ち甲乙二角に關する古碁の立石を示す古碁に於ては白一と掛る時は黑必ず二と大斜走に受るを定例とする處なれば自然此の石立の形を生ずるものとす併しながら此大斜走啓きは之に關する意味を解し打つ時は最も能き手なり白五と立ち黑六と締り白七と飛び黑八と締るは定則なり此時白九と尖みしは黑の地面を消の爲に非らず黑の㋩へ打込を防ぎしなり故に黑は此尖込みなき方へ盤を含み十と打込を禁とす此時白十一へ尖み盤を防ぎたれば黑十二へ啓き活形を造りしなり此時白十三と打しは上面を掩はんとす故に十四に立しなり白十五と打しは㋭へ打込而して㋬へ飛込手有を以て黑十六と押へしなり白十七と尖み込し時十八と押るを通則とす白十九の時黑二十よし白二三へ附し時黑二四と並も定則なり白二五へ引し時黑二六は㋩へ勝出を含尤もよし

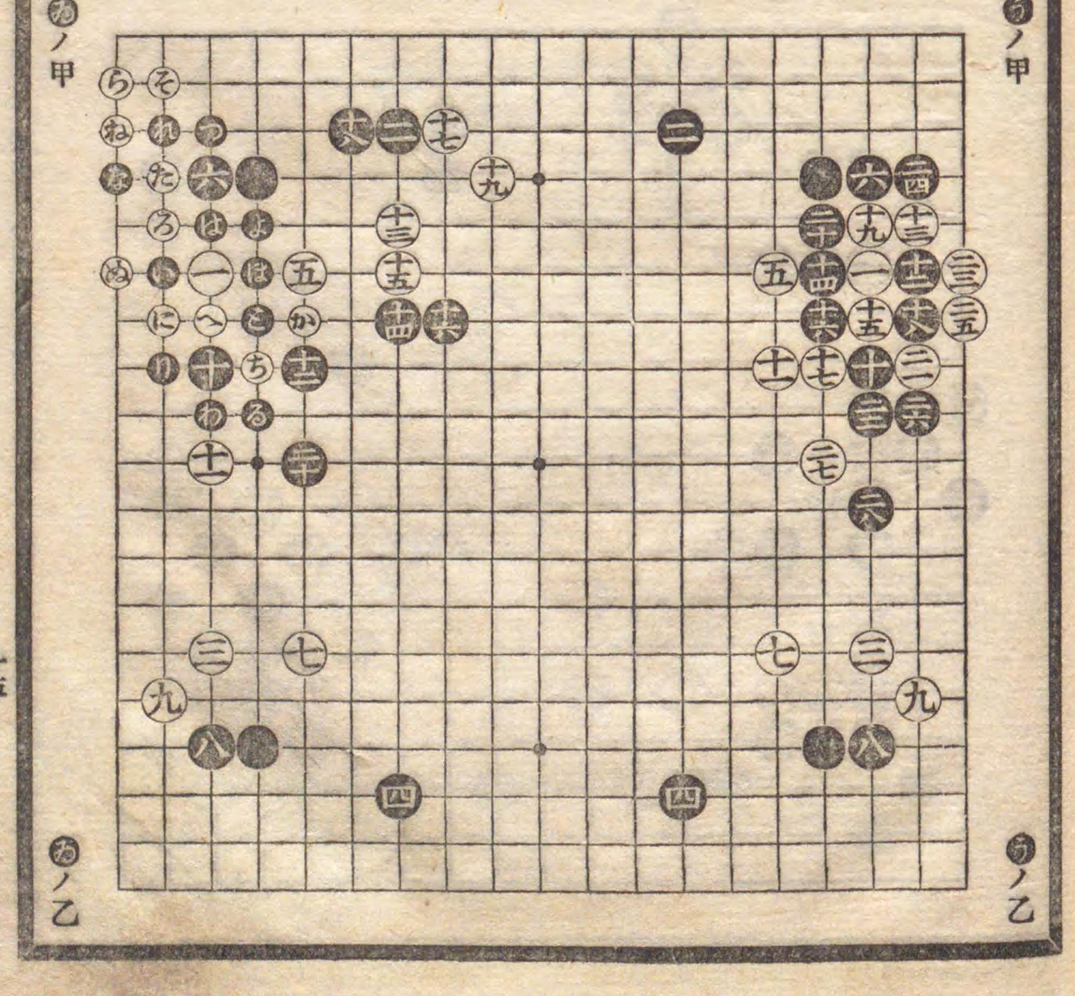
む前同斷石立白七と尖し時黑八の締よし此時白九と啓しを以て黑十と覗き十二と附け白十三と押へし時黑十四の捧粘よし此時白十五へ尖込し時黑十六の一間啓最もよし斯く打ては黑にまぎれなく黑の地位優勢なり



む ノ甲　ち ノ甲　む ノ乙　ち ノ乙

う の甲乙前同斷古碁の石立を示す黑十と打込し時白十一帽子に打し時は黑は盤りなきものとし普通二十八の處へ二間に啓くを慣習とし古來打ち來りしなれば此黑十二へ附け十四へ割込手は棋家の祕密とし公けにせざりし故なり此時白十五へ突當り黑十六へ押へ白十七を切し時黑十八へ押へ而して二十と押へる手順肝要とす此時白二一を切り黑二二へ行び白二三へ綽け黑二四へ押へ而して二六へ押へられては白如何とも手段なし

ね の甲乙前同斷古碁石立を示す黑十と打込し時白十一と夾みては黑は十二と飛を可とす然るを盤り有と心得飛ずしてゆに附盤らんとするは不可なり何となれは此時白ろへ押へ黑は を切り白に へ黑は へ白へへ黑と へ押へし時白ちを切り黑り へ白ぬへ取り黑る へ綽け白十二の處へ行び黑ゆを粘き白かを押へ黑ゆを粘ぎ白たへ行出し黑れに押へ白そへ附け黑つに粘き白ねに盤りし時黑ゆへ打込なば白らへ粘き又白らの處へ打込なば黑ゆの處へ粘ぐ手有を以て黑の不利となる故に十二と飛を可とす又白十三と帽子に打し時は黑十四と上より斜走に打ち白十五と突當りし時は十六へ行を可とす白十七へ附し時黑十八と並び而して二十と打し手順尤もよし

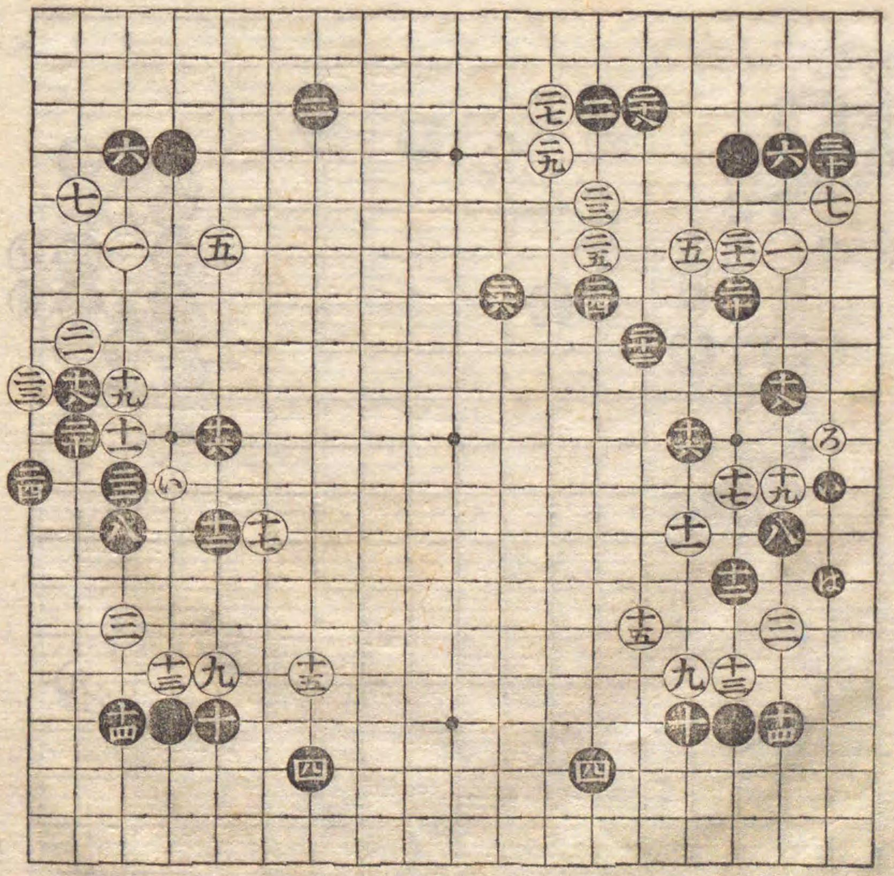


う ノ甲　ね ノ甲　う ノ乙　ね ノ乙

㋩の甲乙前同斷甲乙連形の石立を示す白九と斜走に掛りし時黑十と受け白十一と帽子に掛し時黑十二へ尖込白十三へ押へ黑十四へ下るは定則にして尤も大場なり此時白十五へ尖し時黑は八、十二の二子を捨て十六、十八と先手に打し手段よし而して二十へ覗き二二と打しは形ちよし又白二三と打しに二四、二六飛しは前局に問々見る處にして普通の手順なり而して白二七へ附し時黑二八へ並び白二九へ引し時黑三十の押へ手順よし此石立は黑に手を殘し有れば尤も優勢なり如何となれば黑の手順を得れは黑㋭へ綽け白㋩に押へ黑㋬へ掛粘ぐ手を殘しあればなり

㋬の甲乙前同斷石立の變化を示す此局白十七と附し意味は㋩へ覗き込を含みし手なり故に黑も之を知り十八と打しば妙手なり白止むを得ず十九へ押へ黑二十へ引き白二一へ押へし時黑二二へ突當り㋩の覗きを防ぎしのみならず黑に確なる活を備へたり但し四子を置きては白七と尖みし時八と打が如く白地の模樣未發防く事最も肝要の心得と知るべきなり

㋩ノ甲



㋬ノ甲

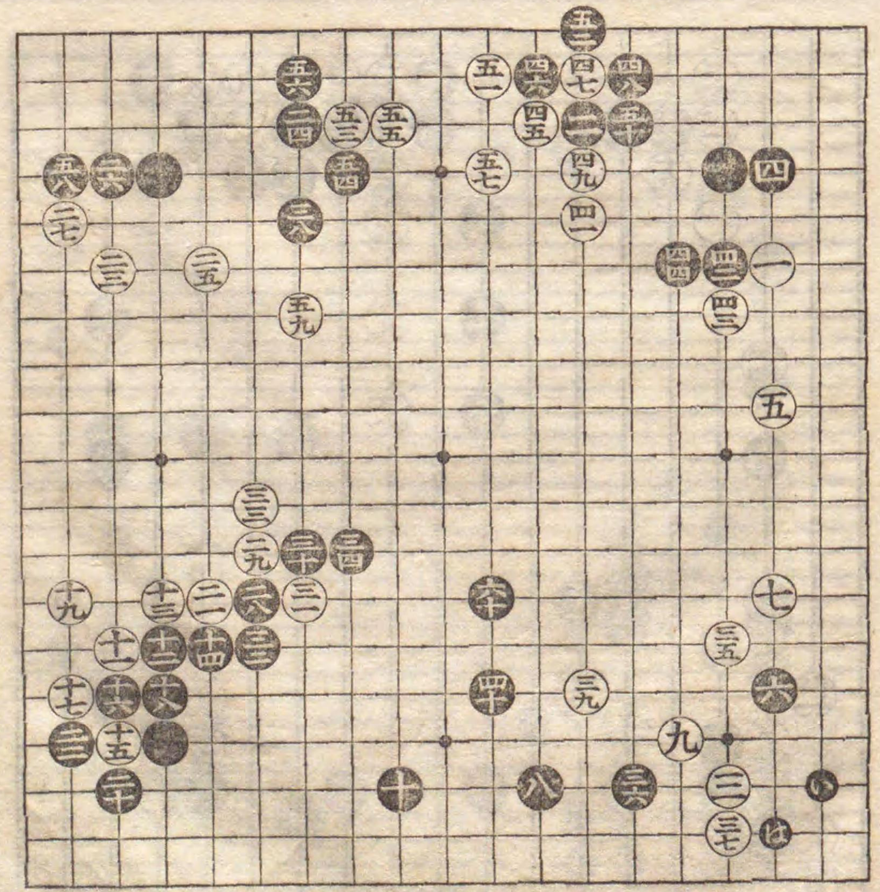
㋬ノ乙

㋩ノ乙

古碁三目の石立を示す

㋭此局に就て着手の理由大略を説明すれば白一と掛り黑二と啓くは古碁の習慣なり此時白三と明角へ着手するに拘はらず黑四と締る手よし此時白五と啓くは當然なり此時黑六と掛りよし此時白七と一間に詰しを黑直に六の石を活るは不可なり八と外面より詰返し六の一子を捨十と啓しは割合上黑大によし又白十一と掛りし時は已に八、十の配石在を以て黑十二と附手に打を最上とす黑二十と綽し時白二一へ押へし時は黑二二へ打貫を定規とす白二七へ尖み大模樣を取し時黑二八へ綽け三十と二段に押へ白三一を切り三三へ行し時黑三四へ並びし手順及び趣向よし之れ族姻心を發せず道理上區域の分配なればなり此時白三五と打しは黑㋬へ打ち活有が故なり此時黑三六と打しは㋩へ打ち白三七の處へ押へれば黑㋬へ尖み活有を以て白三七と下りしなり白四一と帽子に打し時黑地を圖はず四二と附白模樣を未發に防ぎし手順よし白四五へ附け四七と切るは黑をせばめる手順とし普通打つ處なり猶白五三へ附け黑五四へ白五五へ黑五六へ白五七へ掛粘し時黑五八の押へ手順よし此時白五九の大場を打ちし時黑六十と打てば黑の優勢確なり

丙



㋭ノ甲

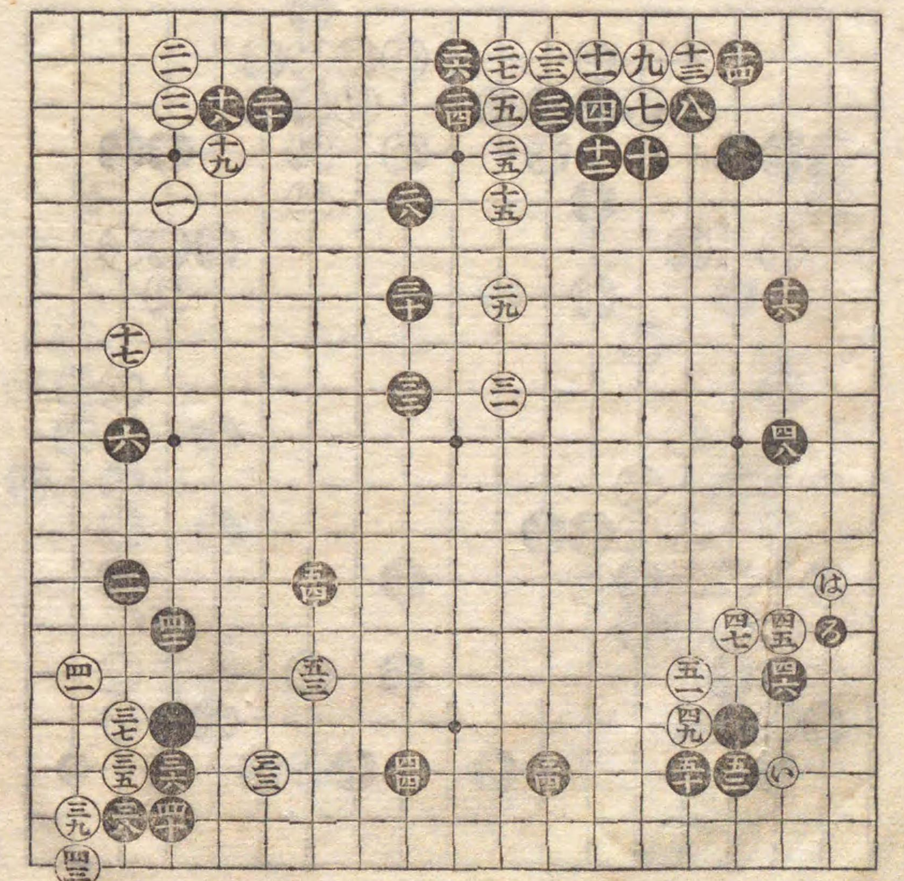
丁

乙

同く三目の石立變化を示す

やの甲乙丙丁白一と高目に打し時黑二へ大斜走よし之は丙角の方を白の地盤と認め其白の地位を減じ黑の地位を設けし意に出たるものとす此時白三と締り白の根居を占し故黑も其白の根居へ向け四と打ち黑の根居を設けしなり此時白五と啓き地位を廣め黑の根居地へ打入を含たり故に　黑も六　と目下へ啓黑の地位を廣め白の地位へ進入を含みたり此時白七へ打込黑八の尖附よし白九へ黑十へ白十一へ曲りし時黑十二の粘よし此粘の爲に白十五飛ばさるを得ず此飛びなき時は黑より二四の處へ附る手有るなり此時白は黑の進入を防ぎ十七と打し時黑直に十八へ附しは時宜を得たるものと云ふべし白二一へ下りし時黑二二へ突當り而して二四へ附け二六へ下り二八、三十、三二と運びし手順よし白三三と打しは丁角へ打込を目的とする處なり黑も之を知り其打込を實行なさしめ黑は外面に利益を得る手段にて三四と打ち乙角の地位を占めたり此時白三五へ打込黑三六へ白三七へ並びし時黑は外面に望み有るを以て三八へ綽け白三九黑四十へ白四一へ黑四二へ白四三と活打し時黑四四と二間に詰し手順よし白四五と掛り黑四六と尖附け而して四八の啓き大によし此啓にて白のかへ打込を防ぎしなり何となれば其時黑るへ綽け白はへ押へれば黑五二の處へ打手有ればなり故に白も四九へ附此結果となるの外なし

やノ甲

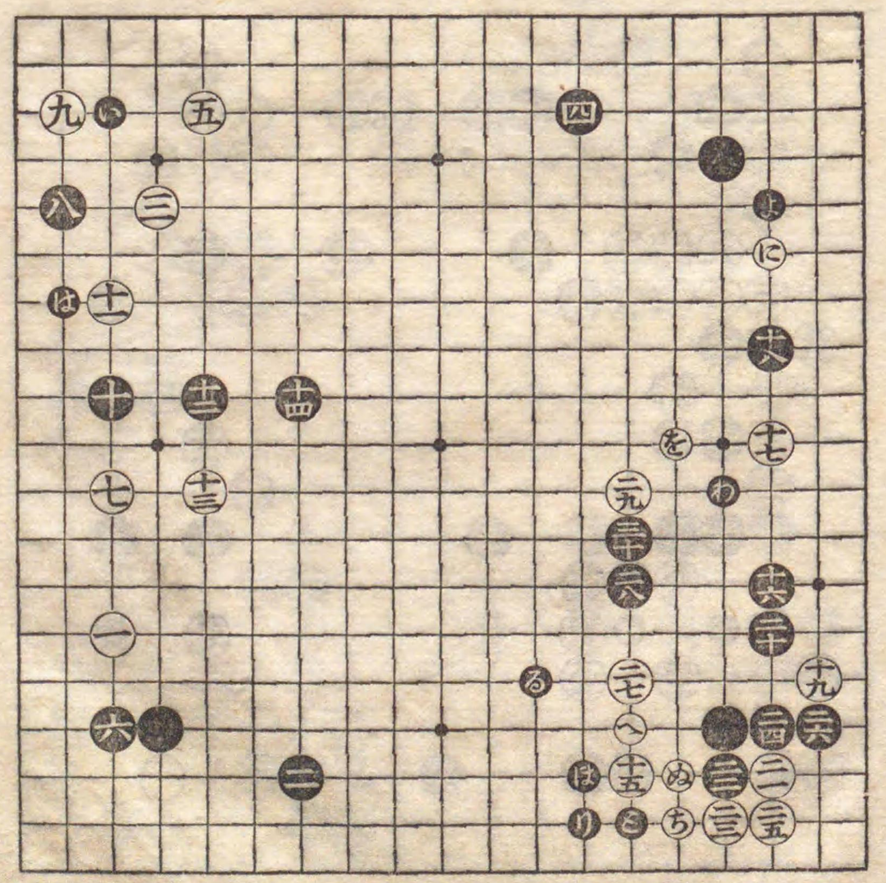


丙　丁　乙

同く三目石立の變化を示す

きの甲乙丙丁白丁角へ一と掛り而して丙角へ三と高目に打し時黑四と打しは前局と意味同じ　此　時　白五と締し時黑六の締りよし白七と啓し時黑八の打込よし此時白九と打しは㋷へ打てば活有を以て白は止を得ざるなり黑十と打ち白十一と打しに八の二子を捨十二、十四と立しは好手段なり尤も㋷へ附る手を殘し置きたればなり白十七の手は專ら㋷へ打掛を含みたれば黑十八の詰急にしてよし又白十九へ打ち黑廿へ並び白二一及び二三と綽けし時黑二四へ押へ二六と立切りしは白の十七の一子を益々　薄　弱とし尤よし此時二七へ立たざる時は黑㋷へ附け白へへ立てば黑とへ綽け白ちへ黑りへ白ぬへ粘し時黑るへ打手有を以て白二七と立たざるを得ざるなり此時黑二八の帽子は白の左右へ響き好着　手　なり故に白二九へ打ち此響きを防しなり此時黑三十の突當り尤もよし爰に於て白應手に苦む處なり假令ば此時白ぬへ打てば黑ぬへ覗き而して㋷へ尖み黑地を堅固打つ時は黑の形勢最も優勢となればなり

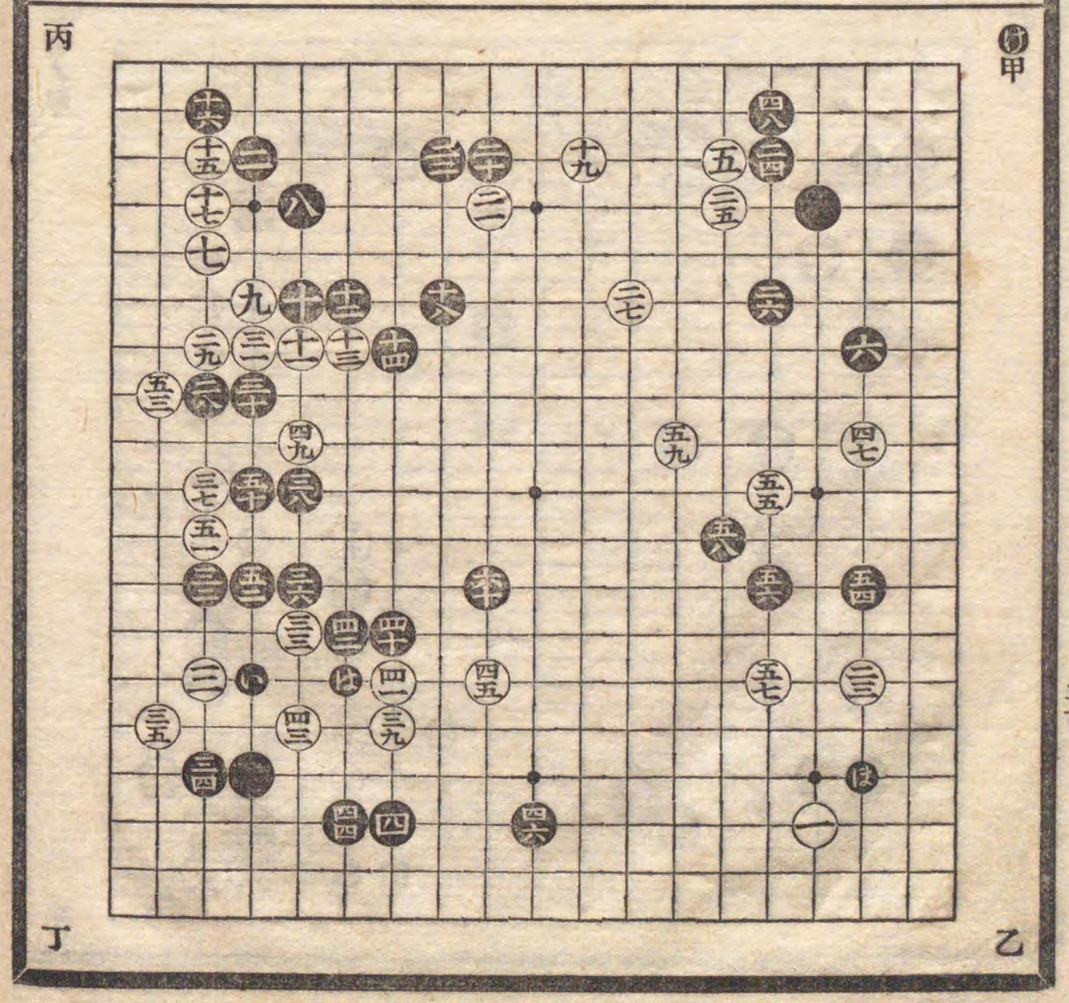
きノ甲



丙　丁　乙

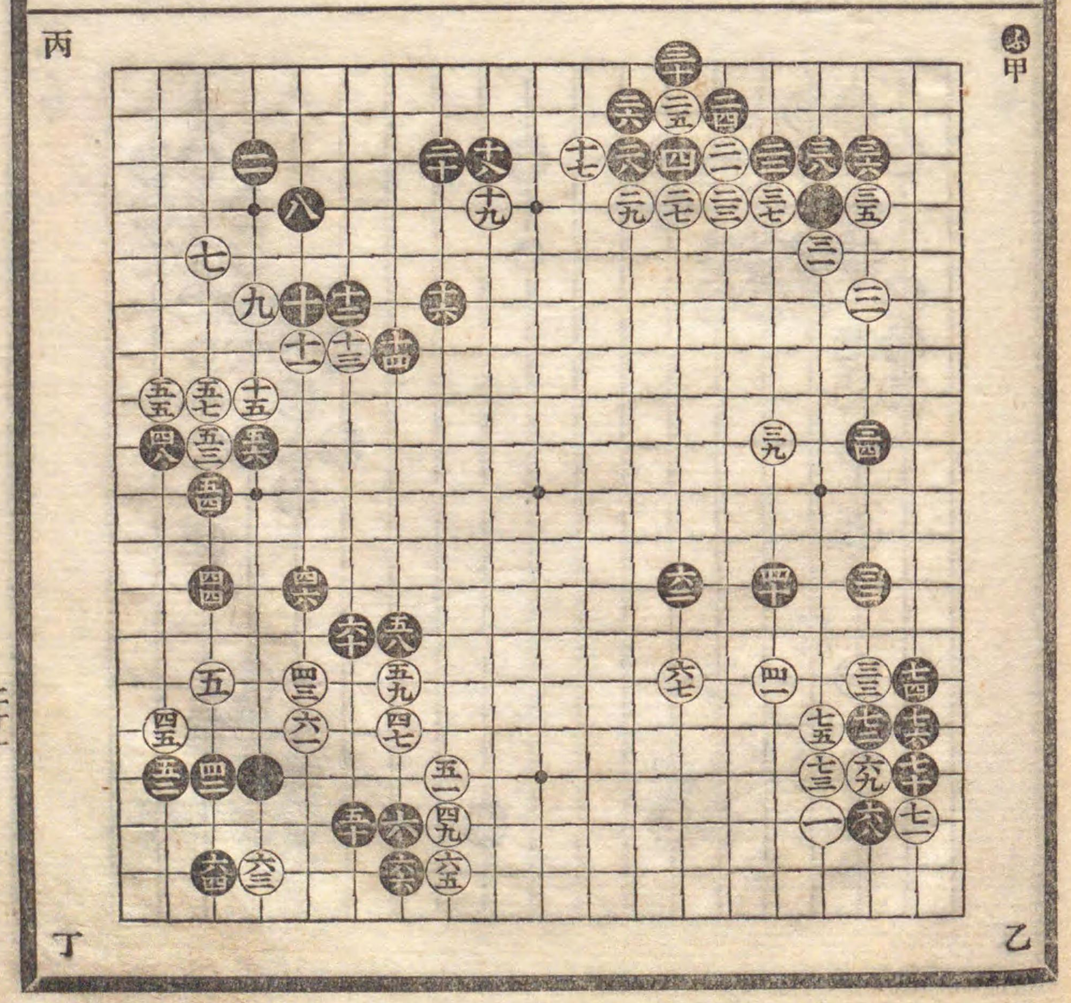
古碁二目の石立を示す

甲の甲乙丙丁白乙へ一と打黒丙へ二と打は普通なり此時白三と掛り黒四と啓き又白五と掛り黒六と打は古碁の慣例なり今は古風とし好まずと雖も此四、六の大斜走啓きは決して惡しき手に非らざるのみならず三四の如く締し時黒の味のよき事は一寸と述べ盡しがたし然れとも白三と掛れば四と啓き五と掛れば必ず六と啓となりては白の命令に隨從の嫌ひ有故に今は好ますとするも大斜走締を心得打つ時は不可なきものとす白二三と乙角を締りし時黒も二四へ尖附け二六と甲角を締りしは乙角へ對し釣合よし此時黒先手となり二八の打込は急所にしてよし此時黒三二へ啓き白三三へ爆り掛けしに黒三四の締り妙なり何となれば黒より㊀へ附る手有り故に白三五と打ち之を防ぎしなり此時黒三六へ附け白三七へ打込し時黒三八の帽子よし何となれば元來黒二八の打込は白地を消すの目的なれば一二子を捨て輕く引上るを上策とすれば白三九と打し時黒四十と打は定例なり白四三の時黒四四の並びよし白四五と上に飛ひし時黒中原の黒を捨置き黒四六と啓きしは白六十の邊より黒を掩ふ時は黒㊁に出て而して㊂の處へ附る手有りと知るべし白四七と詰し時黒四八の下りよし此時白四九へ黒五十へ白五一へ黒五二へ白五三へ綽けし時黒五四の打込よし白五五と爆り黒五六へ立ては㊃へ打込有を以て白五七へ立たり此時黒五八へ尖み而して六十へ打し手順よし斯くなりては尤も黒の優勢なり



同く二子石立の變化

甲の甲乙丙丁白黒相尖みにして白十五と切を防げば黒も十六と切を防ぐは當然にして之れ普通なり白十七と打し時黒十八へ詰白十九へ黒二十へ引しは普通の手順なり白二一へ附け黒二二へ夾むも定則なり此時白上に行れば黒二四へ盤り白二五を切り黒二六へ白二七へ黒二八へ白二九へ黒三十へ取るまで旧定りの手順とす白三一へ押へし時黒乙角へ掛らずして三二へ打ち而して三四へ啓きし趣向よし此時白三五へ綽け甲角を極め白三九へ帽子に打し時黒乙角へ打込を含四十と立ち先手を取四二と締よし白四三へ立し時黒四四の打込場合よし此時白四五と盤りを止し時黒四六へ立ち白四七打し時手拔きにて四八と打し手よし此時白四九へ附け黒五十へ引き白五一へ引き黒五二を押へし手順よし此時白五三へ黒五四へ白五五へ黒五六へ當て五八へ打ち六十へ引き先手を取り六二へ飛しは大場にして諸方へ響く良着手なり此時白六三へ打込み而して六五へ下りし打堅の手順よし而して白六七へ圍ひし時黒六八の打込は好時宜と云ふべきなり又白に於ても此結果に打の外手段なきものとす此結果となりては白大地と雖も一方地にして黒方の模様尤も優勢と知べきなり尤も黒方に利益所々に殘り在ればなり

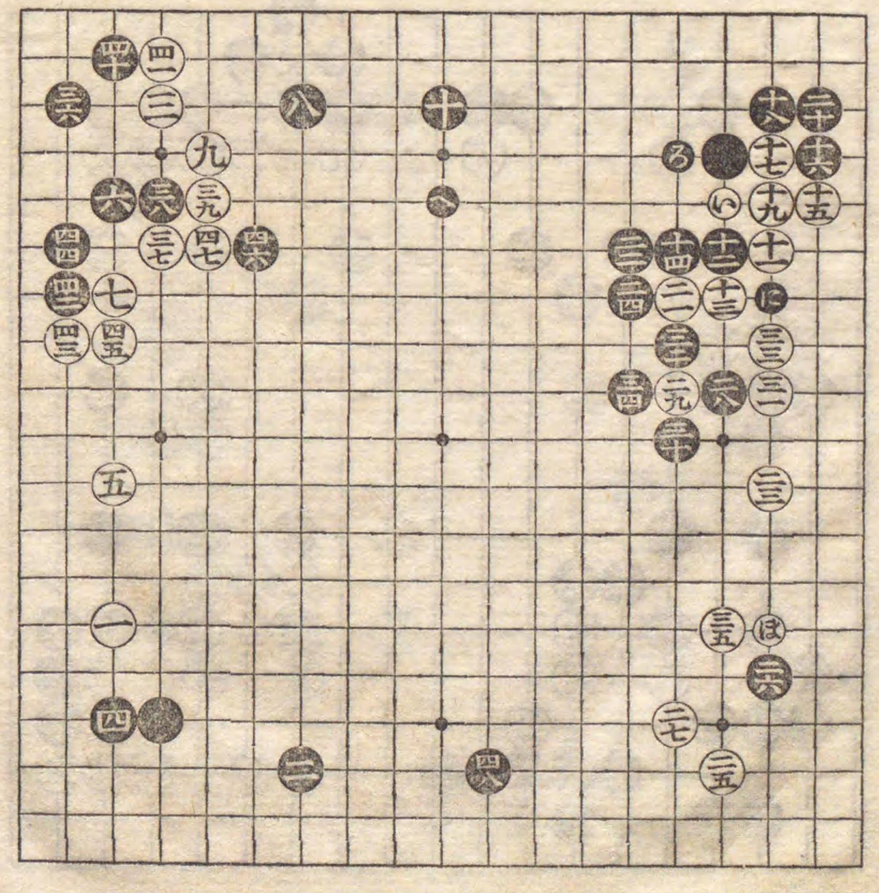


同く二子石立の變化を示す

㋒の甲乙丙丁白一と掛り黑二へ啓き白三と明角へ打し時は黑四へ締るは定法にして尤もよし此は黑より五の處へ夾む手有を以て白も五と啓くを通例とす此時黑六と掛り白一間に夾し時黑は八及ひ十と啓き丙角を白へ與へ甲角へ地位を得るを上策とす又白十一と掛りし時は已に八、十の配石在を以て十二と附手に打を德策とす白二一へ押へし時黑二二へ行しは若し此時白㋑へ突出しなば黑は㋺へゆるめるの覺悟と知るべきなり尙白二三へ打し時二四の曲りよし白二五へ着手の時黑直に二六の掛りよし此時白二七と尖掛けに係はらず黑二八と打しは㋩の切を含みたる急所にして尤もよし此時白二九へ黑三十へ白三一へ黑三二へ白三三へ粘きし時黑三四へ打貫きては形勢大によし此時白三五へ掛けしに黑二六を直に活を打たずして三六と丙角の黑を活し手段尤もよし此所尙手順を追ひ四四と引先手に活き黑㋥へ覗き而して四八と打しは全勝を占めたる所なり如何となれば此時白㋭へ押へ乙角を占領する時は黑㋬へ飛び甲角を堅固に備へるを以て白地に對し黑の地位の優勢なるは言を俟たざるべし

置碁の部畢

丙



㋒ノ甲

丁　乙

相先高目の部　高目の部

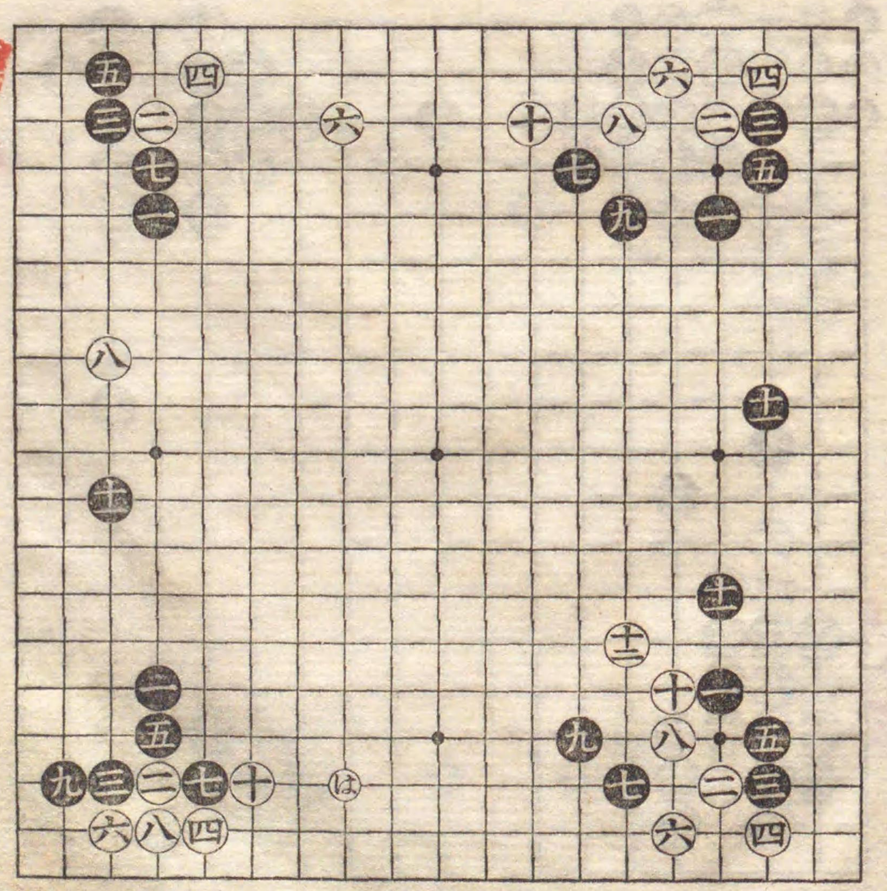
㋒の甲黑一と高目に打し時白二と打ち黑三と附るを內附と云ふ此時白四へ黑五へ白六へ尖みし時普通は黑七と十一の處打つなれども場合によりては圖の如く打も可なり

㋒の乙同く變化黑七と打ち而して九と尖む手段は左方に地位を得るの順備在る場合に於て趣向として打出す變化の定石と知るべきなり

㋒の丙同く變化黑三と附し時白五の處へ綽けずして四と尖しは普通の外異形の手なり然れとも場合により古碁に看る處なり此時黑五の下りよし尙白六と啓き黑七へ突當りし時白八と詰しは意味を含みし手順面白し

㋒の丁同く變化白四と尖し時黑五の突當も又面白し此時白六の綽けは一寸大場の如しと雖も黑に七と當られては白底なり圖の如き結果となりては白面白からず六の綽けは打たずして單に㋺へ啓くを可とす又黑七と當ては九と下るのみに非らず場合によりては十の處へ行る手も有べし

丙



㋒ノ甲

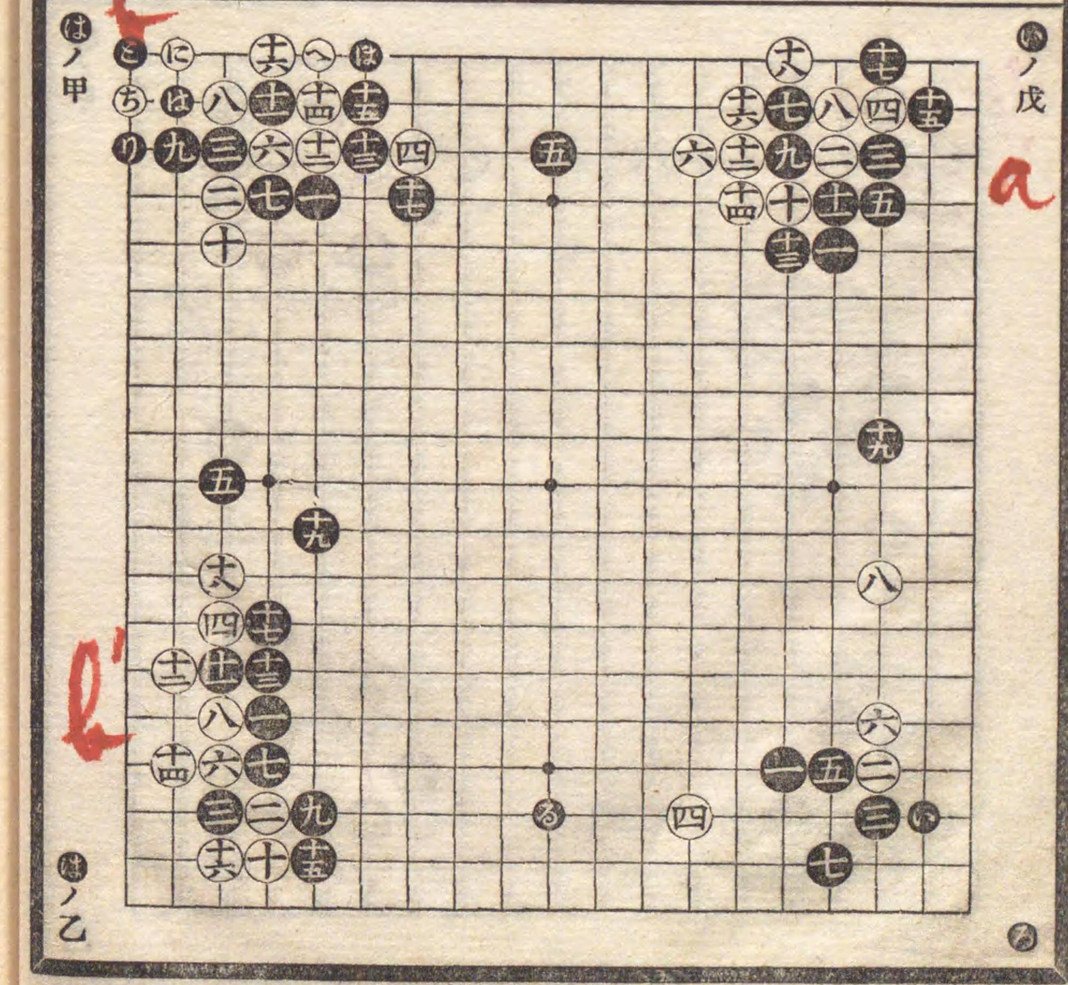
丁　乙

ゐの戊同く變化白の都合を以て七の處へ尖まずして六と二間に啓く事有り此時黒七へ打ち圖の如く打堅附け十九と啓ては黒尤も割合よしと雖も必ず直に斯く打に限らず時宜を得て打つ時の手順を示したるものと知るべし

ろ角高目の變化にして黒三と附し時白外面より四と詰返しの變化を示す此時黒五と突當るを定例とし此時白六へ引き黒七へ掛粘も又定則なり尤も白の四の詰め遠く目下邊なる時は黒七の掛粘をゐへ下るを可とす

ゐの甲同く高目の變化にし白外面より四と詰返せしを黒尚外面より五と夾し變化を示す白六と厭込黒七と切る通例なり此時白八へ綽け而し十と行し形よし此時黒十一を切り十三、十五と押へ而して十七へ綽し手順よし此振替りは黒方最も優勢なり如何となれば黒ゐへ押へ白ゑへ綽け黒ゑへ下り白ヘへ粘し時黒とへ打込み白ちへ取し時黒りへ押へ大劫となる手有ればなり

ゐの乙同く變化黒七と切し時白八へ並ぶ時は黒九へ綽け而して十一へ厭込を定法とす此時白下より十二と押へ黒十三と粘し時は白十四へ曲るを定例とす此時黒十五、十七と押へ十九打ては黒の優勢なり尚るの邊に黒の配石在るに於て勝算を定むる所なり

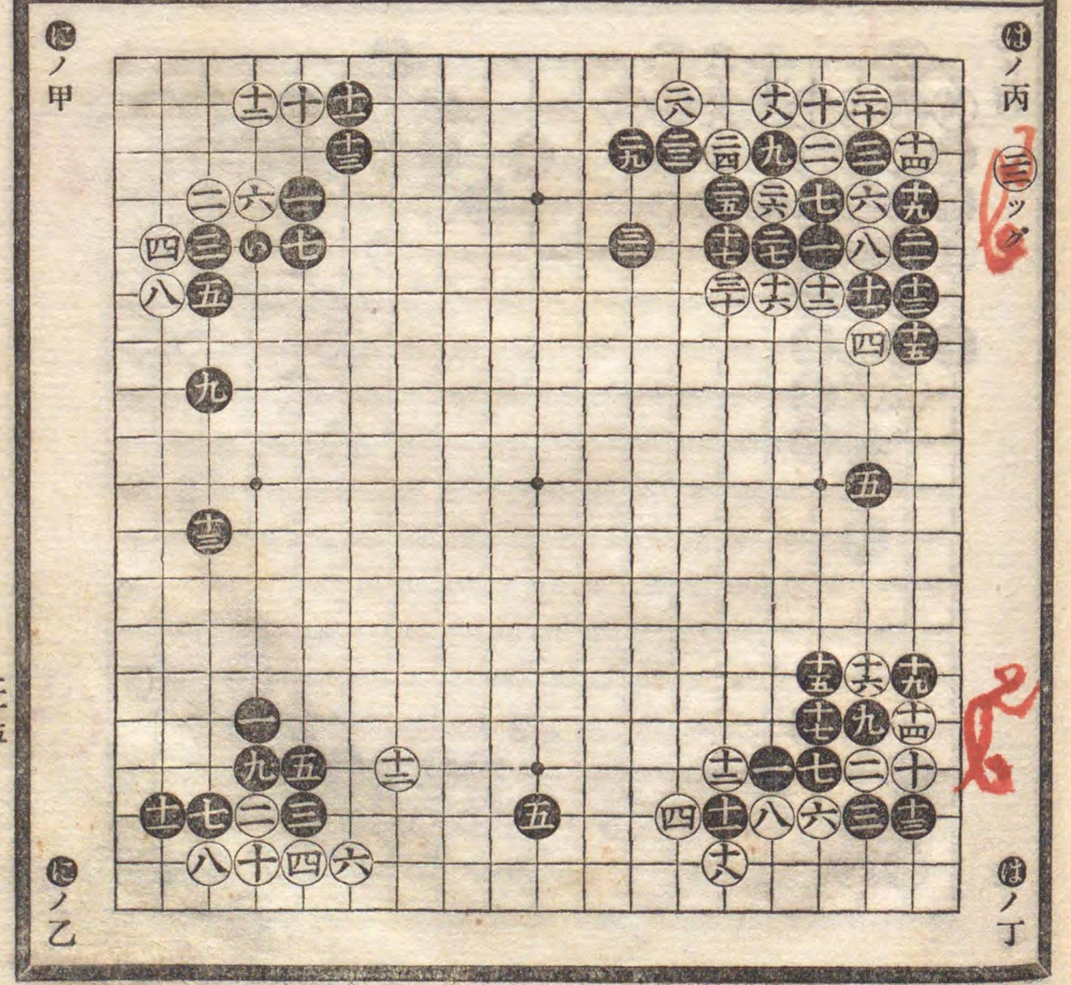


ゐの丙同く變化黒十一と割込し時白上より十二と切し時は即此變化を來す處なり此時黒十三へ下り白十四へ綽けし時黒十五へ單に曲よし白十六へ黒十七へ白十八へ行出せし時黒十九の切り絞り時宜なり而して黒二三の飛輕くしてよし尚白二四へ黒二五へ白二六へ黒二七へ白二八へ黒二九へ白三十へ押へ黒三一へ飛ては形よく且つ優勢と知るべきなり

ゐの丁同變化白十二と上より押へし時黒十三と角を押へしより此變化を來たしたり此時白十四へ曲りし時黒十五の掛粘尤も肝要なり此時白十六へ當て黒十七へ粘ては白止なく十八へ一子を打貫かざるを得ず此時黒十九を切りては黒方優勢と知るべきなり

ゐ同く高目の變化にして白四と綽けし時は黒ゐへ引を普通なるに五と行るを見る事有之れ俗手にして好まざる手なり故に白の打方を示せば此時六へ突當り而して八へ出黒九へ飛し時白十へ斜走し黒十一へ附し時白十二へ並び先手を取し手順よし此結果となりては白より㋐へ出切を殘し黒の形不可なり

ゐの乙同く變化黒五と引し時白六と並びしは俗手にして此時黒七と附九と當て十一と下り白十二へ斜走し黒十三と啓きては黒方大に優勢なり之れ六の俗手の爲す處なり

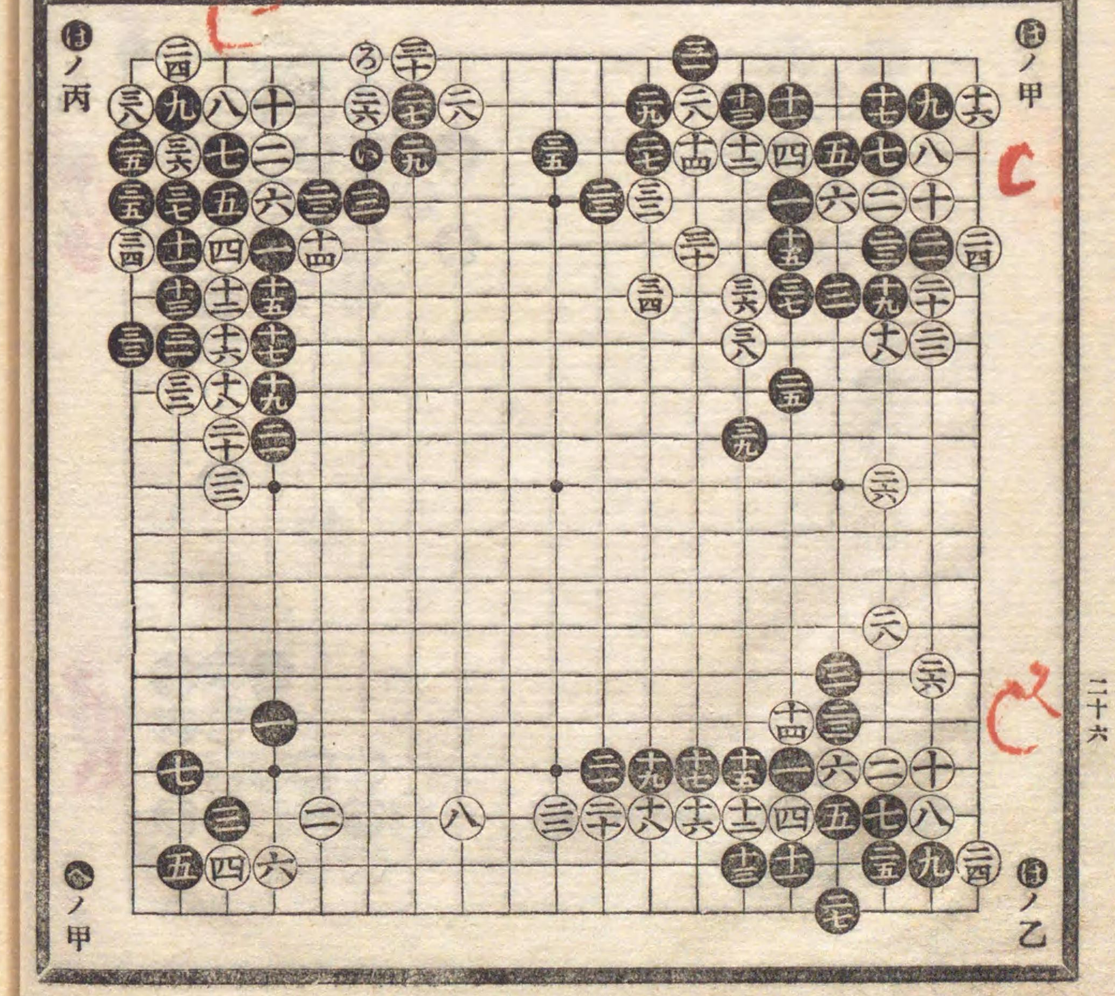


㋑の甲高目斜走掛げ切遶の變化白四と附し時黑五へ駆込しは古來名人上手の打たざる手にして尤も好まざるなり去りながら白方に於て受の手順を知らざる時は返て不利となるを以て其大略を爰に示す

㋺の乙同く變化にして黑十三と並び出し時白十六の處へ行ずして十四へ驅出せしは後世改良したる手順にして甲角に比しては白方尤も優勢なり元來黑の先着の角にして此結果となりては即ち黑方五の駆込無理筋の爲す所と知るべきなり

㋩の丙同く變化にして白二四と綽げし時黑二五へ掛粘ぎ却に打たんとせしも白單に二六へ飛び黑二七へ附し時白二八の附よし若し此時黑二九の手を㋑へ打し時は白㋺へ下る手有りと知るべし斯く白に脫道を開き而して丙角の黑却爭となりては黑の不可なるは言を俟ずして明瞭なるべし

㋥の甲黑の高目に對し白二と掛るは位ひ底くして好まず故に今は絶て打たざる手なり去りながら對手に於て時打る時は應答の手順を知らざるは不可なり故に其大略の手順を示す處なり

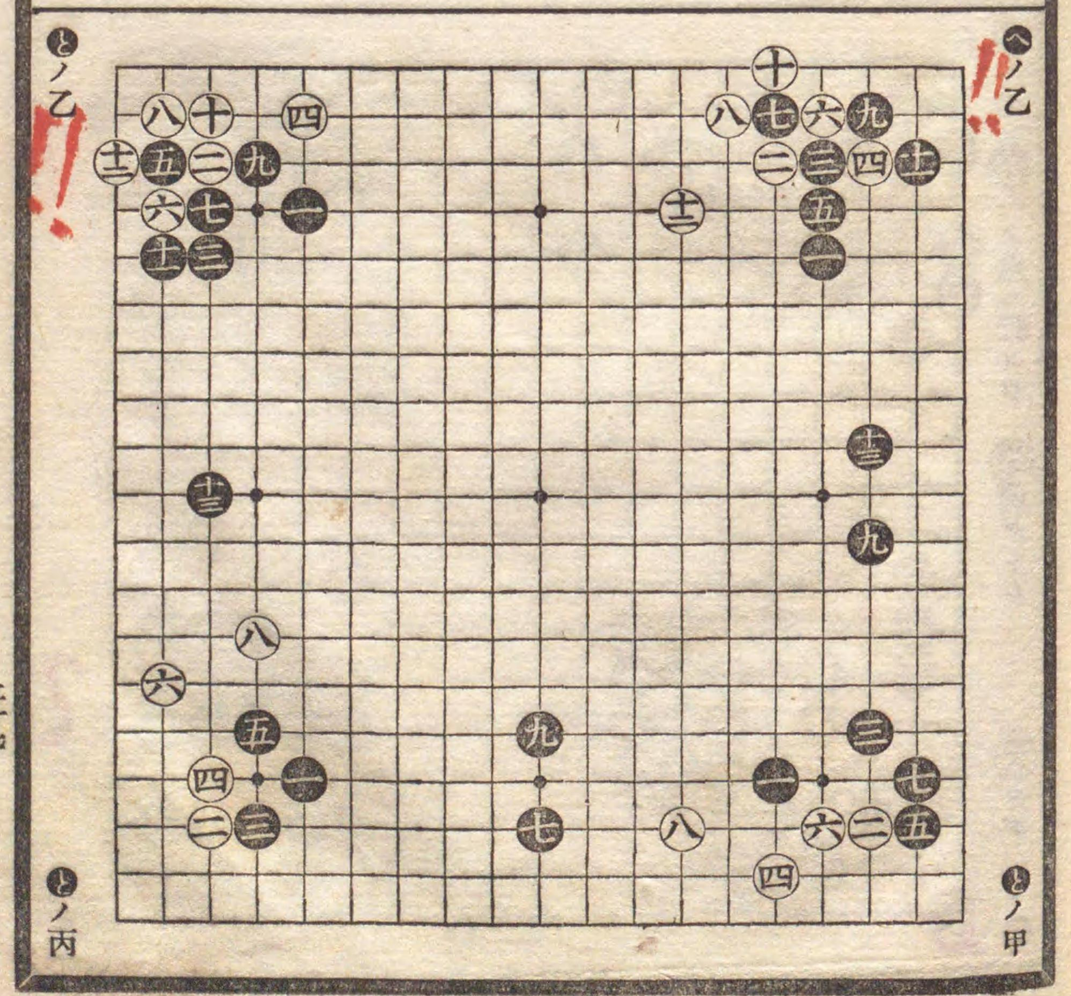


㋥の乙同く變化黑三と附し時白の四の夾面白し此時黑五と棒粘よし白六へ盤り黑七を切り白八へ黑九へ白十へ黑十一へ綽げ白十二と兩斜走に打ち黑十三と啓きては白の形はよしと雖も底して黑方優勢なり

㋺の甲黑の高目へ對し白二と三々へ打込の變化を示す黑三と外より斜走に打し時白四と打しに黑五と附るは古碁の定例なり此時六へ引き而して八へ斜走せし手順面白し然れども黑九と啓きては黑方形勢よし

㋺の乙同く變化黑五と附し時白外より六と抱へる時は黑七を切り九へ綽げ十一と先手に押へ十三と目下へ啓くは古碁に於ては普通の手順と知るべきなり

㋺の丙同く變化白二と打込し時黑三と尖附而して五と尖込み白六と受し時七と啓き白八へ斜走し黑九と立つ手順は古來今に打つ手順なり尤も模樣により黑の手段として打出すものとす

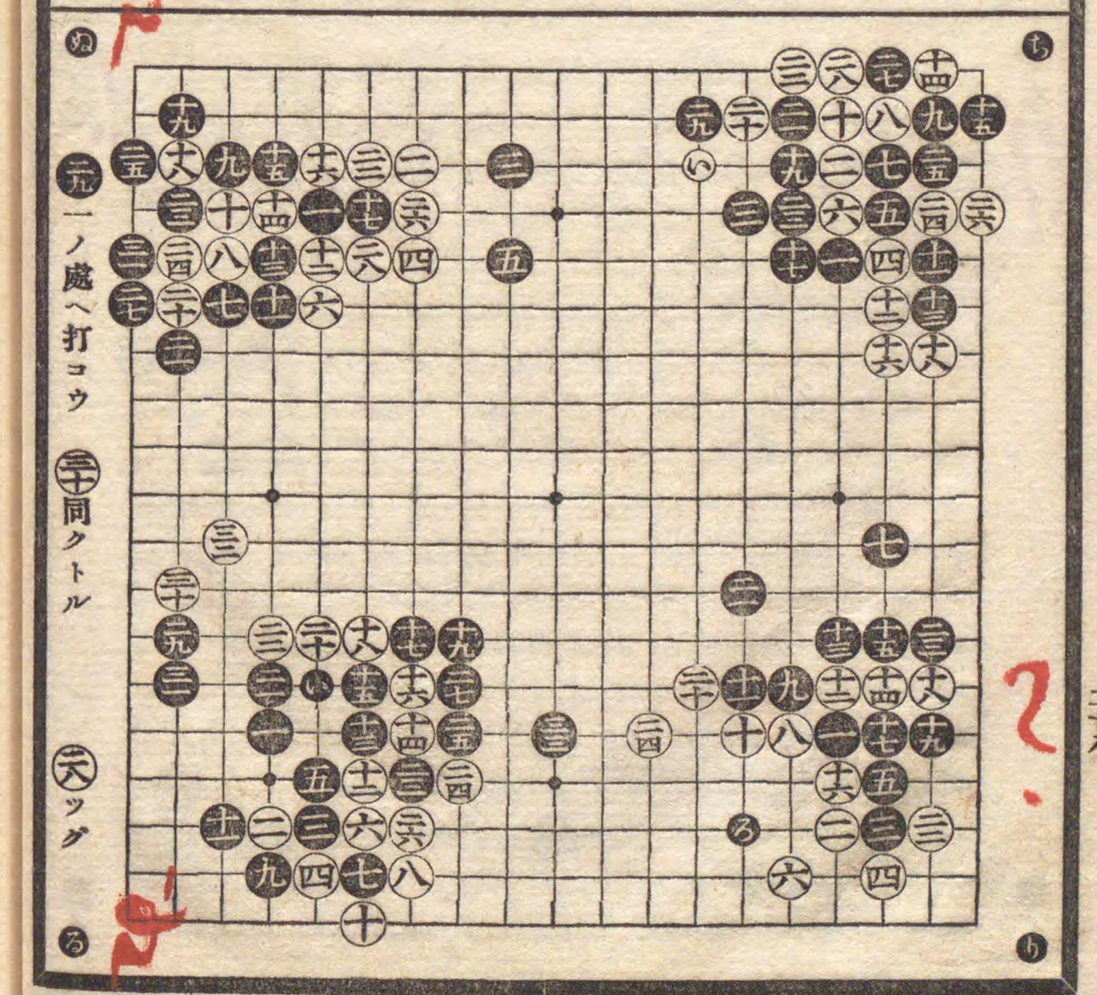


㋮角は高目斜走掛けにして白四と附けし時黑五と駆込の定石異變化を示す黑の五の駆込は無理筋と雖も白の受方に心得なき時此圖の如く白の不可となるなり是他に非ず黑二三と打し時白取氣を發し二四と切二六と下りし故なり此二六の手にて㋭へ尖む時は黑二六の處へ一子を打貫き活を打ち白二八の處を粘ぐ時は白黑兩活となるなり斯なりては黑方先着の功なきものとす

㋬角黑高目内附けにして白八と附しは異變化なり此時黑九へ白十へ黑十一へ押へし時白十二を切り圖の如き結果となりては白方優勢なり然るを白十二と切し黑㋐へ置手有り此時白の應手に苦しむべし故に白八の附今は打たざるなり

㋱角黑高目にして白外面より二と掛りし時黑猶外面より黑三と夾白四へ黑五と立ち白六と掛けしは即ち異變化なり此時黑七及び九の手面白し此時白十へ黑十一へ白十二へ黑十三へ白十四へ黑十五へ白十六と切り黑十七へ行び此結果となりては白大に惡し

㋐角高目外附にして白十二と押へし時は普通は黑㋑へ尖處なるを十三へ綽けしは異變化なり圖の如くなりては黑方優勢なり



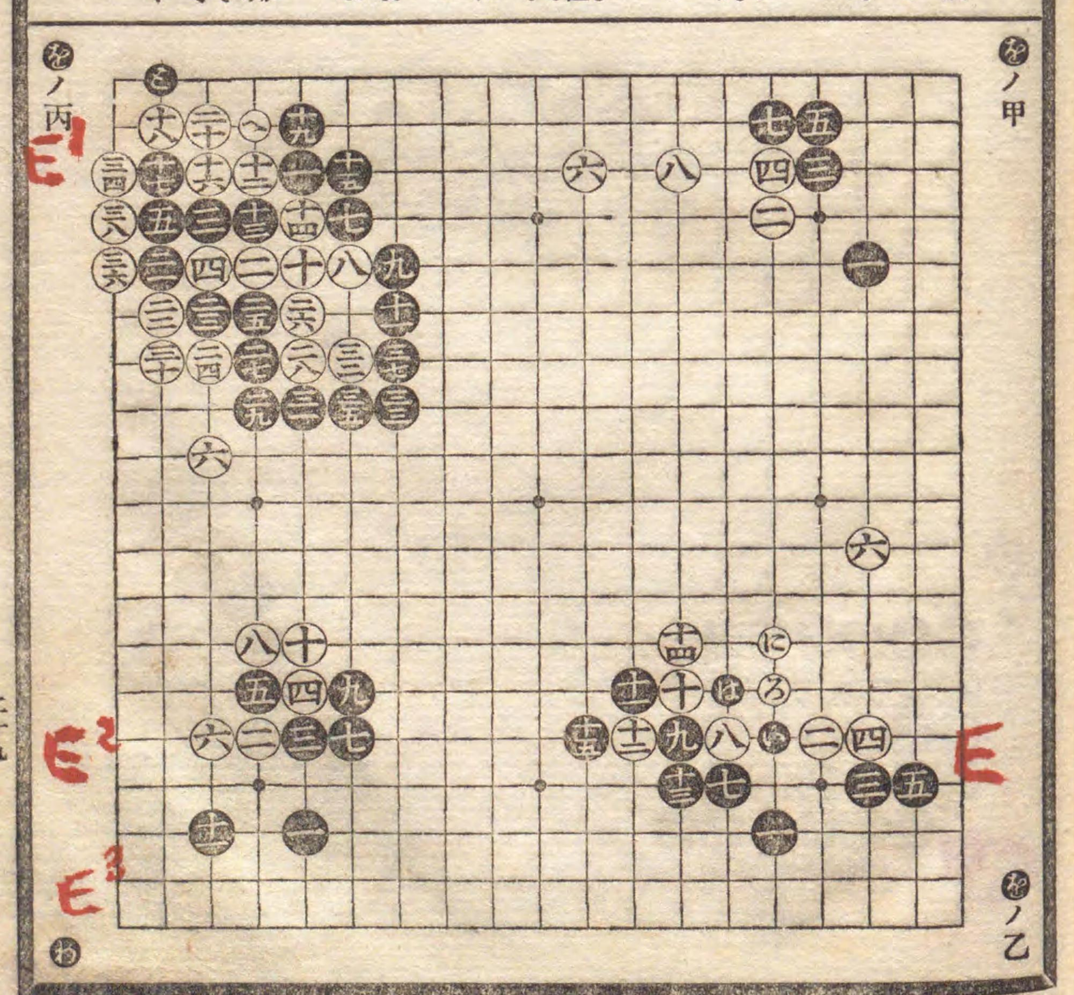
相先目脱の部

㋐の甲黑一と目脱に對し白二と打つを高掛りと云ふ此時黑三と受け白四へ黑五へ下り白六と三間に啓くを普通の定石とす此時黑場合によりては趣向として黑七と曲り白八と飛し時黑手抜にて他へ着手する事あるなり

㋐の乙同變化黑七と尖み白八と附け黑九へ綽け白十と二段に押へ黑十一と三段に綽けるは普通の手順なり此時白十二を切り而して十四へ行る手よし此時黑㋑へ駆込は無益にして好まず何となれば白㋐へ押へ黑㋑へ取れば白㋒へ行ればなり

㋐の丙同く變化白十と棒粘の時黑十一の立ちは白十二の附越を承知にて手段として打たるは面白し此時白十二へ附越し手順を追ひ白十八と押へし時黑十九の下りよし尤も此時黑方に切立の見込有る時は十九の手にて二十の處を切り白㋑へ押へし時黑㋐へ綽け功となる手有り又圖の如き結果となりては白方五目を取ると雖も黑に外面を塗り附けられては白大に不可なり

㋐角目脱高掛の變化にして黑上より三と附け白四へ綽け黑五を切りしは即ち變化なり此時白六へ並び黑七へ並びし手共によし此時白八へ抱へ黑九へ押へ而して十一へ飛しは輕くして形よし

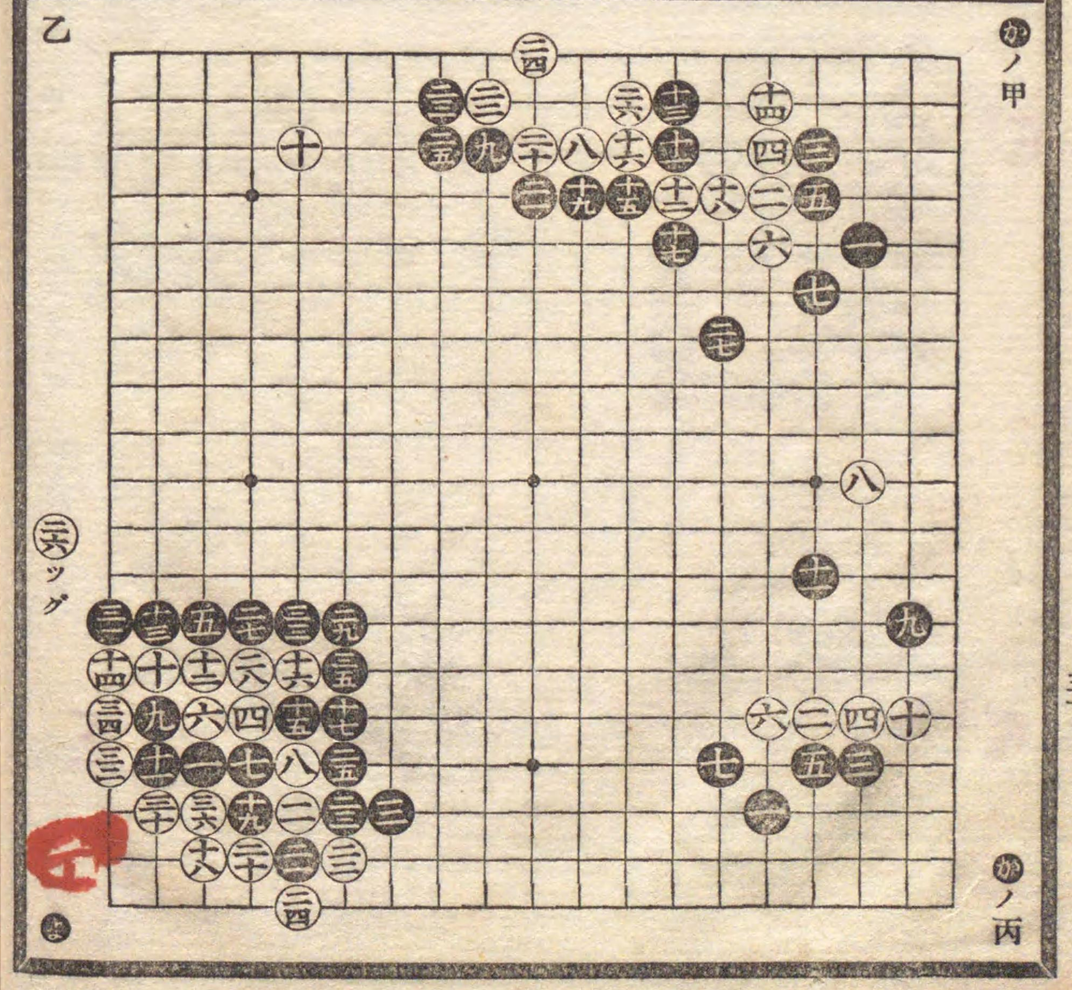


㋕の甲目脫し高掛の變化にして白四と押へし時黑上へ五と押へ白六へ立ち黑七と尖は通例なり此時白八へ三間に啓きし時黑九と詰しは打込を含み而して乙方十の處へ啓く意味なり故に白も乙方を防ぎ十と打たり此時黑十一へ打込み白十二へ附け黑十三へ下り白十四へ下りし時黑十五へ駆出し白十六を切り黑十七へ綽け而して十九、二一、二三、二五と押附二七と兩斜走に打ては黑尤優勢なり

㋕の丙同く變化にして白八廣く四間に啓きし時は黑九と盤りを含み白十と盤を防ぎ下りし時黑十一斜走尤もよし

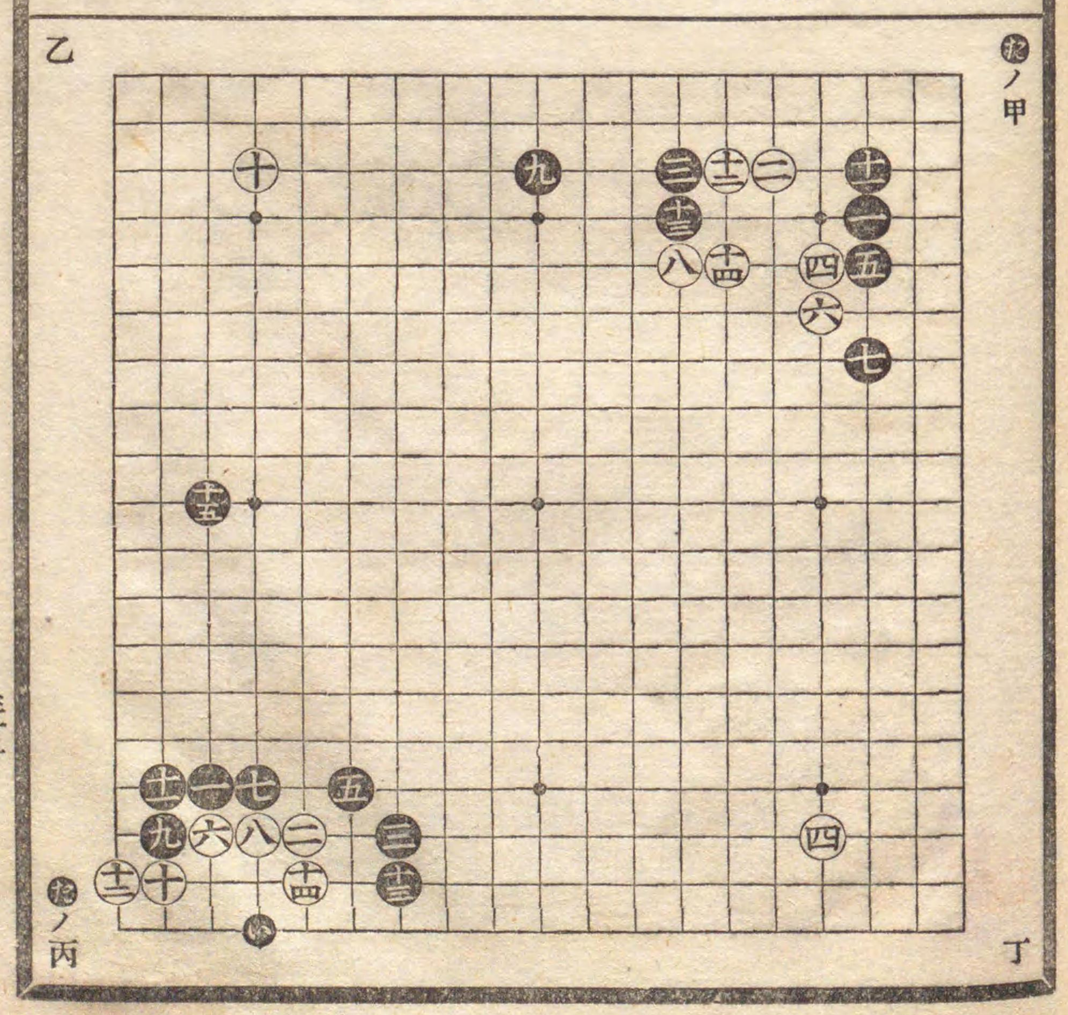
小目之部

㋖角は小目一間夾み陷手大塗の變化を示す黑三と一間夾に打し時白四と斜走に掛し時黑五と二間に飛しを白直に六と押込みしは卽ち陷手に掛りしものにし此時黑七へ並び出し白八へ押へ黑九へ白十へ黑十一へ白十二へ粘ぎ黑十三へ白十四へ下り黑十五を切り白十六へ黑十七へ白十八へ斜走し黑十九へ突出し二一を切り尙二三を切〳〵附二七へ覗き而して二九へ掛られては圖の如き結果となるなり之を防ぐには黑五と打し時白六の手にて二八の處へ並べば通常の碁形となり陷手に掛る患ひなしと知るべし



㋖の甲乙小目一間夾の變化を示す黑三と打を一間夾と云ふ此時白四と掛け黑五へ並び白六へ行び黑七と飛ぶ白八と帽子に打ち黑九へ二間に啓きし時白乙の明角へ十と着手したる時黑十一の行尤もよし此時白止むを得ず盤を防ぐ爲十二へ突當り黑十三へ立ち白十四へ引ては黑の形優勢と知るべきなり

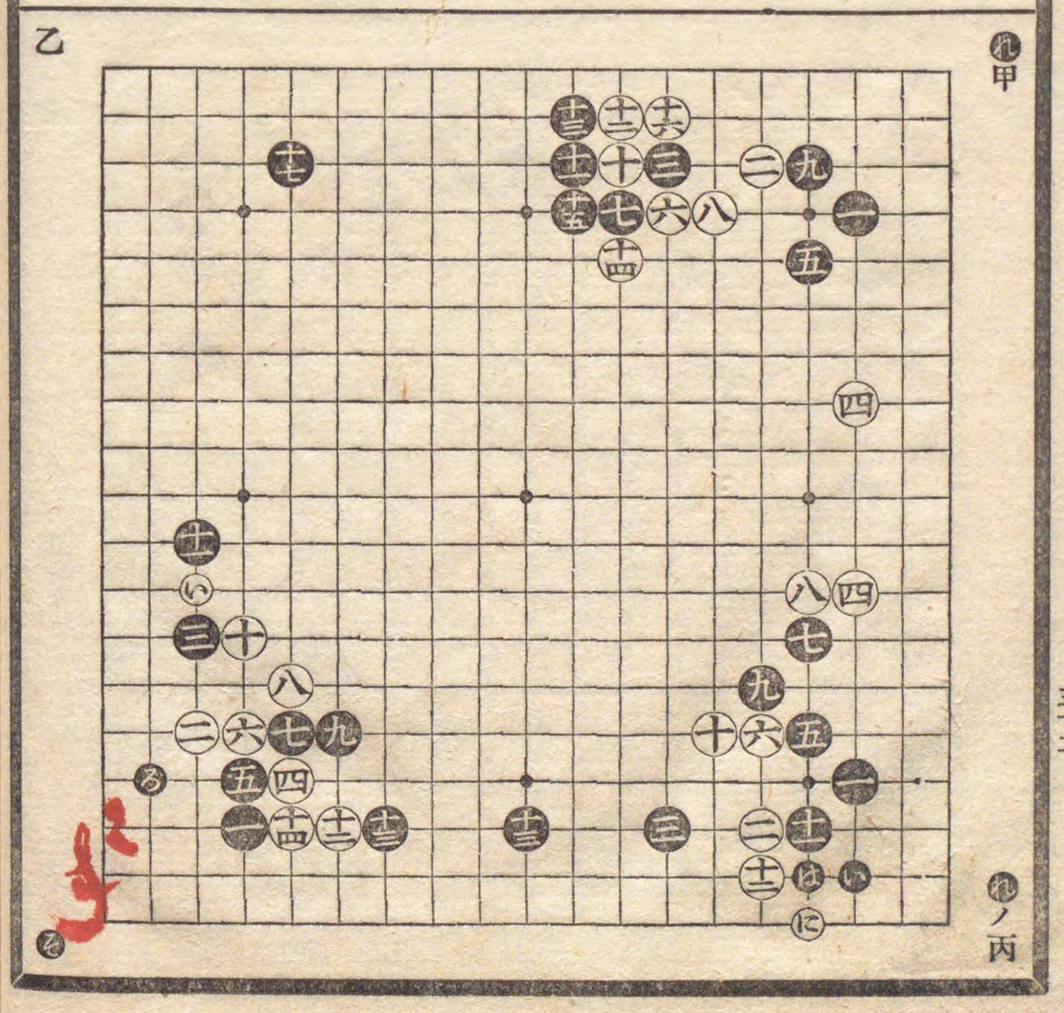
㋖の丙丁同く變化黑三と一間夾に打し時白手拔にて丁の明角を占領し黑五と尖掛け白六へ附け黑七へ並び白八へ粘ぎし時黑九へ綽け十一へ粘ぎ白十二へ下りし時黑十三の下り輕くして㋖へ打込を含み尤もよし故に白十四へ下り活を打し時黑十五と目下へ啓きては形勢尤も慥かなり



㋹甲乙黒三と夾し時白四と詰返しは三間を可とす此時黒五の尖は普通なり白六へ附黒七へ綽く白八へ引し時黒九と尖附よし白十を切り黒十一へ綽く白十二へ下りし時黒普通の場合に於ては十五の處を粘を規定とする處なれども已に九の尖附在るを以て十三と押へるを可とす此時白十四へ綽げ而して十六と打たれは黒に於ては甲角に必要着手なし此場合に於ては乙明角へ十七と着手するを至當とする處なり

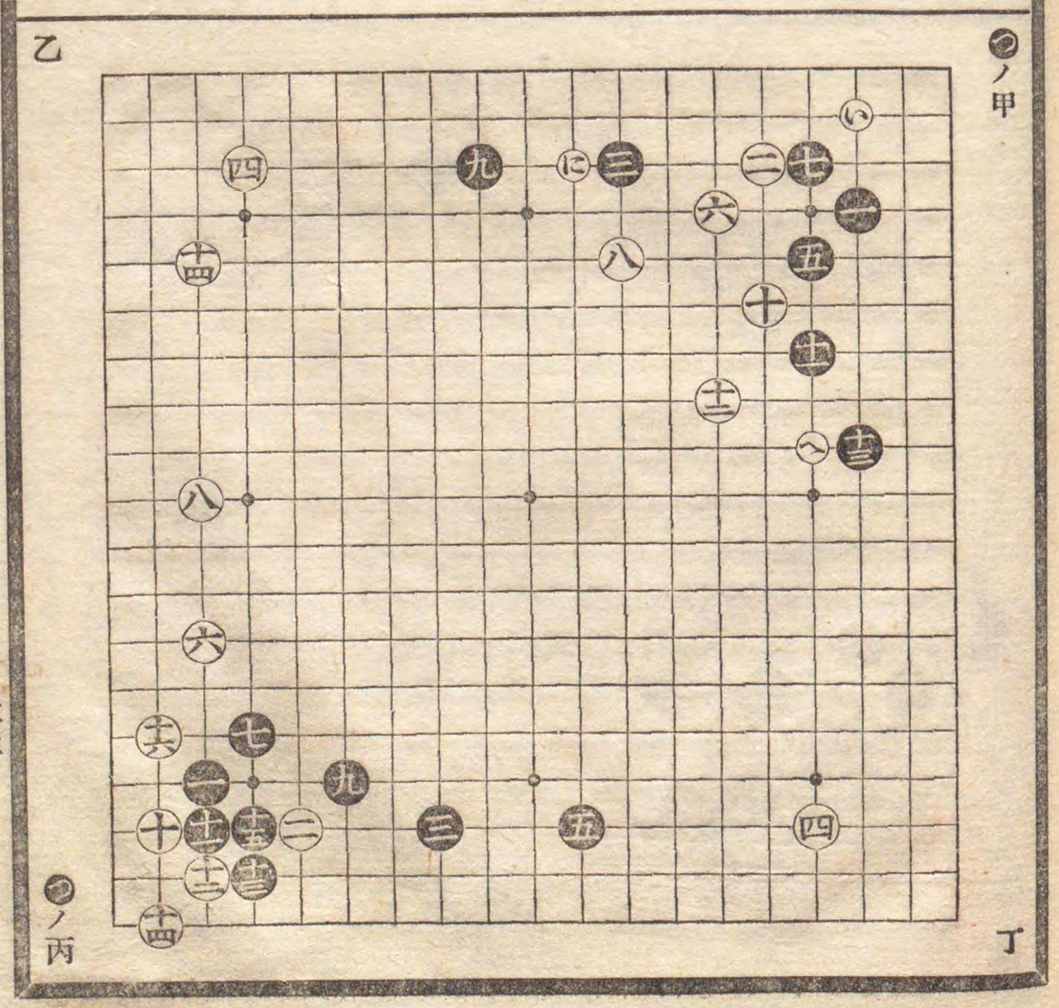
㋹の丙同く變化黒五と尖み白六へ附し時は黒七へ飛而して九へ孕れるを通則とす尙黒十一へ尖附け白十二へ下りし時黒十三へ啓くを普通とす此場合に於て後黒角を圍時は㋷へ尖むを法とす然るを㋺へ押へては白より㋾へ駆粘を打れては三、十三の石へ響き不可なればなり

㋷角黒一間夾にして白四の掛けは少々無理筋なり然れども黒十一と啓き白十二へ尖み黒十三と附け白に十四と打れては大に黒の不結果とはなりたるなり是他なし黒十一の啓き打過なり此十一の手にて十三の處へ打ち白㋾へ抱へし時黒㋷へ打たば形勢黒に有りと知るべきなり



㋷の甲乙小目二間夾の變化を示す白二と掛り黒三と打を二間夾と云ふ此時白乙明角へ四と着手せし時黒五へ尖掛けは普通にて白六と尖しは㋾へ斜走を含みたれば黒七の尖附けよし白八の斜走は㋾へ頂を含みかたわら十と掛の準備なり黒十一へ受し時白十二と打しは白棋勢を傢ちづくり尙㋺へ打たんとす故に黒十三と打ち地位を堅めたり爰に於て白も手抜きの時宜を得乙隅を十四と締りたり依之配石の石割平等と雖も黒方先手を持居れば優勢なり

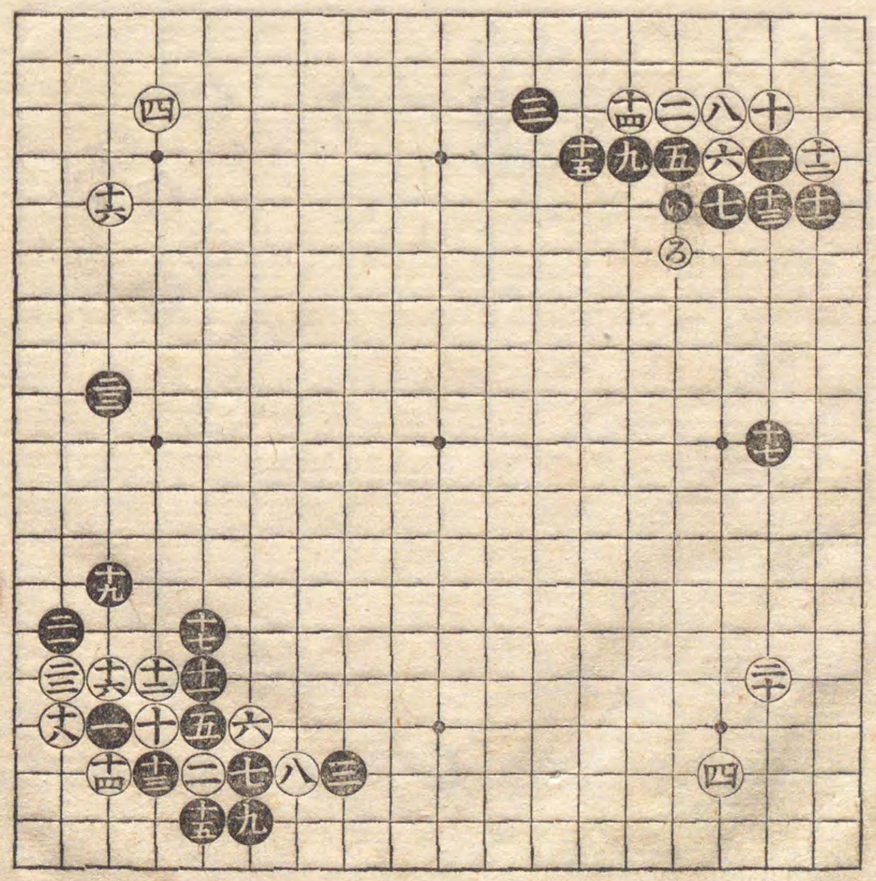
㋷の丙丁同く變化白丙角を手抜きにて四と丁角へ着手し黒五と二間に啓きし意味は白より此目脇へ啓くの好所なれば其豫防を含みたるなり此時白六と詰反しは二間を法とす尤も後に十六の盤りを含みたればなり又六と詰返し八と啓きしは黒を一方地にするの手段に出たるものとす黒九と掛し時白十へ打込み黒十一へ白十二へ黒十三へ白十四へ黒十五を粘し時白十六と盤りし手順は黒九と掛けし時直に打込に限らず局面配石の場合時宜を見謀り打を可とすと雖も此打込の手順を示したるものと知るべし



㋩の甲乙同く二間夾の變化を示す黑三と夾し時白手抜きにて乙の明隅へ四と着手し黑五へ頂けし時白六へ駆込は黑の五の一子征に掛る時に限るべし其理由は白六へ駆込し時黑七へ押へずして入の處を切り白七の處へ行出し黑十の處へ粘ぎ白九の處へ追手と綽け黑五の一子を㋭へ行出せし時白㋯へ追手と征に掛る場合なればよし又黑方に征の受手在て此征を黑に脱げだされては大いなる白の不利となればなり又圖の如くなりて白に於て乙の隅を締らずして十七の處へ打し時は黑十六の處へ打を可とす

㋩の丙丁同く變化白六へ綽け黑七を切し時白八へ割込み而して十へ駆出し十二と押へしは少し無理筋なり然れども場合によりて手段とし打は可なり此時黑十三を切り白十四を切り黑十五へ取り白十六へ曲りし時黑十七行よし此時白十八の打貫きよし黑十九へ打し時白十二と丁隅を締り黑二一及び二三と啓きしは二十の手と交換損得は局面の模様によるべきなり又場合によりては白八の手九の處へ綽け而して十の處へ駆出十四の處へ押へ黑十二の處を押へ白十三の處へ粘ぐ變化も有りと知るべきなり

㋩ノ甲



乙

㋩ノ丙

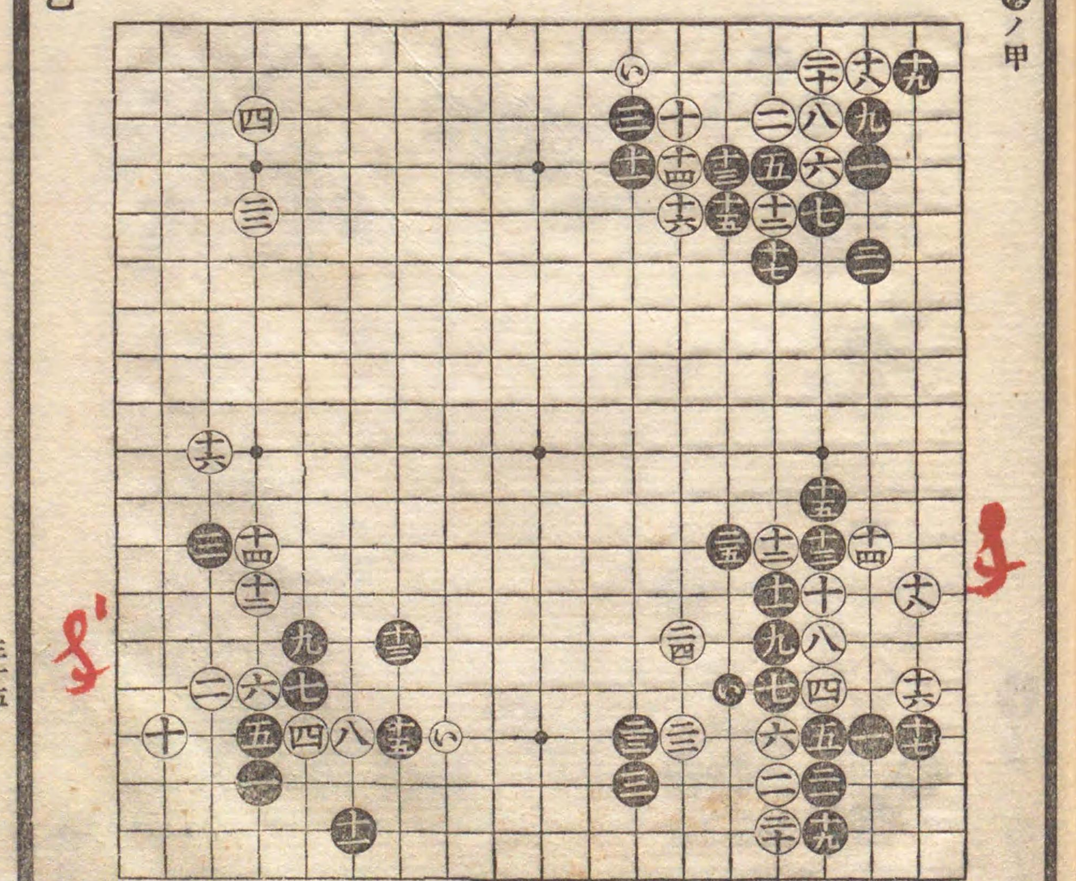
丁

㋭の甲乙同く小目二間夾の變化白六へ駆込黑七へ押へ白八へ粘し時普通は十三の處へ行るなれども黑九と押へしは即ち變化なり此時白十へ附け黑十一へ立ち白十二を切り十四、十六へ突出せし手順一寸面白し此時黑十七へ打貫き白十八へ刎粘ぎ黑二一へ掛粘し時白乙隅を二二と締りしは局面の趣向によるべきなり或は㋯へ綽け黑の應手を試るも可ならん

㋯角同小目二間夾の變化にして黑三と夾し時白四へ掛黑五へ出七と切り白八へ並びし時は黑普通は㋭へ並ぶを九、十一と押へしは即ち變化なり此時白十二へ綽け黑十三を切り白十四へ綽け而して十六、十八と掛粘の形よし黑十九へ飛び白二十へ押へ而して二二、二四の飛び形よし此時黑二五と征に掛ると雖も若し白に征の受在る時は黑大に不可なり故に其邊篇と見定め打べきなり

㋭角同く小目二間夾の變化にして白八と並び黑九へ並び白十へ尖み黑十一へ白十二へ黑十三へ飛までは普通なり此時白㋯へ飛ばずして十四と押へしは變化なり此時白十五の附よし此時白十六と打ち左右振り替りしは白の手段に出たるものと知るべきなり

㋭ノ甲



乙

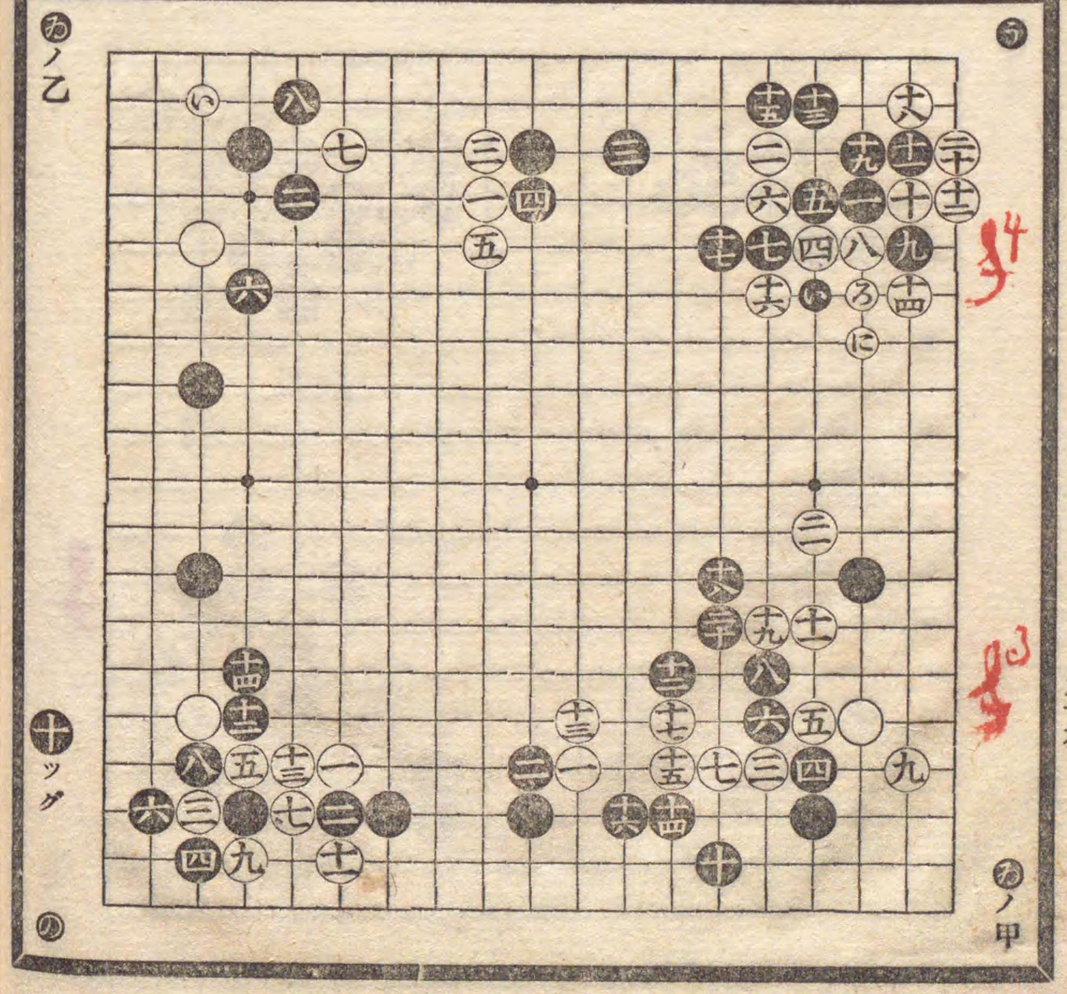
㋭ノ乙

㋐角同二間夾の變化にして黑十一へ綽けし時白十二へ下りしは陷手に類似の手なり何となれば此時黑廿の處へ押へれば白十九の處切り打交へ絞附る手有ばなり之を防には黑㋐へ綽け白㋒へ曲り出し時黑十四の處へ押し白㋓へ行し時黑十九と粘ぐを普通の防手とす然るを黑十三へ打ち之を防ぎしも又一理あり尙白十六へ綽け十八へ附け二十へ盤りし手順面白し

㋑の甲同く黑二間夾にして尙圖の如く目下へ黑啓き在に對し白着手の手順を示す白一と打ち而して三と掛け黑四へ出切を打ち白七へ黑八へ並び白九へ尖み黑十へ斜走し白十一へ飛出しまでは双方普通の手順なり黑十二へ飛び白十三へ黑十四へ白十五へ黑十六へ白十七へ突當り黑十八へ打し時白十九へ出而して二一へ掛けしは味よき白の手順と云ふべきなり

㋒の乙同變化白一と肩に打し時黑二と尖しは白より此所へ掛るを防ぎ返對に出たるなり故に白は三と押へ五と行しなり黑は六の處尖出しを防ぎ六と掛しなり此時白七へ詰しは㋔へ打込を含みたれば黑八と之を防しなり

㋓の角同く黑二間夾にして圖の如く二間に啓き在るへ對し白の打掛りの變化を示す白一と打ち黑二へ受け白三へ附け黑四へ綽け白五へ孕れし時普通は黑七の處へ引けども場合によりては六と綽け此變化に打つ事有り故に其手順を示す

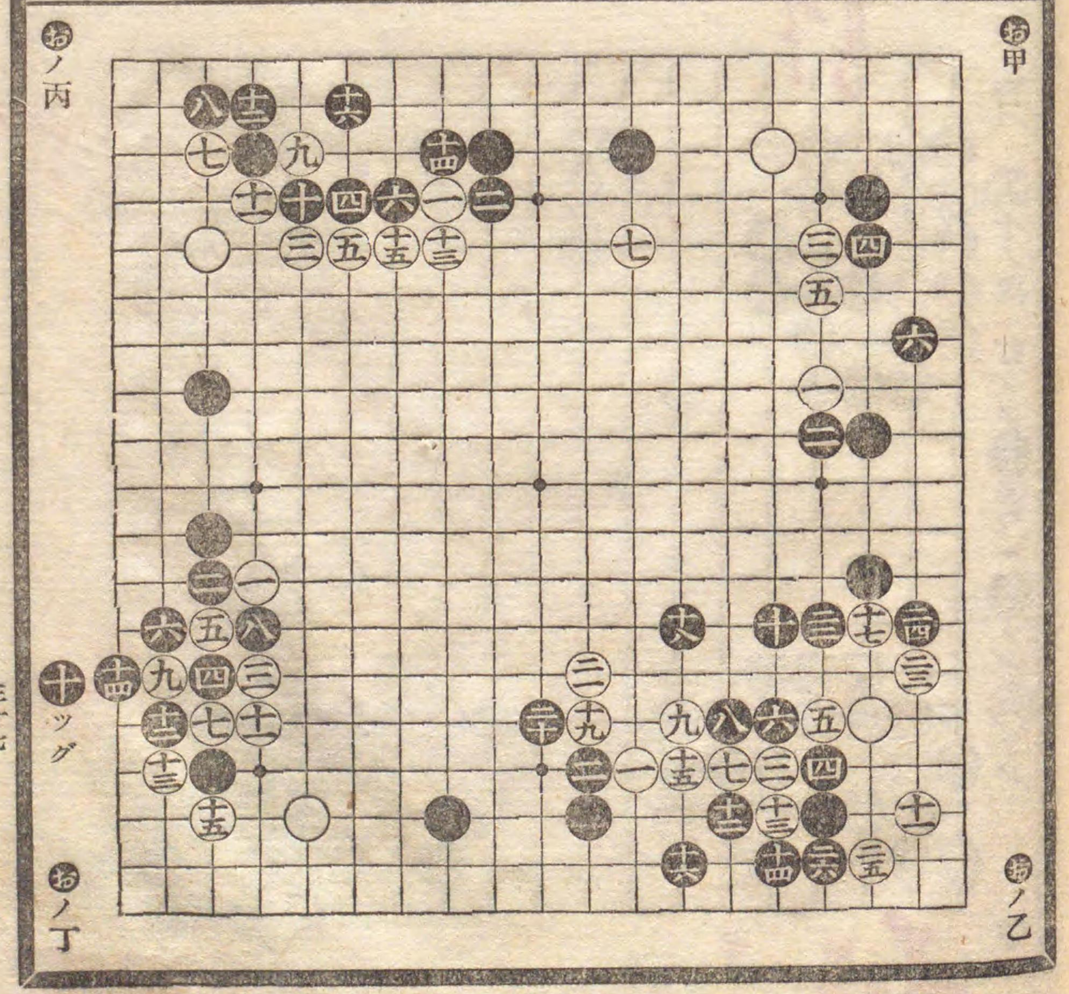


㋔甲同く黑二間夾にして圖の如く目脇へ啓き在へ對し白の着手の變化を示す白一と肩へ打ち黑二へ押へ白三と掛け黑四へ受け白五へ行び黑六と兩斜走に打し時白七へ帽子に打ち黑左へ二間に啓くを古碁普通とする處なり

㋕の乙同　化を示す此定石は古風として今は絶て打たざれども其手順の味を知るは新趣向の材料となるべきを以て爰に其變化の大略を記すものとす白三と掛け黑四へ出切を打ち白七と並し時黑八と共に並ぶは古碁の規定なり白九黑十白十一と打し時黑十二の附は尤も要手とする處なり又黑二二と押へし時白二三へ尖み黑二四へ當し時白粘がずして二五へ尖み先手に活を打し味わい尤も妙なり

㋖の丙同く變化黑二と押へし時當時普通の如く白十の處へ掛ずして三と一間飛に打ち手順を追ひ白十三、十五と先手に押へ附し妙手段は本因坊道知安井仙角先番の對局に於て道知始て打出したる新手段なり于時道知十四歳なり

㋗の丁同く變化にして黑二と並びし時の變化を示せば白三へ飛び黑四へ附し時白五へ割込黑六へ受けし時白七へ割込みしは意外なり而して九へ當て十一を粘ぎ黑十二を切り白十三を切り十五へ綽け振替りたる白の手段尤も妙味有りと云ふべきなり

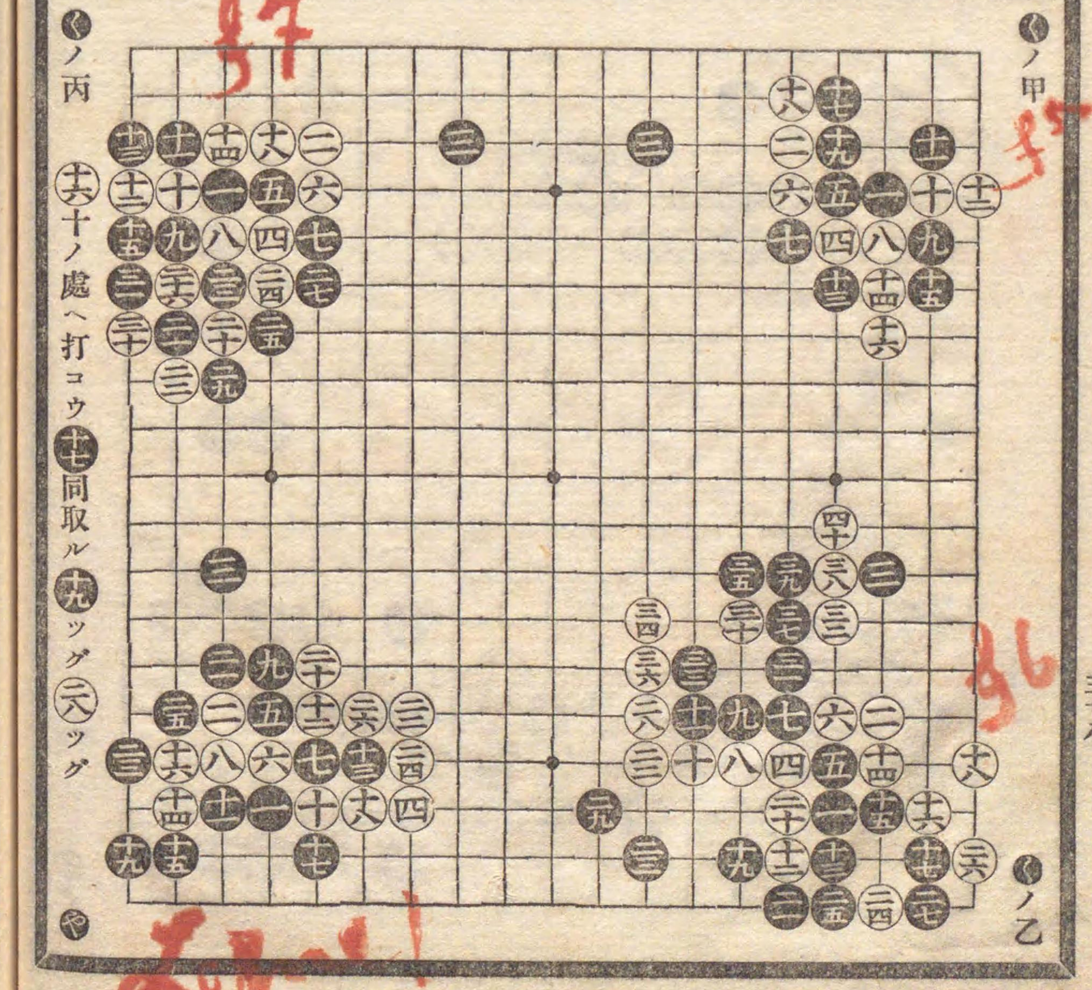


くの甲同く黒二間夾み出切の變化にして白八と押へ黒九へ綽け白十を切り黒十一へ押へし時白十二へ下りし手は前號㋒角に述るが如陷手に類する惡手なり此時圖の如く黒十三へ綽け白十四へ曲り出し黒十五へ押し白十六へ行び出せし時黒十七へ打ち而して十九へ押へる時は白の十二の下り無功に屬するを以て其惡手たるを知るべきなり

くの乙同く變化にして白八へ並びし時黒九と押へしは變化を生ずる處にして夫々手順を追ひ黒二三へ飛し時白二四へ置而して二六へ綽けし手順よし尙白二八へ曲げ黒二九へ尖み活を打し時白三十の手面白し是より手順を追ひ黒三五よし此爲に黒脫出すと雖白に四十と行切られては黒の形勢大に不可なり之れ他なし黒五の出切の無理筋の致す處と知るべし

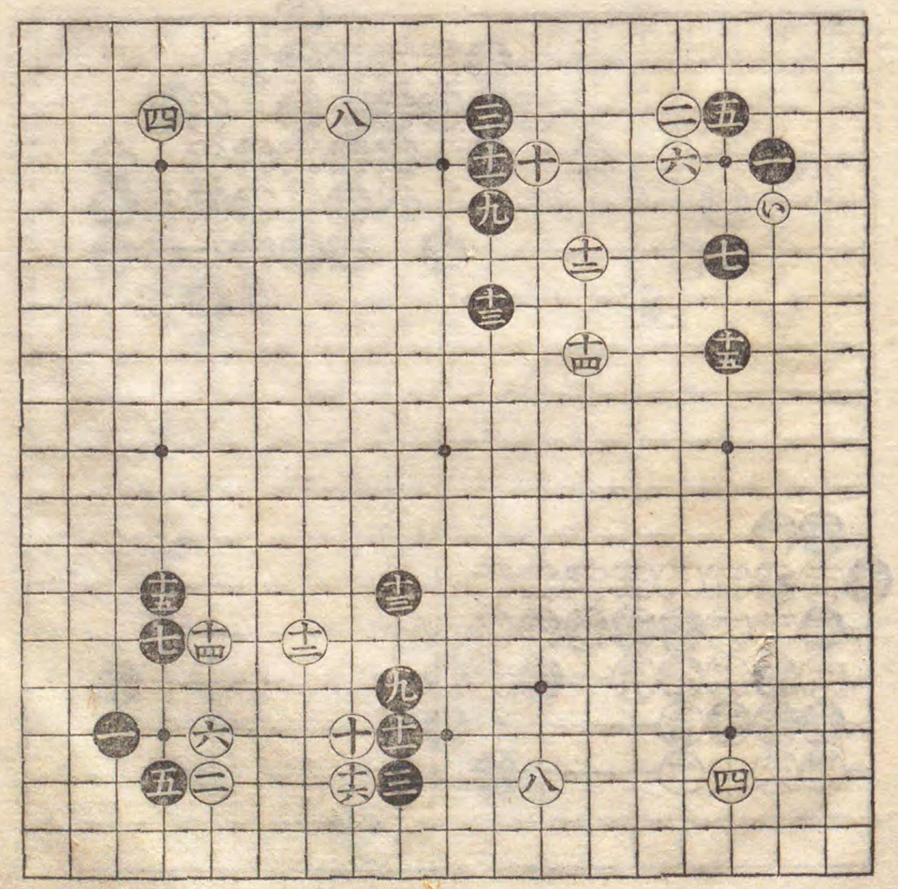
くの丙同く變化にして白十二の下りは甲隅にの如惡手なり然に黒十三の押へは共に惡手なり而して手順を追ひ白二十へ飛び黒二一へ附し時白二二の押は陷り手なり此時黒二三へ割込二五を切られては圖の如く白大陷りとなるなり之二二の押への爲す處なり故に白二二の手を二九の處へ行る時は黒底くなり大に不可となるなり

ゆ隅は黒二間夾にして白四と二間に詰返したる變化を示す白六へ割込八と粘ぎ而して十と切り圖の如き結果と成ては白大に不可なり然りと雖も十三と行たる黒にして白より二六の處へ押へ征に掛る場合に於ては去て黒の不可となると知るべし



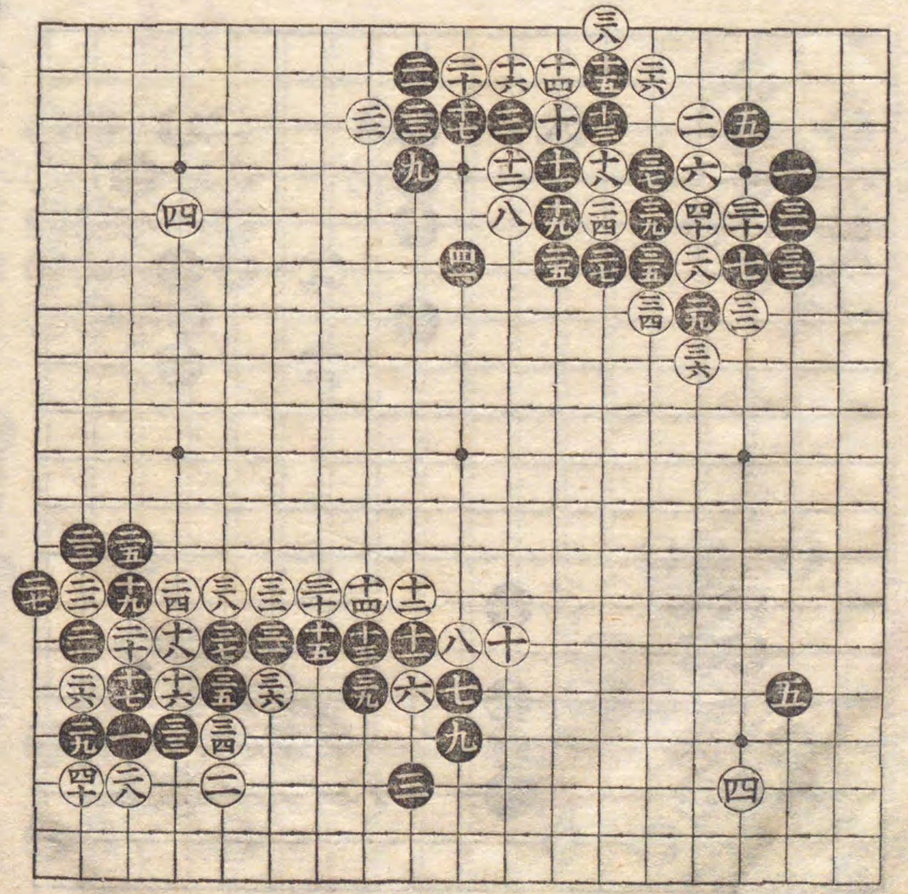
ま甲乙は小目三間夾の變化を示す黒三と三間に夾し時白の手拔きにて乙角へ四と着手の時は黒五と尖附七と斜走するは三間夾の定式なり此時白九の處へ帽子に打は普通なれども白の趣向としては圖の如く八と詰め打事有り此時黒九へ立し時白十へ覗しきは白十二と打の準備なり此時黒十三と打しは白より此所へ帽子に掛るを防ぎ傍ら十四の處へ帽子に掛るを含みたり故に白十四と飛出したり又此十四の手はへ附越を含みたれば黒も之を防ぎ十五と一間飛に打しは卽ち定則なり

まの丙丁同く變化にして白十二と打ち黒の十三と立しまでは甲隅同樣の意味に出たれども白に於て空に前面へ進むの必要なしと認むる時は卽ち十四へ附け十五へ行び地域を堅めさすると雖も白も亦た十六と押へ活道を形造るを以て道理上損得なきものにして尤も趣向に依て打べきものとす



㋩の甲乙小目三間夾の變化にして白八と帽子に打け黑九と斜走に啓き白十と附け黑十一へ駆出し白十二を切り黑十三へ白十四へ黑十五へ白十六へ黑十七へ白十八へ黑十九へ白二十へ黑二一へ白二二へ黑二三へ粘し時直に二六へ尖附るは普通なり然るを白二四へ押したるは普通に異る所にして即變化の生ずる處なり白而して二六へ尖附け黑二七へ押へ白二八へ附け黑二九へ綽け白三十へ孕れ而して三二を切り三四へ綽け黑三五を切り白三六へ一子を打貫き黑三七へ綽け白三八へ盤り黑三九へ先手に取り而して四一と掛ては白一子を打貫と雖も此變化は黑方優勢と知るべきなり

㋭の甲乙同く三間夾の變化にして黑三と夾しとき白乙角四と着手し黑直に五と之に掛り白六と帽子に打しは普通に異る處にして黑直に七と附引き白十へ行び黑十一を切り白十二へ綽け十四と押へ而して十六へ掛け手順を追ひ三十、三二と押へ黑三三へ突出し白三四へ押へ黑三五と切り白三六へ内より當て三八と先手に押へ而して四十と押へては尤も白方優勢なり之は黑に於て七と附引の手好まざる手順の來す處なり此場合に於ては七の手を打たずして單に十六の處へ尖むを普通にして又可なりとす

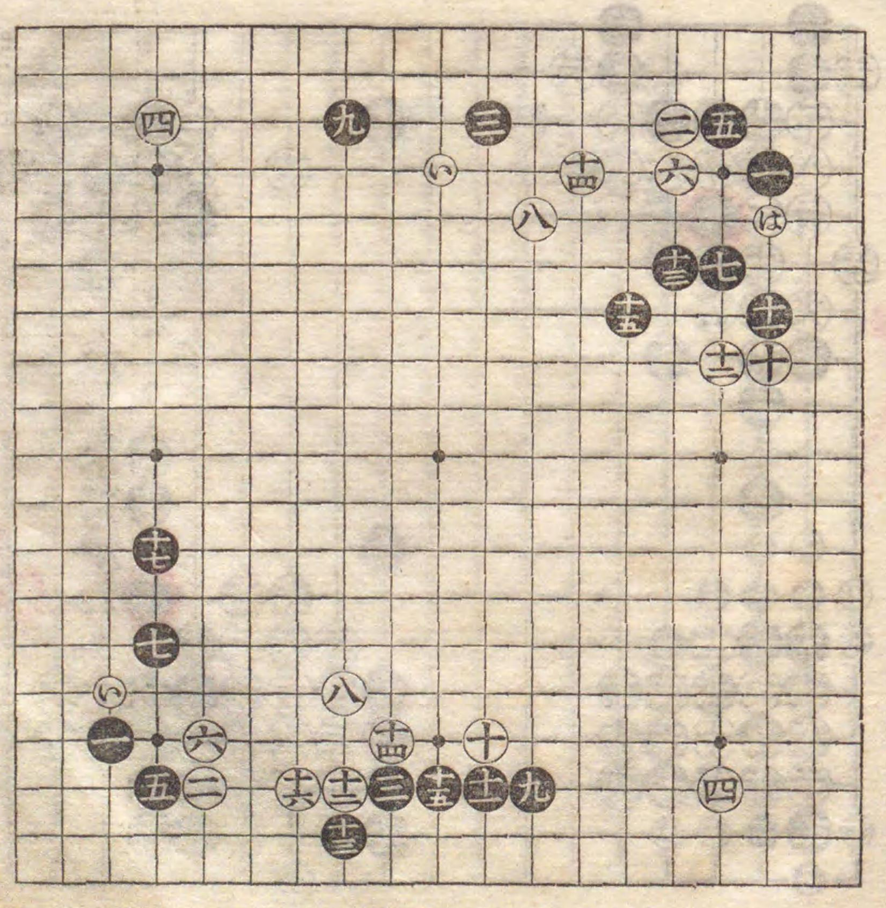


㋭ノ甲

㋭ノ乙

㋩の甲乙同小目三間夾の變化にし黑三と夾み白乙隅へ四と着手せし時黑五へ尖附け白六へ立ち黑七へ斜走せし時白八と打しは普通に異る處にして意味は㋺へ斜走に掛けを含みたれば黑も之を防ぎ九と二間に啓きしなり又白十と打しは㋩へ附越を含みたれば黑十一へ尖附け之を防ぎたり此時白十二と立しは十三の處へ附けを含みたれば黑十三と並びし手よし此十三の手は十四の處へ響たれば白十四と打たざるを得ず此時十五の手は白の左右へ響き最も佳手なり

㋭の丙丁同く變化にして前局に異る處は白十と覗き黑十一へ白十二へ附け黑十三へ綽けし時白十四へ孕れ黑十五へ粘きし時白十六へ引し形之れなり又此十六の手は㋺へ附越を含みたれば黑十七と打たざるを得ざるなり但し何れの定石と雖も其一局部に於て損得は認め難きものにして全局布石の模様に準ひ趣向として打べきものと知るべきなり



㋭ノ丙

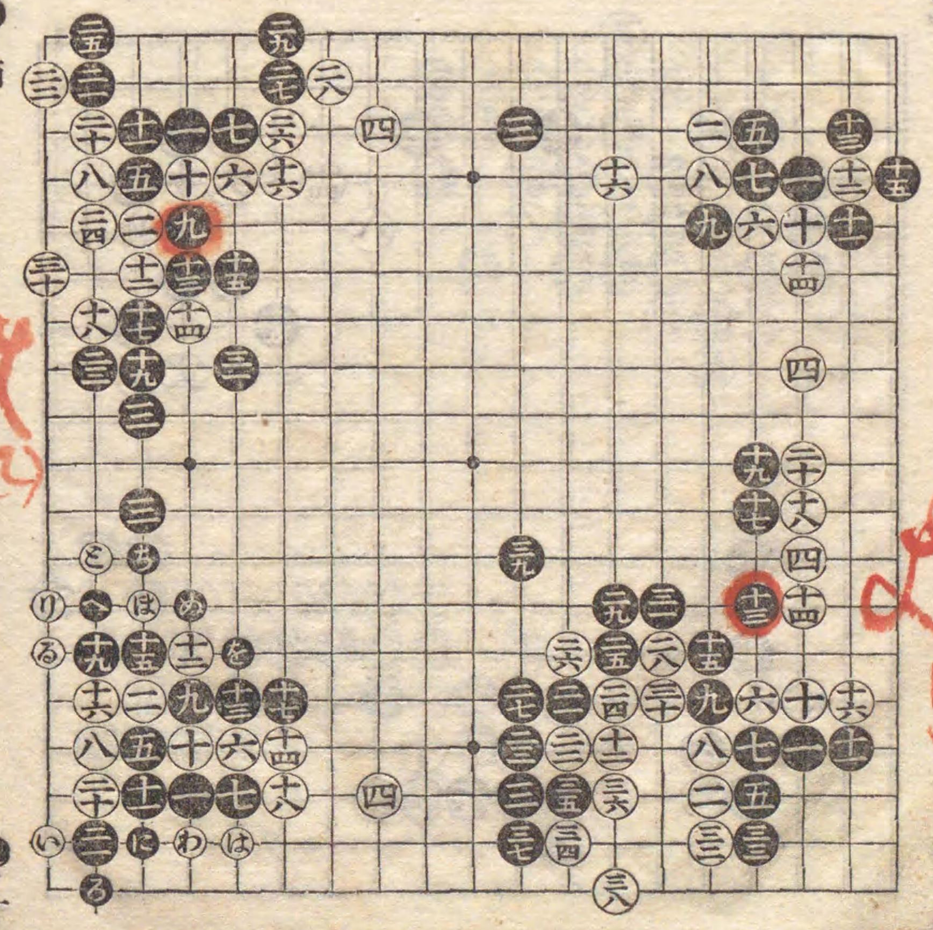
㋭ノ丁

え の甲は黒三間夾へ對し白四と三間に詰返しの變化を示す黒五と夾附し時白六へ掛け黒七へぐずむは此の場合の通例とす此時白八へ押へ黒九を切り白十と押へ黒十一へ綽けし時白十二の切よし黒十三へ抱へし時白十四へ曲り黒十五へ打貫き共によし此時白十六へ飛ては双方の手割平等なるべし

え の乙同く變化白十と押へし時黒十六の處へ綽けずして單に十一へ下りしを以て前局と異る變化を來たせしなり此時白十二へ飛び黒十三へ覗き白十四へ黒十五へ並び白十六へ押へし時黒十七十九と手を運び而して二一へ掛けたる黒の手順尤もよし之より手順を追ひ白三八へ活を打ち黒三九へ打ては黒の形よし但し黒先着にし後手に終りたれば損得は配石の模樣によるべし

え の丙同く變化にして白六と掛し時黒十の處へぐずまずして七と並びしは前局に異る處にして白八と綽けし時黒九へ刎出し肝要とす此時白十と切り手順を追ひ白二二へ綽けし時黒二三の押へ時宜よし此時白二四の粘きよし到底兩活となりては双方強て優劣なしとす只配石の模樣によるべし

え の丁同く變化にして黒十一を粘し時白十二へ綽けしは前局に異る處にし即ち圖の如き結果とはなりたり斯なりては一見黒の大勝と認むれとも左に非ず白の勝利なり如何となれは此時白ゑへ白ろへ白はへ黒ほへ黒へへ白とへ黒ちへ白りへ黒ぬへ白るへ黒るへ取し時白わへ打手有ればなり是は古來祕密手順なり

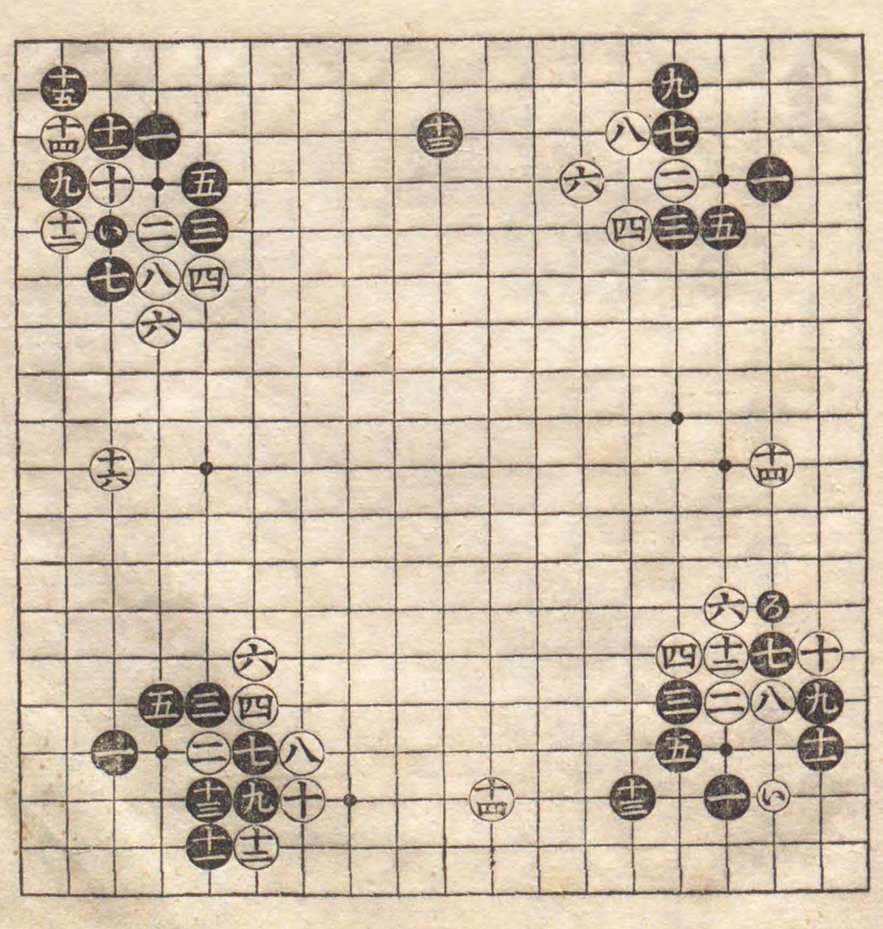


て の甲小目一間高掛りの變化を示す白二と打を高掛りと云此時黒三と附るを上附と云ふ又此場合にして三と七の處へ附る手も有り之を下附と云ふ又白四へ綽け黒五へ引き白六へ掛粘し時は黒八の處へ覗くを普通とすると雖も場合によりては七と附け九と下る事も有りと知るべし

て 乙同く變化黒七と覗きしは前局に異る處なり此時白十二の處へ粘ぐは普通なり然るを八の押へは少々無理筋なり何となれば黒九の處へ綽けし時黒十一の處へ押へる手なればなり此時黒九へ綽け白十へ切り黒十一へ引き白十二へ粘き黒十三へ掛粘きしは白より ゑ へ附越有ればなり又白十四へ啓きしは黒 る へ行出す手有るが故なり

て の丙同く變化白八と粘しとき黒 ゑ へ引を普通とすると雖も若し大塗りに打れ場合悪き時は斯く打を可とす又黒十三へ啓きては黒より ゑ へ突込む手有を以て白十四と切黒十五と押へし時手拔きにて十六と打を法とす

あ の甲同く一間高掛の變化にして黒五と引し時白六へ行出すは一の變化にして配石の模樣にて手段として打事あり此時黒七を切り白八へ綽け黒九へ下り白十へ押へし時黒十一へ夾むを定則とす此時白十二へ當て而して十四へ啓くも通則とす

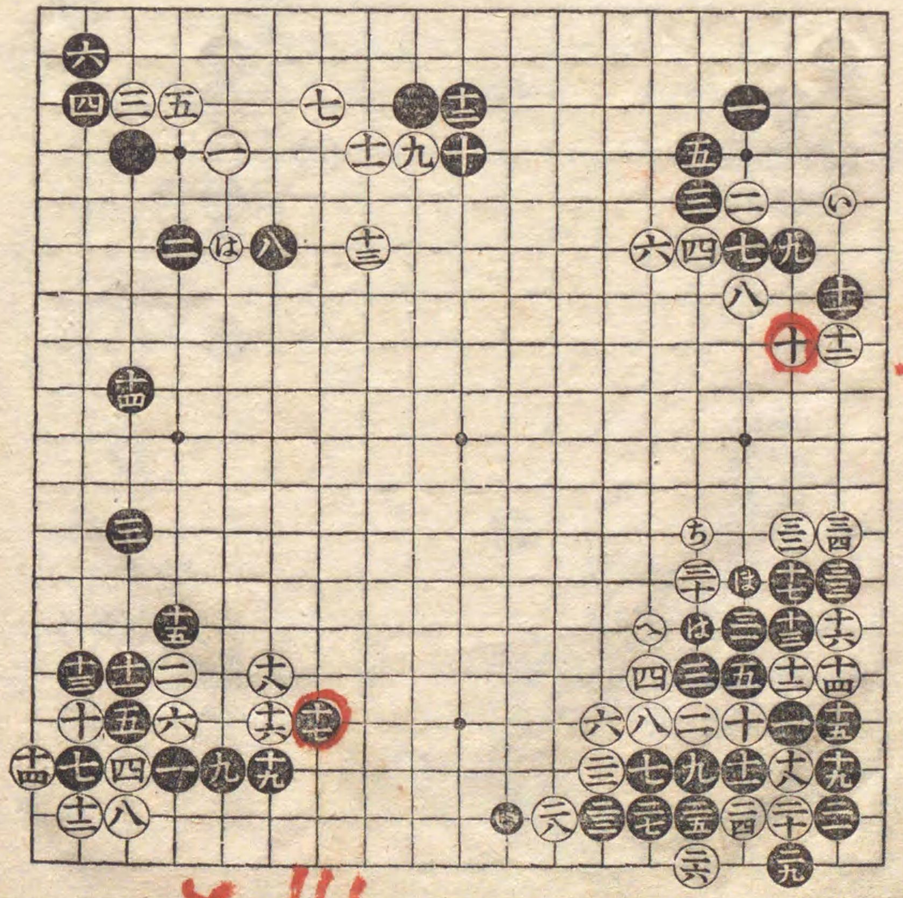


あの乙同く變化にして黑九へ行し時白十と尖みしを以て前局と異なる變化を來たせしなり此十の手場合によりては面白し此時黑十一へ尖み白十二へ押へし時黑手拔きなれば白㋷へ打つ手殘りあるなり

さ角は一間高掛り大塗り變化を示す白二四、二六と手を運二八と押へし意味は黑より㋷へ附られし時の豫防なり又此定石にし普通に異りしは白三十、三二、三四の押へ之れなり普通は三十の手にて三一の處を切り黑㋷に曲り白三十の處へ綽け黑㋷へ取り白㋹へ押へ黑粘し時白あへ行び黑三三の處へ押へる定石なれとも場合によりては此圖の如く打も面白し

さ角黑小目にして目脇啓き有る處へ白一と一間高掛りに打し時の双方應答手順を示す黑二と斜走に脫し黑三と附け黑四へ綽け白五へ引し時黑六と行るは定例なり此時白七と啓し時黑八と飛びしは白より㋷へ附る手有ればなり白九へ附け十一へ引き而して十三へ飛は普通の手順とす

あの角は白一間高掛りへ對し黑三と詰返せし變化を示す白四と附け黑五へ驅出し白六を切り黑七へ綽け白八へ行し時黑九の並びよし尙白十を切り黑十一へ黑十二へ白十三へ白十四へ黑十五へ綽けし時白十六へ飛び黑十七の附け尤も面白し此手の爲に黑の形勢優等とはなりしなり

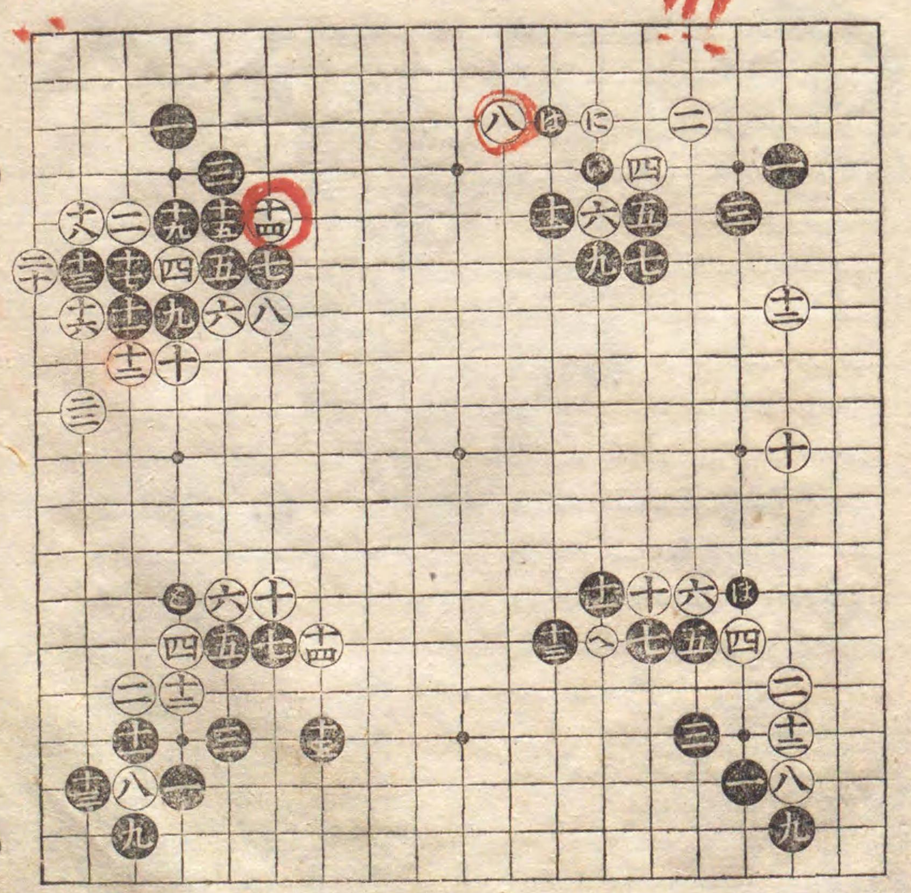


めの甲相尖の變化を示す此相尖は古風として今は絶て打たずと雖も其手筋をも此心得ざるは不可なり故に其大略を示すべし黑三へ白四へ尖むを相尖と云此時黑五へ附け白六へ黑七へ行し時は黑より㋷を切る手有るを以て白八へ打ちたり此時圖の如く黑九へ押へしは手拔きにて十へ打ち猶黑十一へ綽ければ又手拔きにて十二へ啓く趣向を含し八の手なり此時黑㋷へ附ければ白㋹へ尖附る手有りと知るべし

めの乙同く變化を示す黑七と行し時白八と附しは㋷の切を防ぎたる手なり故に黑九と綽けし時白十と押へしなり此時黑十一へ綽けし故へ黑十二と棒粘ぎは㋹の切を含みたり故黑十三と掛粘しものと知るべきなり

めの丙同く變化白八と押へしは普通に異る處にし是は黑より九と切るを覺悟の上の手段とす此時黑九を切り白十へ黑十一へ白十二へ黑十三へ尖みし時白十四よし此手は四の一手を捨前備にして黑を凝したるなり而して十六へ當て十八へ押へ二十と先手に盤るも二二と掛粘がざるを得ざれば白の形好ましからざるなり

めの丁同く變化にして白十と押へし時黑十一と綽けしは卽ち變化を生ずる處なり此時白十二の孕れし何となれば㋷の切を傍ら防ぎたれば此時黑十三へ打貫き白十四へ綽け黑十五へ飛ては黑形勢確かなり然れとも白に於て前面に大模樣在る時は白も又面白し



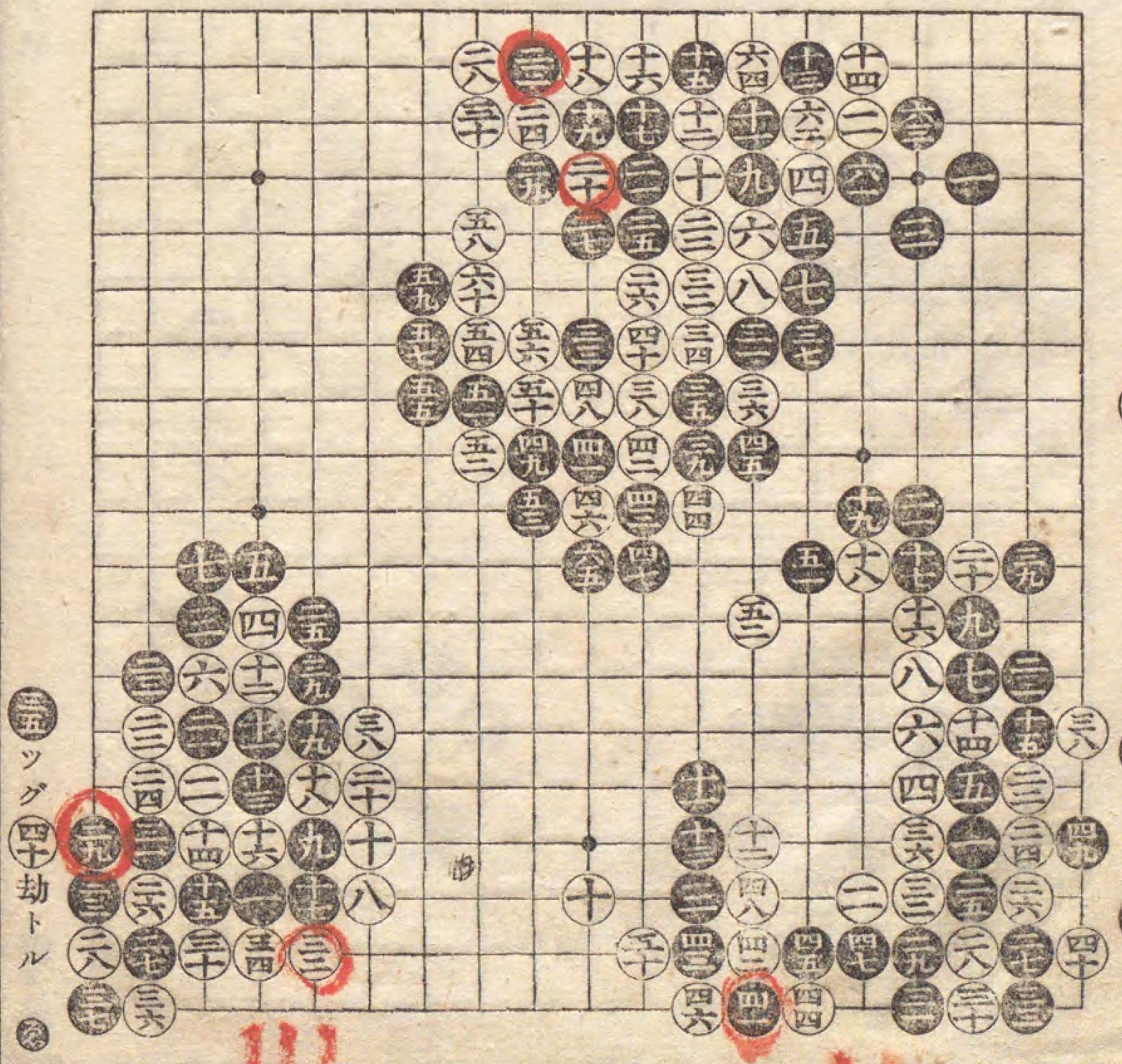
(み)角は相尖み押へにして快全大塗を示す黒十三と尖み白十四と押へ黒十五へ綽け白十六へ押へ黒十七を切り白十八へ並び黒十九へ押へ白二十へ附け黒二一へ突出し二三及び二五の處へ押へて而して三一の處へ當るを手順とす又六、八のへ續く六八、の二子を征に掛る場合に於ては白十四へ押へる手なし此大塗は此征の受け白に在る場合と知べきなり又此黒の趣向は道策時代の僧にして快全は七段の手合を打し强の者といへり

(し)角は二間夾の異變化にして元來陷手に成立ち後改良し完全たる定石となりたるを示す初發は白四十と綽け黒四五の處へ飛び白四七の處へ突出し而して四二の處へ附るを以て黒死石とはなりたり然るを後ち白四十と綽けし時圖の如く黒四一へ飛び白四二へ附け黒四三へ白四四へ押へし時黒四五を切り四七へ引しは妙手なり此の妙手の爲に黒の手數一手を延ばし四九と打ち黒は生活を得たり此時白五十へ盤り黒五一へ綽けし時白五二へ打を以て割合に於て强て優劣なき定石とはなりたるなり

(ゑ)角は二間夾の異變化を示す黒三一へ突込し時白三二の綽け一寸と心付かざる意外の妙手にして圖の如く却となりては黒の不可は言を俟たざるなり

相先の部畢

(み)



㊂㊃二八ノ處へ打カウ ㊂㊄同トル ㊂㊆ツグ (し)

㊂㊄ツグ ㊃㊉劫トル (ゑ)

附錄

○此編は古來の打碁中奇手玄妙秘傳の種類凡四十七種にして變化を合せ六十二局を記す

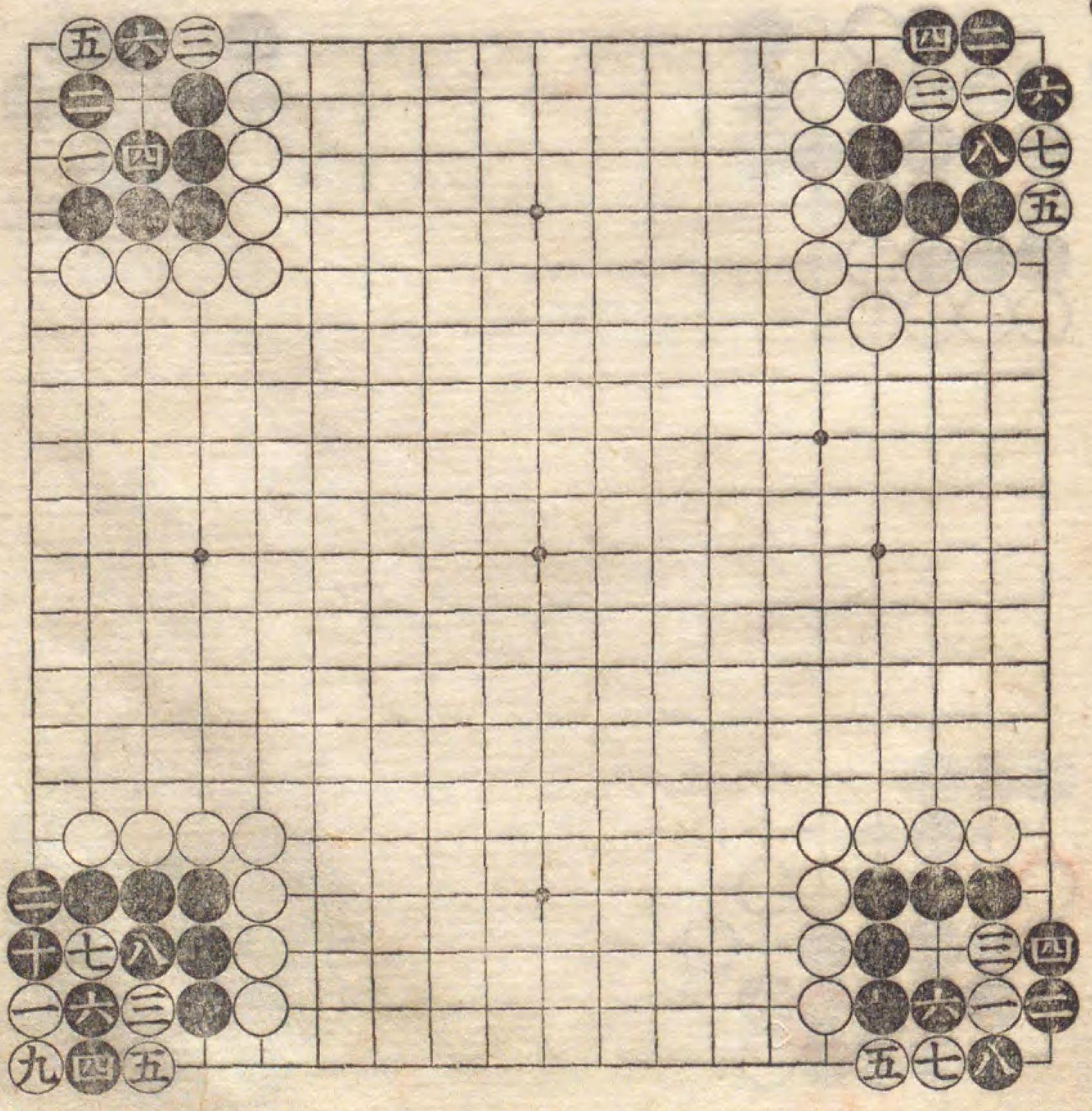
(ひ)角は初學者迷疑ひを生ずる處の九目中手の打方を示す白一と打ち黒二と附け白三へ突當り黒四へ盤り白五へ綽けし時黒外面圖の如く間目在る時は六へ綽け刼となるを定式とす

(も)の甲同く九目中手にして黒外面に間目なき打方を示す白一黒二白三黒四白五までは前局同じなれとも外面間目なきを以て此場合にては黒六へ突當り八と刼に打込を定則とす

(も)の乙同く變化白一と附し時は黒二へ夾み白三と綽けし時黒四の押へよし此時白五へ附け黒六へ打込めば卽刼となるなり

(も)の丙同く變化にして白一と斜走に打込黒二へ下り白三と附し時黒四の置よし此時白五へ押へ黒六へ突出白七へ押へ黒八へ當て白九へ取し時黒單に十と突込を以て黒活となるなり是は白の一の手の不可なるによるものとす

(ひ)



(も)ノ乙

(も)ノ甲

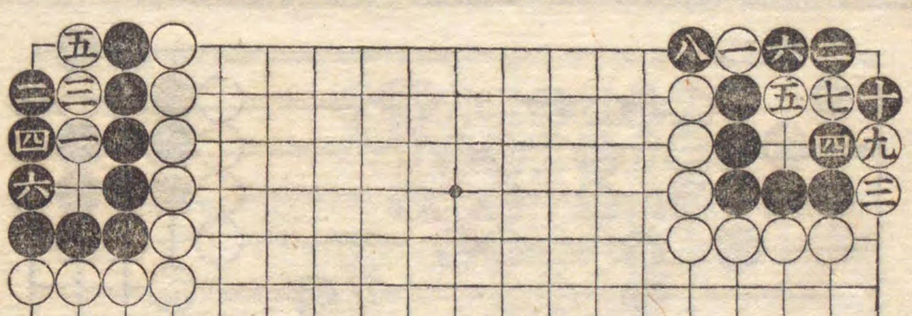
(も)ノ丙

㋷の丁同く變化にして白一と綽けし時は黑二と斜走に打を定法とす此時白三へ綽けし時黑四の曲りよし此時白五へ刎込み黑六を切り白七へ押へ黑八へ取り白九へ盤りし時黑十へ打込み卽ち刼となるなり此九目中手決局刼になると知きべきなり

㋹角は同九目中にして圖の如く黑に綽け在る打方を示す白一と打し時黑二の手よし白三へ突當り黑四へ引き白五と行し時黑六を粘ぎ持となるを定則とす

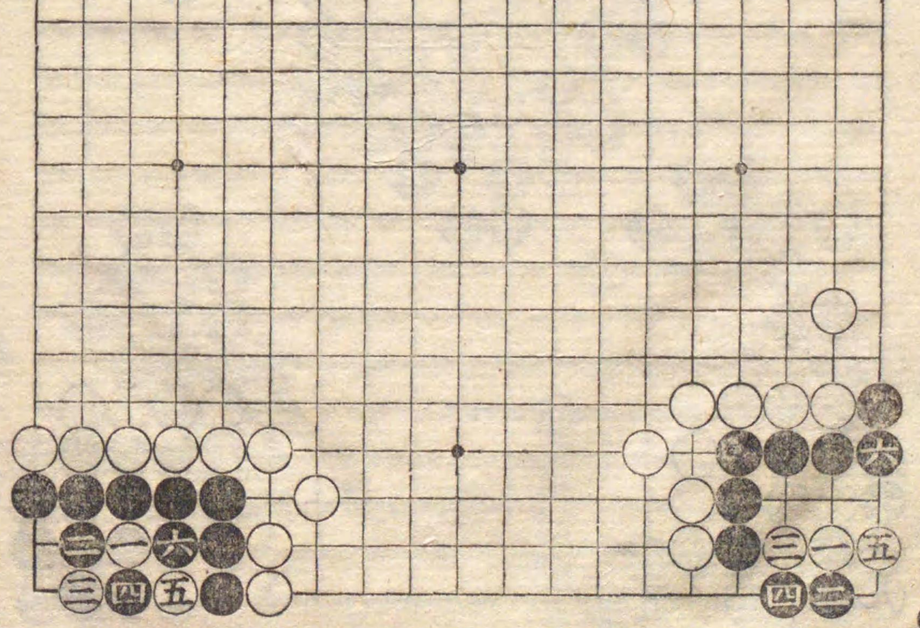
㋺の甲黑八目中にして外面圖の如く間目なき時の打方を示す白一と打ち黑二へ飛び白三へ突出し黑四へ並び白五へ突拔き黑六へ引を以て卽持となるなり

㋻の乙同く變化にして黑圖の如外面に間目在る場合の打方を示す白一と打ち黑二と押へ白三へ綽け黑四へ打込み白五へ取りし時黑六と當るを以て卽ち黑活なり此八目中は外面に間目在るは活間目なれば持と知るべきなり



㋷ノ丁

㋹ノ甲



㋺ノ乙

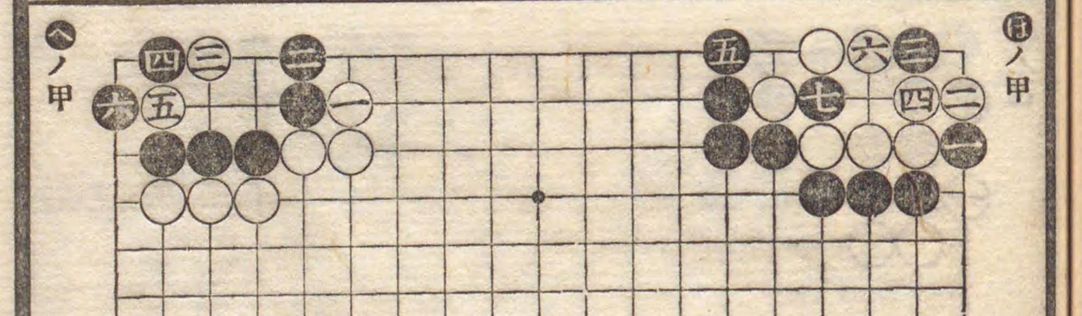
㋻ノ乙

㋼の甲此局を古來俗に駆殺しと云ふ其打方手順を示せば黑一と駆掛け白二へ押へ黑三へ打込み白四へ打ち黑五へ下り白六へ突當り黑七へ打込を以て卽ち死石となるなり此手順として最初に一と駆掛け死石となるを以て駆殺しとは號けたり

㋽の乙同形にして圖の如く白に綽け在るのと無しとは死活の差有を以て其手順を示す黑一と打し時白之を取れば駆殺同樣死石となるなり然るを白二へ曲る時は活なり其理由は此時黑三へ下れは白四へ並ぶ手有ばなり

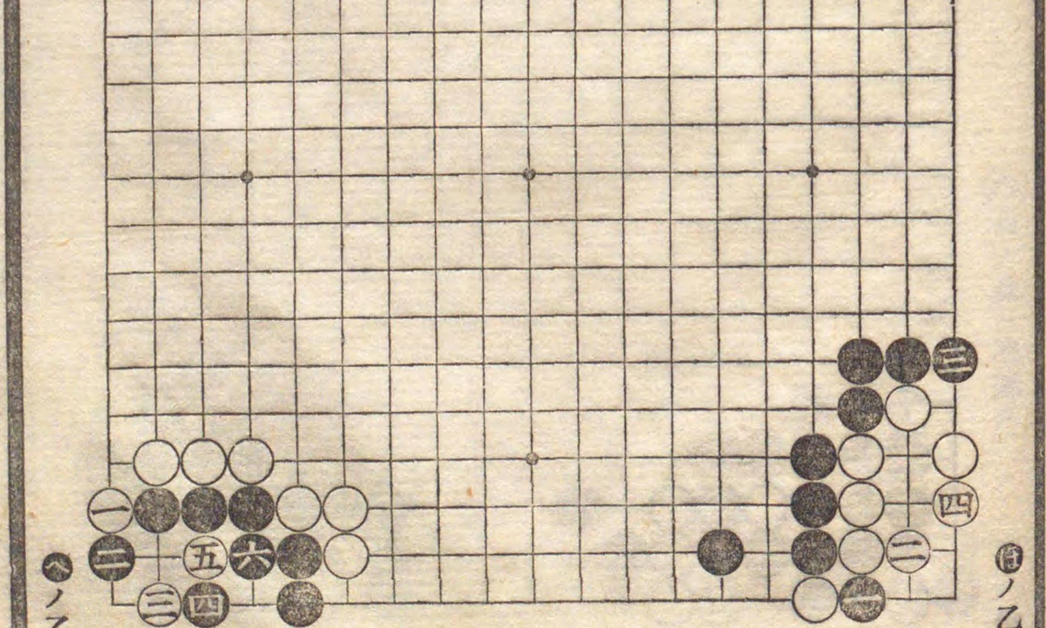
㋾の甲圖の如き形にして白先手なれは劫となる手順を示せば白一と押へ黑二へ下り白三へ置き黑四へ附け白五へ刎込み黑六と受れば卽ち刼なり

㋿の乙同形にして已に白一と押へ黑二と下り在る場合にして白一と綽け黑二ト押へ白三へ置きし時黑四へ附け白五へ刎込し時黑六と押へれば卽ち刼となるなり此甲乙兩局は何れにするも決局刼となると知るべきなり



㋼ノ甲

㋽ノ甲



㋾ノ乙

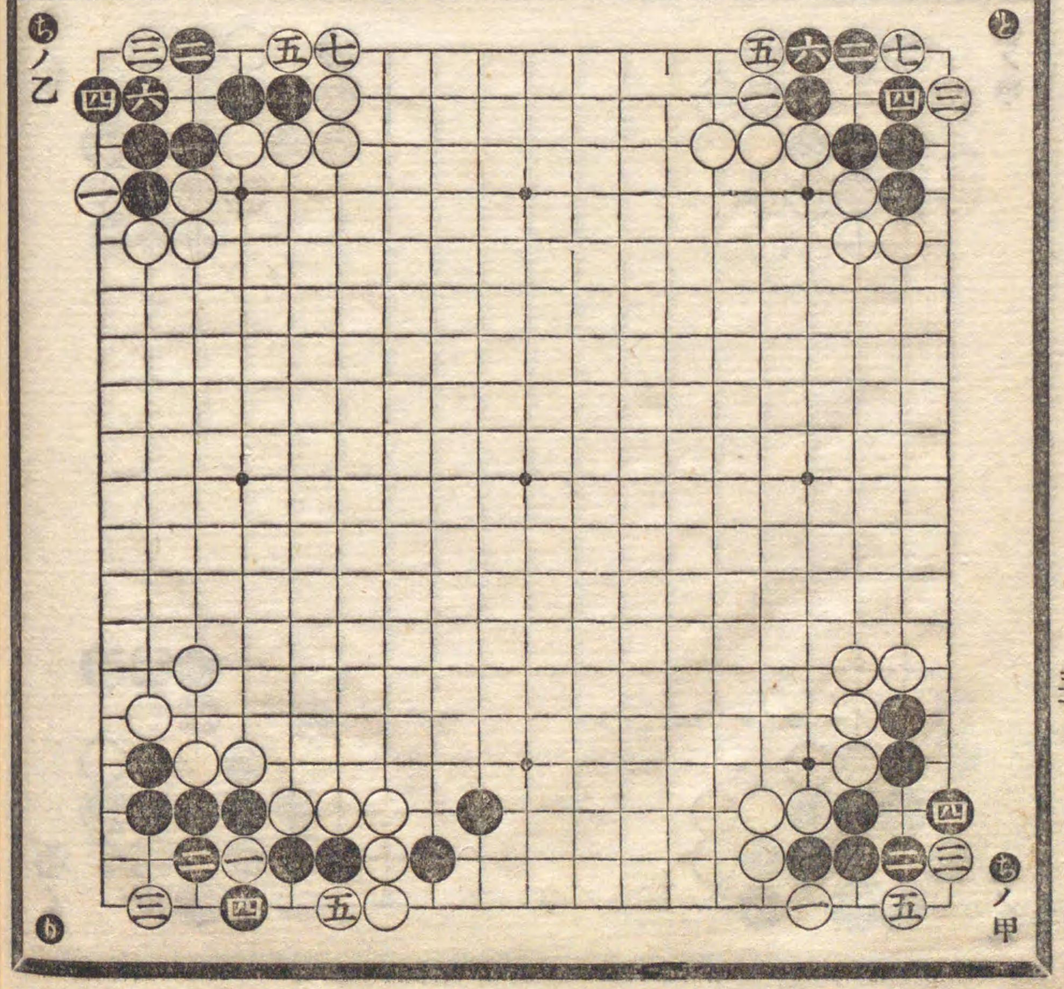
㋿ノ乙

ゑ角此形にして白先手なれば切となるなり故に其手順を示せば白一と押へ黑二へ掛粘ぎ白三へ置き黑四へ押へ白五へ下り黑六を粘ぎ白七へ打込む時は卽ち切なり

ち の甲此形にして白先切となる手順を示せは白一へ綽け黑二へ曲り白三へ附け黑四へ押へし時白五へ綽けるを以て卽ち切となるなり

ち の乙同形にして黑の受方惡き時は死石となるの手順を示せば白一へ綽け黑二へ掛粘ぎし時白三へ打ち黑六の處へ打てば前甲局同樣切となるを以て黑四へ尖みしは惡手なり何となれば此時白五へ綽け黑六へ目持の時白七へ粘を以て死石となればなり

り角此形にして白先手なれば黑方死石となる手順を示せば白一と切り黑二と押へし時白三と置し手よし此時黑四へ一子を打貫し時白五へ行込を以て黑死石となるなり

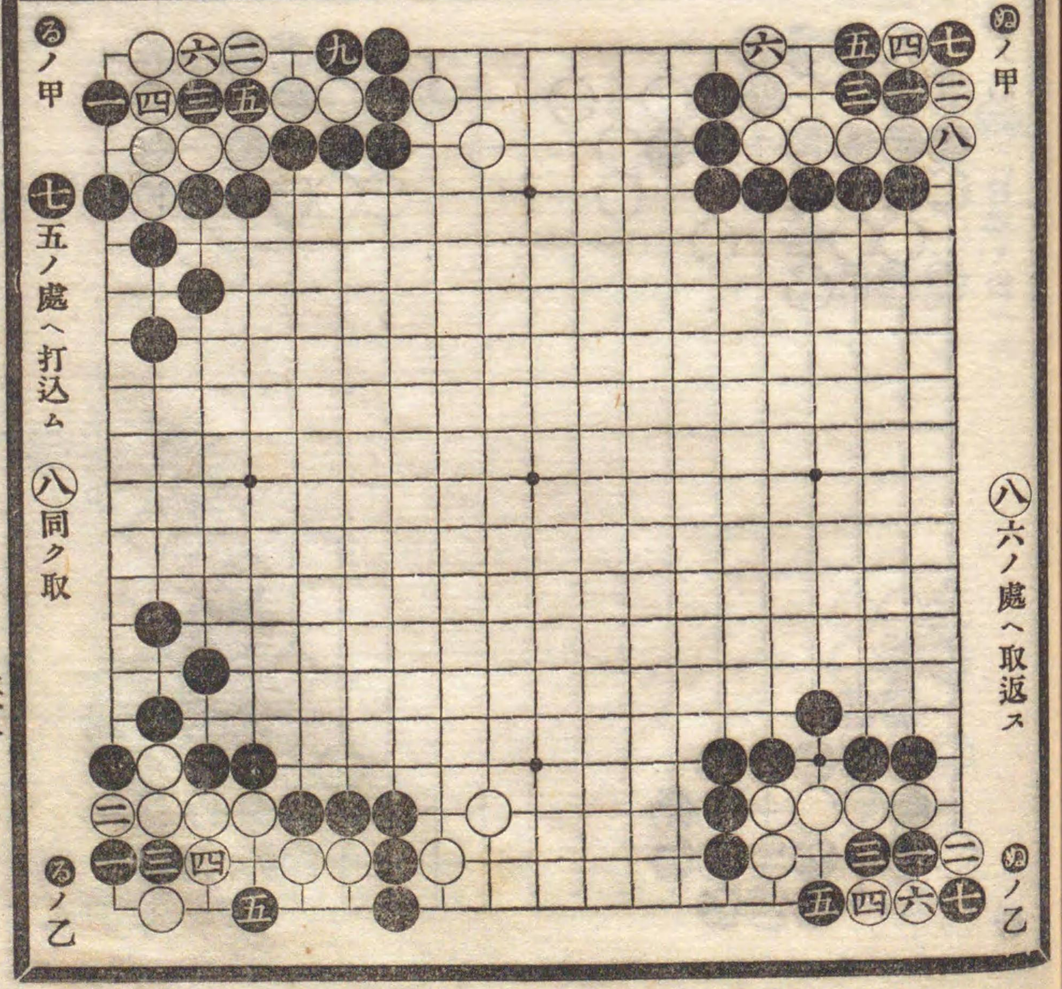


ぬ の甲此形にして黑先手なれば一時の持にして其實長生切にして到底切死となる手順を示せば黑一と附け白二へ綽け黑三へ並び白四へ綽け黑五へ押へ白六へ下り黑七へ取り白八へ粘を以て卽ち當分持とはなりしなり

ぬ の乙前同形にして白外面一つの間目在る時は黑先手に打込むも持か活の外なき手順を示せば黑一白二黑三へ並びし時白四の手よし此時黑六の處へ押へれば白五の處へ引を以て卽ち持となるなり又圖の如く黑五へ押へれば白六へ引き二子を捨るは之れ妙手なり此時黑七へ打ち二子を取り白又六の處へ一子を取戻すを以て活となると知るべし

る の甲此形にして黑先白死となる手順を示せしば黑一と打ち白二へ掛粘ぎ黑三へ白四へ打し時黑五へ突込み二子にして捨て而して又七と五の處へ打込し手順妙なり此時白之を取し時黑九へ打を以て卽ち白死石とはなりしなり

る の乙前同形の變化黑一と打込し時白二へ押へしは卽ち前局と變化する處にして此時黑三の突出し妙なり此時白四へ押へし時黑五へ置を以て白死石とはなりしなり

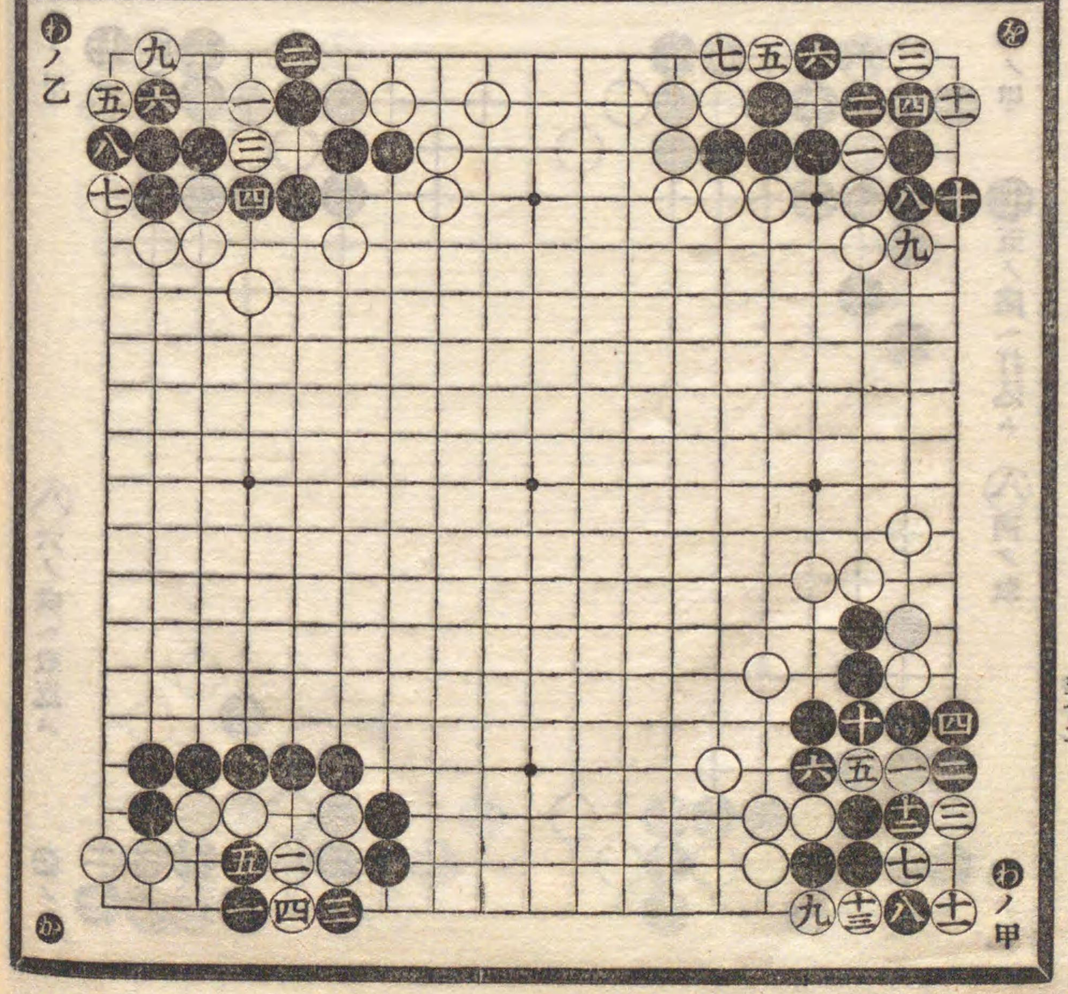


ゐ角此形にして白先黑死石となる手順を示せば白一と出黑二へ押へし時白三の置きよし此時黑四を粘ぎ白五へ綽け黑六へ白七へ粘ぎ黑八へ行出し白九へ押へ黑十へ曲り白十一へ綽けるを以て卽ち曲り四目定式の死石となるなり

の甲此形にして白先刼となる手順を示せば白一と附け黑二へ綽け白三へ押へ黑四へ粘ぎ白五へ突出し黑六へ押へし時白七の尖附面白し黑八へ綽け白九へ刎黑十へ當て白十一へ打込み黑十二へ取り白十三へ取り卽ち刼なり

の乙前同形にして變化の手順を示せば白一と附し時黑二と下りしは卽ち變化にして前局に異なる處なり此時白三へ行出し黑四へ押へし時白五の打込尤も妙なり此時黑六へ押へ白七へ綽け黑八へ押へし時白九へ刎るを以て卽ち刼となるなり

か角の形にして黑先なれば白死石となるの手順を示せば黑一の打込よし此時白二へ並びし時黑三へ綽け而して五へ突當りしは輕くして妙なり卽ち此一手にて白死石となりしなり

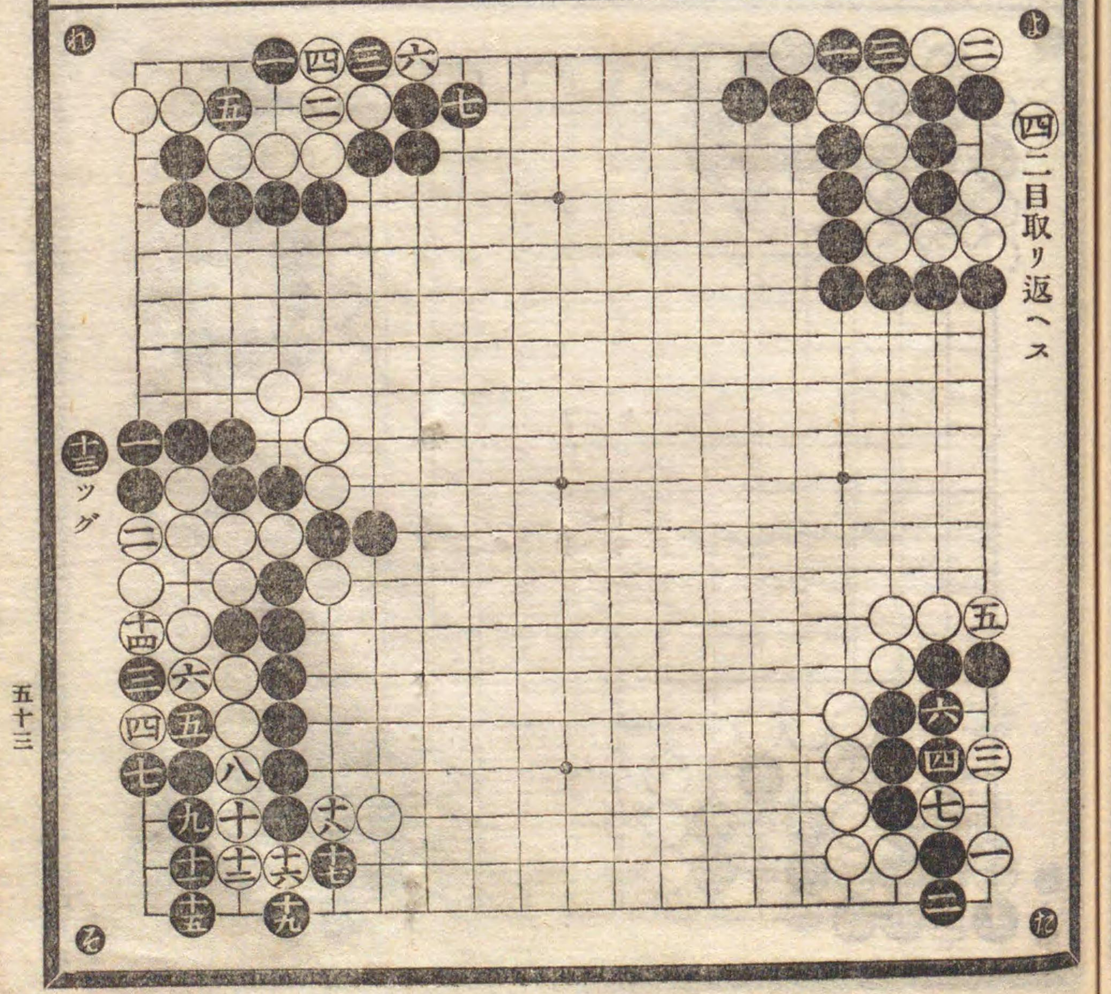


た角此形白死石と見へて死石にあらず盡ずの刼形にして到底持と爲すの外なし其手順を示せば黑一と打たるを以て普通死石と斷定する處なるに奇なるかな此時白二へ突込黑は三へ取らざるを得此時白又一、三の二子を取る時は前形に復すなり此時又黑一へ打込めば白又二へ突込を以て卽ち盡ずの刼の如し故に之を持とす

ね角此形にして白先手なれば刼となるの手順を示せば白一と附け黑二へ下り白三と飛び黑四と打ち白五を押へ黑六へ粘し時白七と打込を以て卽ち刼なり

な角此形にして黑先手なれば白死石となるの手順を示せば黑一の置よし此時白二へ粘ぎ黑三へ綽け白四へ押へ黑五を切り白六へ取し時黑七へ並ぶを以て白死石となる

ら角此形にして黑先白死石となるの手順を示せば黑一と粘ぎ白二を粘ぎ黑三へ打白四へ附越し黑五へ附出し白六を切し時黑八の處を押へれば前面の黑手足ざれば七へ取り白八へ突出し黑九へ行び白十へ突出し黑十一へ行び白十二へ押へし時黑十三の粘妙なり而して黑十五行びし手順面白し此時白十六へ曲り黑十七へ押而して黑十九へ刎られては白死石となるなり

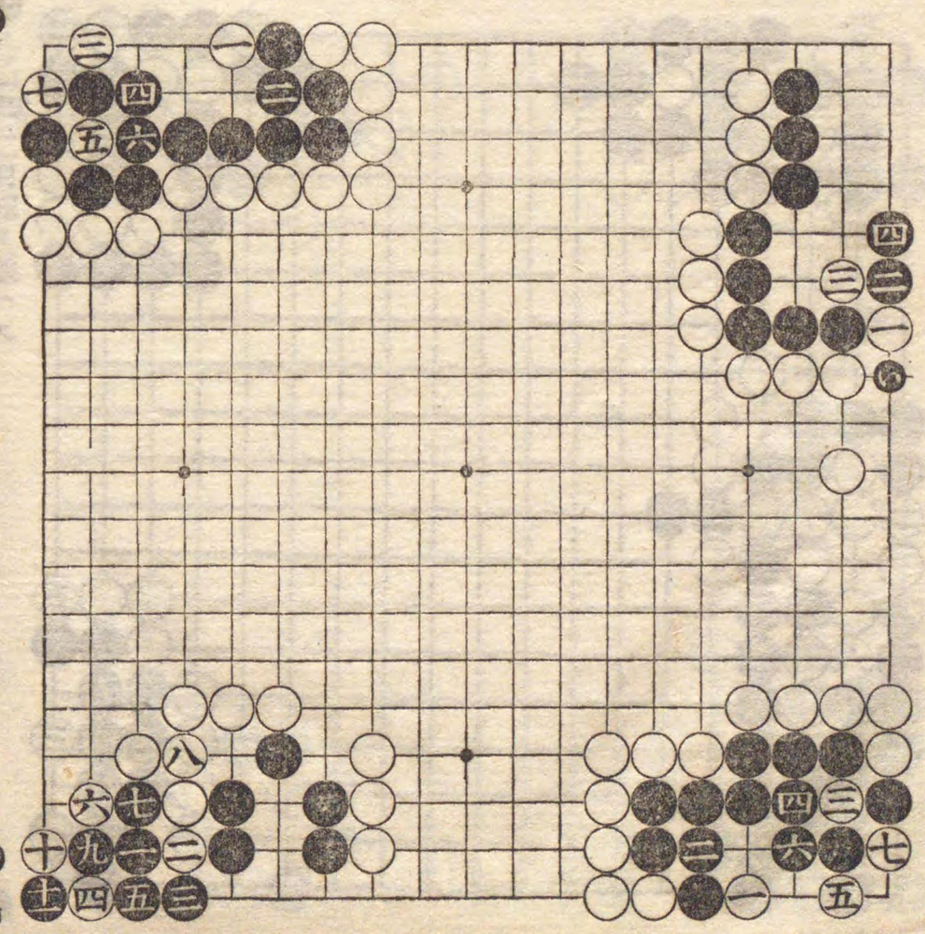


㋮角此形にし白一の綽けは打堅手なれども此時黒二と押へては白三と切らば黒㋭をとり白に四の處へ押られては劫となる危險に見へしに黒四の行は一寸思ひ附かざる妙手なれば爰に記す

㋰角此形にして白先手なれば劫か持になるの手順を示せば白一と當て黒二へ粘ぎ白三へ打込 妙 手此時黒四へとり白五へ附け黒六へ打し時七と打込ば卽ち劫なり又黒六の手を七の處へ粘げば白六の處へ打ち持となるなり

㋱角此形にして白先手に打掛る時は黒後手に二子を捨るか左なければ劫となる手順を示せば白一黒二白三と附け黒四へ並び白五へ打込み黒六へ取れば白七へ打込み卽ち劫なり此時黒六へ取らずして七の處粘げば白六の處へ先手二子を取手順なり

㋲の甲此形にして黒先手なれば劫となるの手順を示せば黒一白二黒三へ盤し時白四の置きよし此時黒五へ粘ぎ白六へ尖み黒七へ突込み白八へ黒九へ白十へ黒十一へ取を以て卽ち劫となりしなり



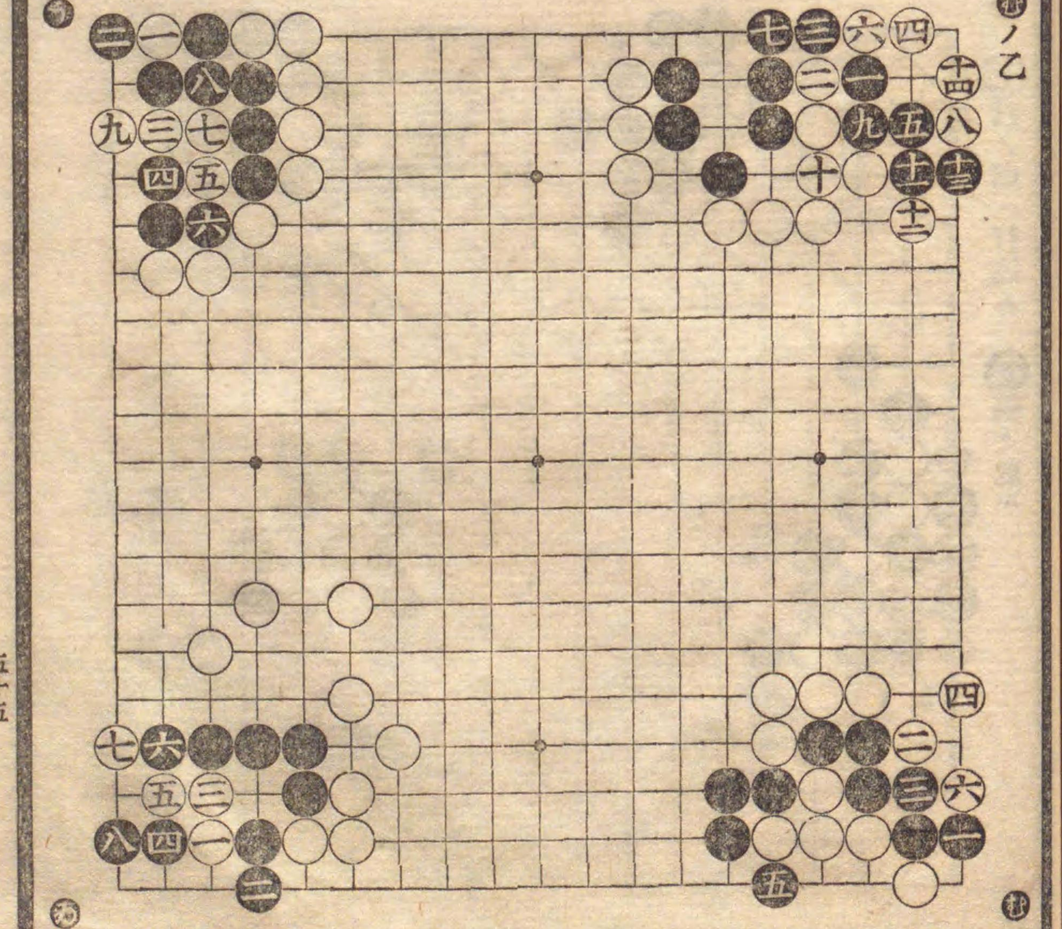
㋲ノ甲

㋳の乙同く變化の手順を示せば黒一白二黒三白四と置し時黒六の處へ粘ずして黒五へ尖みしは卽ち變化なり此時白六へ突込而して八へ附し手 妙 手なり此時黒九へ當て十一へ曲り出し白十二へ押へ黒十三へ押へし時白十四へ引を以て死石となりしなり故に黒は劫に打外なし

㋴角黒先劫となるの手順を示せば黒一へ白二へ黒三へ粘し時白四へ掛粘ぎ黒五へ綽けし時白六へ打込むを以て卽ち劫となるなり

㋵角此形にして白先手なれば黒死石となるの手順を示せば白一の打込 妙 手なり黒二へ取り白三へ附け黒四へ突當り白五へ割込黒六を切り白七へ粘ぎ黒八へ粘し時白九へ下るを以て卽ち黒死石とはなりしなり之れ一の 妙 手の爲と知るべきなり

㋶角此形にして白先手に打掛るも黒活となる手順を示せば白一と附け黒二へ下り白三と行し時黒四と附しは妙手なり此時白五へ曲り黒六へ押へ白七へ綽けし時黒八の並びよし爰に至り白手段なく黒は活となりしなり



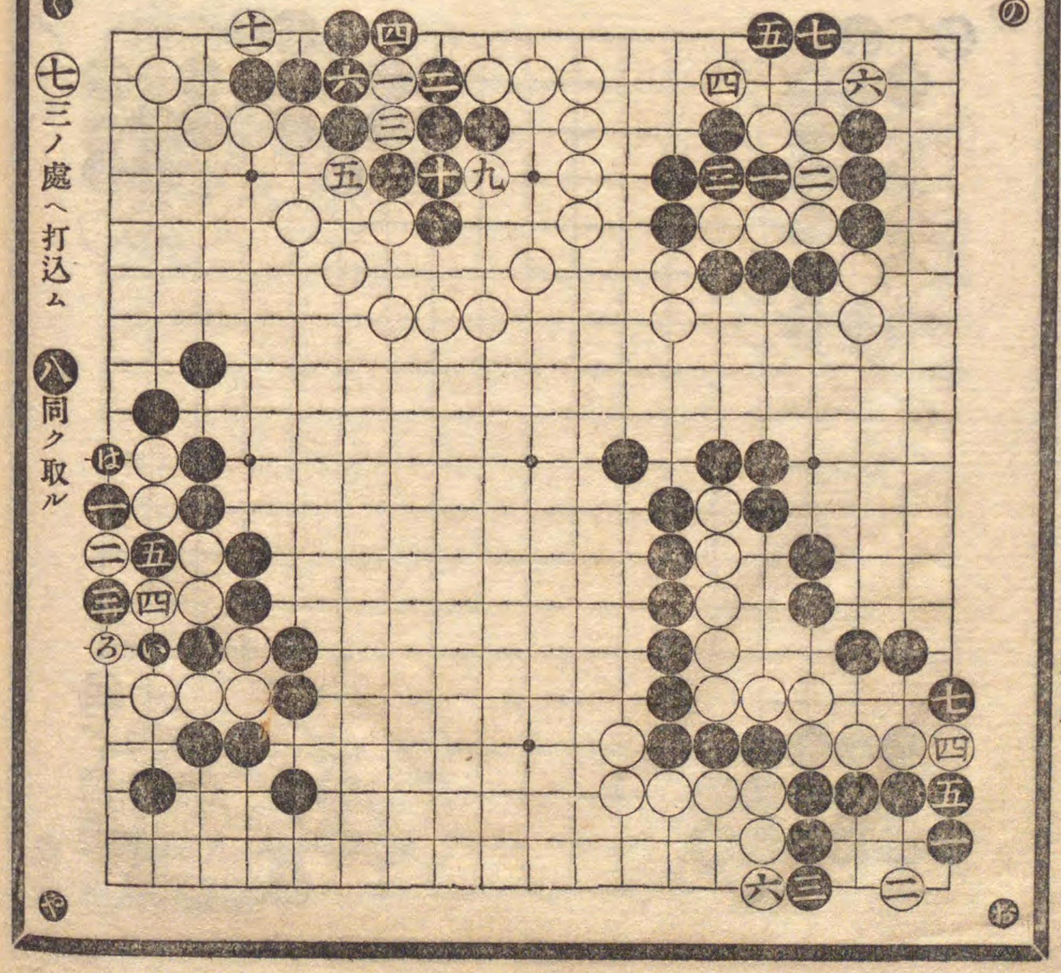
㋳ノ乙

の角此形にして黒先手なれば攻合黒の勝となるの手順を示せば黒一へ白二へ黒三へ白四へ綽けし時黒五へ置き又白六へ綽けし時黒七へ並ぶを以て二手三手となり黒の勝とはなりしなり之れ外ならず黒五、七兩手の奇手玄妙の爲す處なり

は角此形にて黒先手なれば攻合勝となる手順を示せは黒一と尖み白二へ目を缺き黒三へ白四へ黒五へ白六へ押へし時黒七と打を以て卽ち六手七手にして黒一手の勝とはなりしなり之外ならず黒一の尖に有なり

く角此形にして白先黒死石となるの手順を示せば白一と打ち黒二へ押へし時白三の突込此手妙手なり黒四へ白五へ當て黒六へ取りし時白又三の處へ打込み黒之を取し時白九へ覗き黒十へ粘白十一へ打を以て卽ち黒死石となるなり

や角此形にして黒先手なれば劫となる手順を示せば黒一と附け此手妙手なり白二と押へ黒三へ當て白四と押へし時黒五へ取を以て卽ち劫なり然るを白二の手を黒五の處へ粘きし時は黒ゆへ下り白ろへ綽し時黒ほへ引を以て白死石となるなり

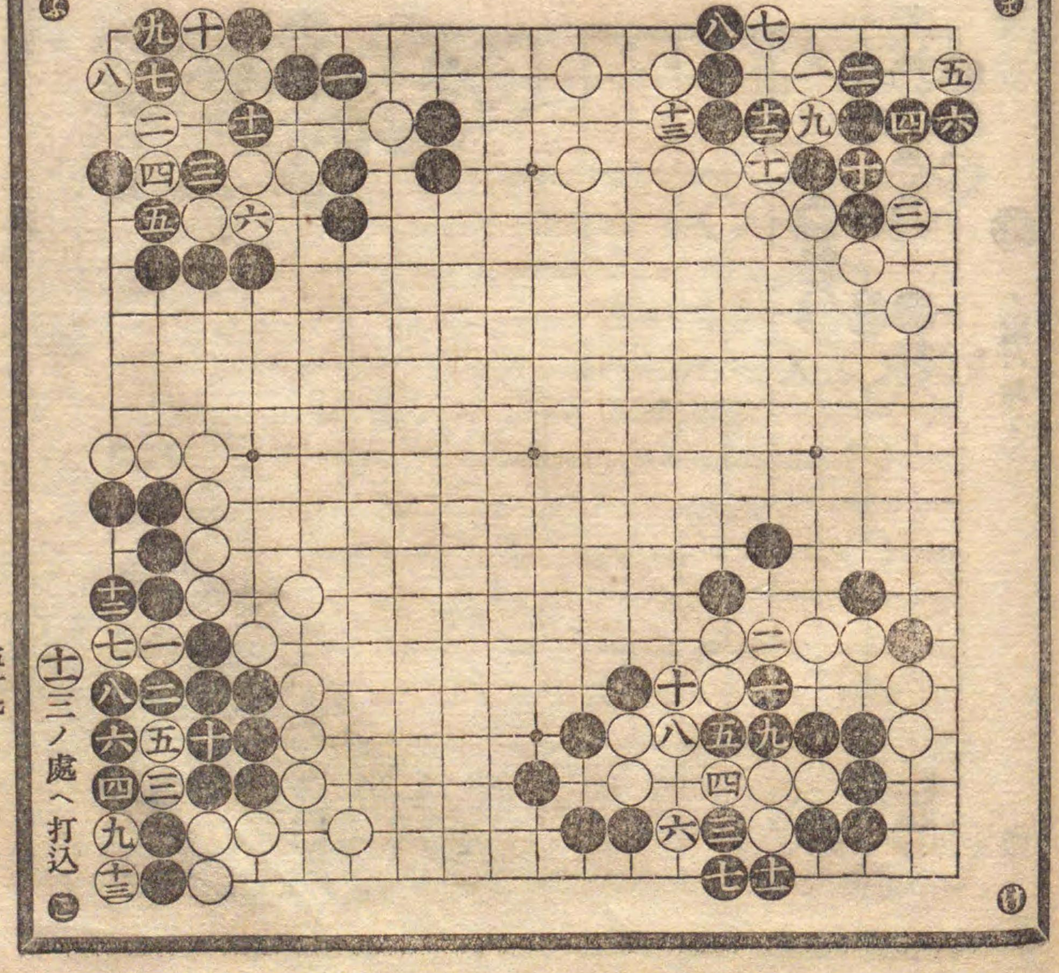


ま角此形にて白先黒死石となるの手順を示せば白一へ置き黒二へ押へ白三へ引き黒四に押へ白五へ置き黒六へ押へ白七へ尖み黒八へ押へ白九へ突當り黒十へ白十一へ黒十二を切し時白十三へ押へるを以て卽ち死石となる

け角此形にして黒先盤りとなるの手順を示せば黒一と尖附け白二へ押へ黒三へ附け白四へ押へ黒五へ割込白六へ劫込みし時黒七の下りよし此時白八へ押へ黒九へ粘き白十を粘し時黒十一へ引を以て卽ち盤りとなりしなり

ふ角此形にして黒先白死石となる手順を示せば黒一と引き白二へ尖みし時黒三の手妙手なり此時白四へ黒五を切り白六へ粘し時黒七の手又妙手なり白八へ綽け黒九へ行び白十と押へし時黒十一へ駆込み卽ち白死石となりしなり之三、七の兩妙手の爲す處なり

こ角此形にして白先大利益となる手順を示せば白一と切り黒二と押へ白又三を切り黒四へ綽け白五へ行び黒六へ白七へ黒八へ押へし時白九へ打込み黒十へ取し時白又三の處へ打込黒止むなく十二へ取り白十三へ取るの手順となりては白利益尤も大ひなり

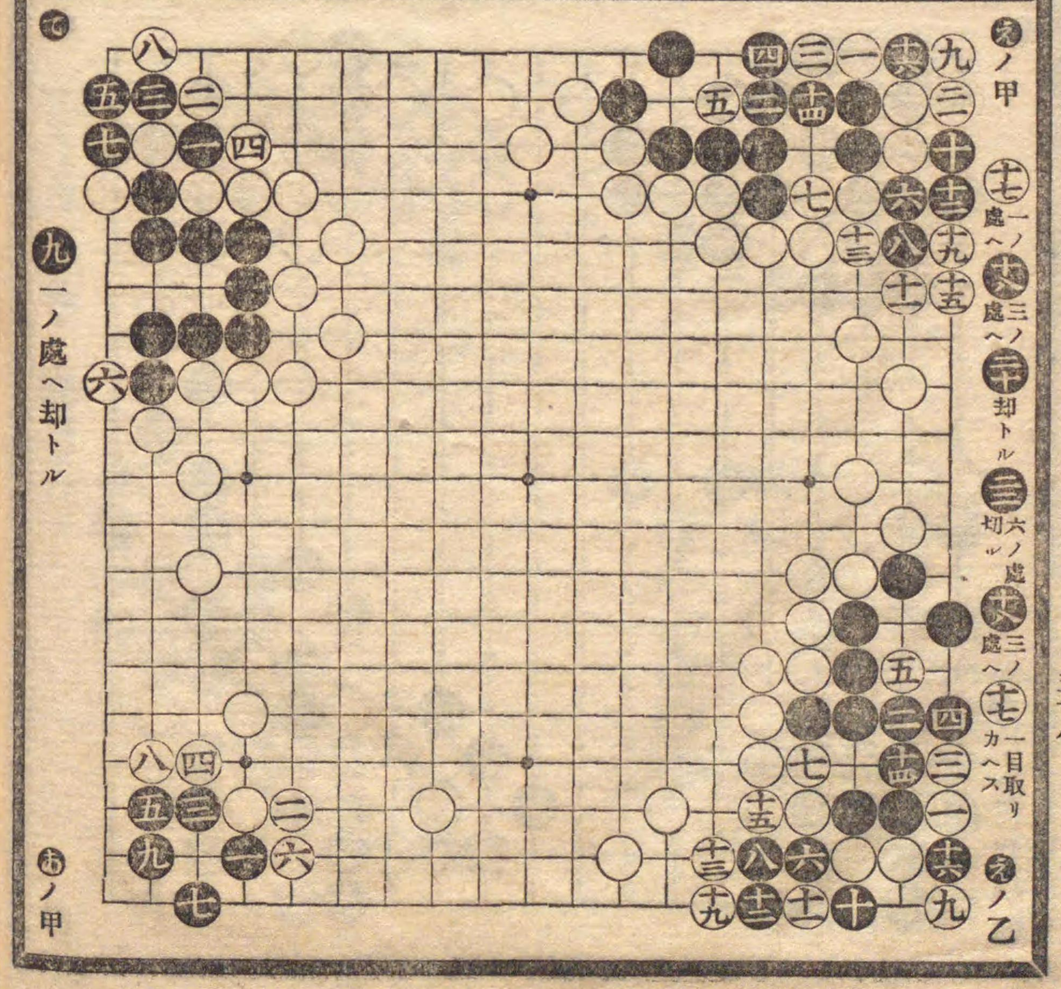


㋑の甲此形にして白先劫となる手順を示せば白一と綽け黒二へ白三へ黒四へ白五へ中手を打ち黒六を切り白七へ黒八へ行し時白九の尖みよし此時黒十へ綽け白十一へ黒十二の粘きよし白十三へ押へ黒十四へ白十五へ黒十六へ取り白十七と一子を取返し黒十八と三の處を押へ白十九へ突込み黒二十と劫を取り白二一と四目を打貫し時黒六の處を切るを以て卽ち石下の劫となるなり

㋑の乙同形の變化にして白一より手順を追ひ黒十へ綽けし時白十一へ打交へしは前局に異る處なり此時黒十二と取りては卽ち圖の如く黒死石となると雖も十二の手を十三の處へ行る時は返て白一手の寄せ劫となるなり故に白の十一は陷手に類する惡手なり

㋒角黒先劫となる手順を示せば黒一ときり白二へ黒三を切り白四へ取し時黒五の下りよし白六へ綽け黒七へ突込み白八へ黒九と劫を取り卽ち劫となるなり

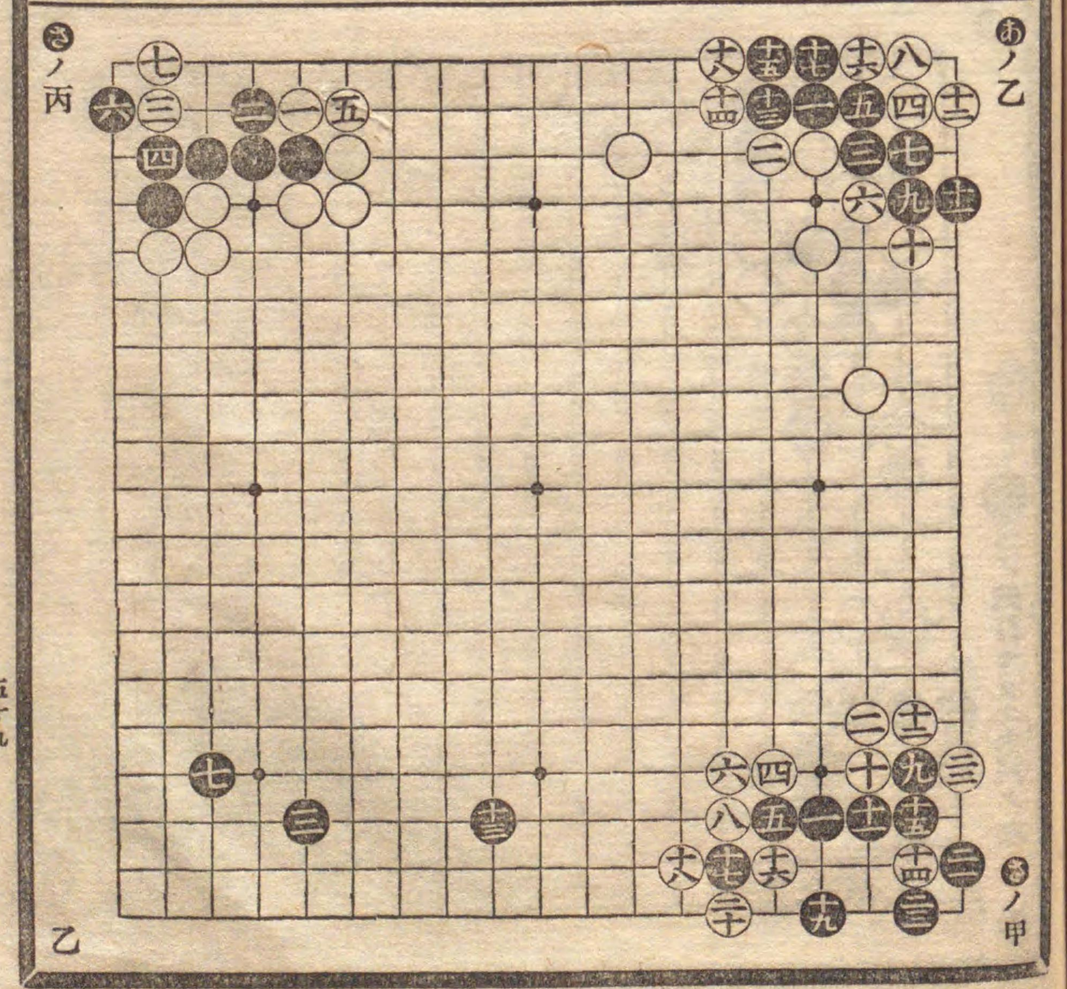
㋓の甲白一間高締り左右に啓き在る白へ黒打込活となる手順を示せば黒一と附け白二と並ぶは古碁の定式なり此時黒三へ綽け白四へ黒五へ白六へ黒七へ掛粘ぎ白八へ押へ黒九へ目持となるは古碁の通例なり猶ほ變化を乙局に示すべし



㋑の乙同變化にし黒死石となるの手順を示せば黒一白二黒三と綽けし時白四へ打しは卽ち變化にして此手は坂口仙德の發明にして其手順は黒五へ粘ぎ白六へ黒七へ押へし時白八の手よし黒九へ白十へ黒十一へ白十二へ黒十三へ白十四へ黒十五へ下り白十六へ目欠きにて卽ち有無にて黒死石となりしなり此發明より舊式の活を轉じ死石と定む

㋓の甲乙此局黒小目へ對し白小斜走に掛りし時黒都合三手を拔き到底活となる手順を示せば黒一と小目に打ち白二と小斜走に掛りし時黒三と乙隅へ打白四へ黒五へ白六へ並びし時黒又手拔きにて乙隅を七と締り白八へ押へ黒九へ白十へ黒十一へ白十二へ押へし時黒又々手拔きにて十三へ啓き白十四へ覗き黒十五へ粘ぎ白十六へ綽けし時黒十七を切り此切一寸面白し白十八へ押へ黒十九へ飛び白二十へ取し時黒二一へ綽けるを以て卽ち活なり

㋔の丙甲隅同形にして黒死石となるの手順を示せば白一と綽け黒二へ押へし時白三へ置き黒四を粘し時白五を粘ぐ時は黒に活路なし假令ば黒六へ綽ければ白七へ下る手有ればなり此理を以て押す時は甲隅の白十四の置は誤りにして單に十六の處へ打つ時は黒に活なきものとす

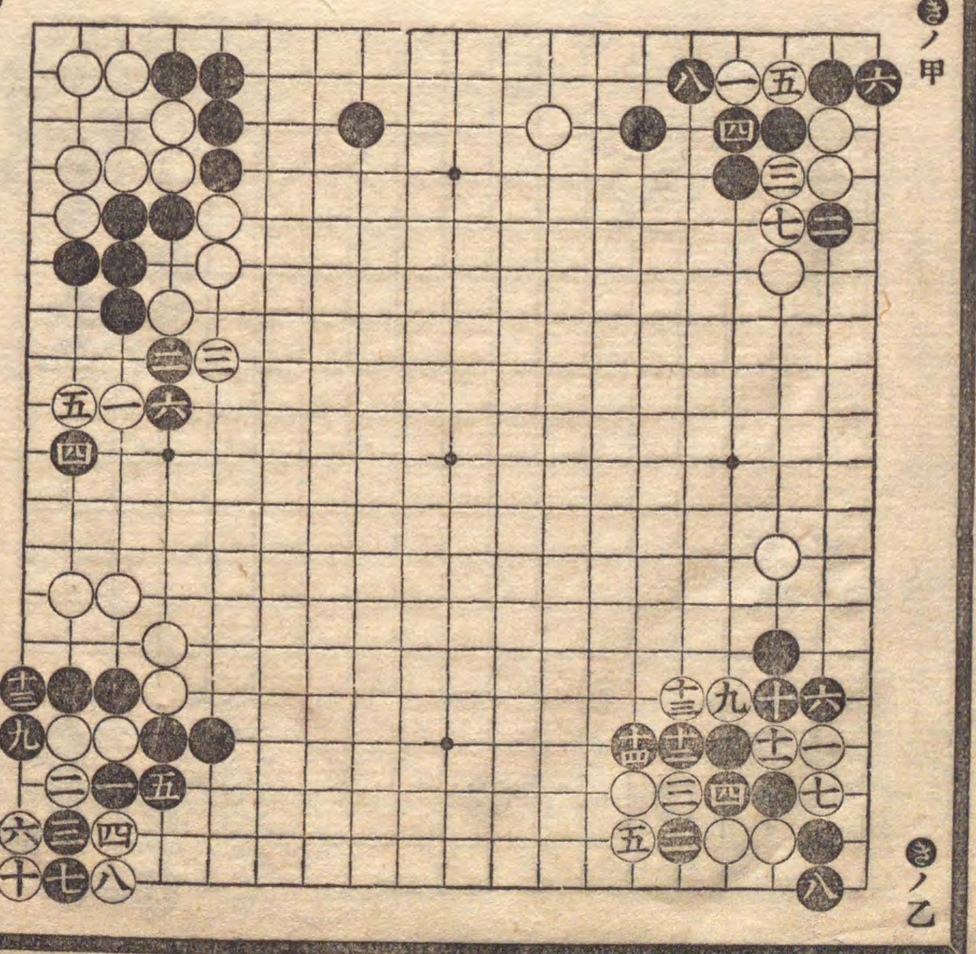


き の甲此形にして白の打込を凌ぐ手順を示せば白一の打込は右に切を臨み左に盤りを含みし手にして黑の應手に苦む處なり此時黑二の附越よし此時白三へ當て黑四を粘し時白五へ黑六へ下りよし白止むなく七へ打ち黑八へ押へては黑の形大によし

く の乙前同形にして變化の手順を示せば黑二と附越を白三と押へ黑四と切しは前局に異る處にして黑六と尖附白七を切り黑八へ行び白九へ附け黑十へ白十一を切り黑十二へ行び白十三と征に追も黑に征受在る時は黑十四へ行出し大に黑の利益なれども若し征受なき時は黑大敗なれば此場合の時は黑八の手を十の處押へるを可とす

け 角此形にして白先手の攻擊を黑に於て凌ぐの手順を示せば白一と打ち黑二へ綽け白三へ押へ黑四と打しは妙手なり此時白五へ押へ黑六へ押へるを以て即脫出したり

こ 角此形にして黑先攻合勝の手順を示せば黑一と綽け白二へ曲り黑三と二段に押へし此手よし白四を切り黑五へ白六へ黑七へ行び白八へ黑九へ綽け白十へ取り黑十一と三の處へ打かへ白之を取り黑十三へ粘ぐを以て白手足すにて死石となるなり



き ノ甲

く ノ乙

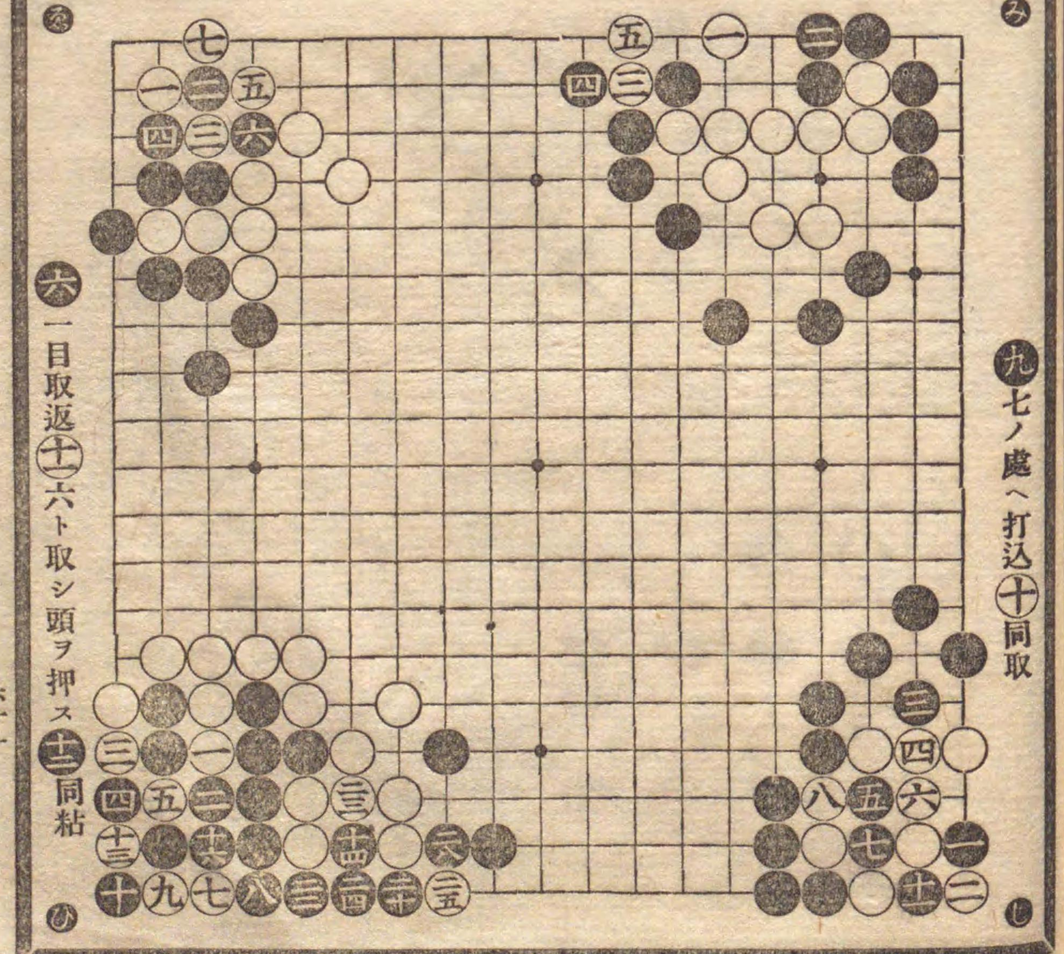
十一 三ノ處打カフ 十二 同ク取

み 角此形にして白先活となるの手順を示せば白一に置き此手玄妙なり此時黑二を粘ぎ白三を切り黑四へ綽け白五へ下るを以て即ち活となるなり

め 角此形にして黑先劫となる手順を示せば黑一と打ち白二へ打込み黑之を取らずして三へ覗き白四へ黑五へ駆込み白六へ押へし時黑七の突込は意外の妙手なり白八と之を取り黑九と七の處へ打込み白五の處へ取りし時黑十一へ子を取るを以て即ち劫となりしなり

み 角此形にして白先大利益の手を示せば白一と置よし此時黑二へ附け白三へ割込み黑四を切り白五へ押へ黑六へ取りし時白七と盤るを以て黑に粘手なければなり

し 角此形にてし白先黑劫活の手順を示せば白一黑二白三黑四白五と二子を取り黑六と一子を取返し白七黑八白九十黑と打込し時白之を取ず黑の六と取し頭を十一と押し黑粘ぎ白十三へ劫を取り黑十四へ劫を立て白十五と十の處を粘ぎ黑十六と四子を取り白十七と九の處へ打ち黑十八十の處打込白十九同取る黑二十へ綽け白二十一の處粘黑二二へ當て白二三へ粘ぎ黑二四へ粘ぎ白二五を押へし時黑二六と三目を取り白二七と中手を入れば黑二八を切即ち活となるなり



ひ 六 一目取返十一六ト取シ頭ヲ押ス十二同粘

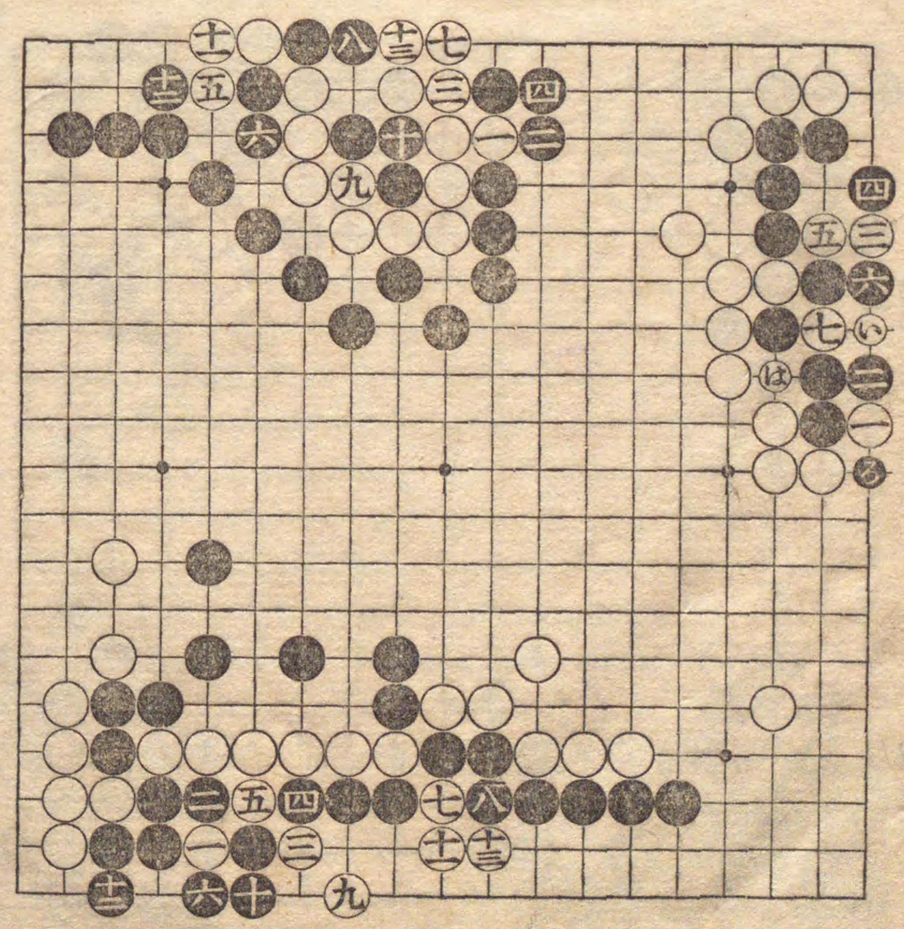
ら 九 七ノ處ヘ打込十同取

圍碁玄妙落穗集大尾

㋩角此形にして白先黑死石となる手順を示せば白一へ綽げ此手よし黑二へ白三へ置き黑四へ尖附け白五へ黑六へ押へし時白七へ打込を以て卽ち黑死石となるなり又白一と綽げし時黑二へ押へずして三の處掛粘ぎし時は白㋑へ打込み黑二の處へ押へし時白七の處へ突込み黑六の處へ取し時白又七の處へ打込み黑㋺へ打し時白㋩へ取を以て卽ち死石となるなり

㋭角此形にして白先活となるの手順を示せば白一と突出し黑二へ押へ白三へ當て黑四へ粘ぎ白五へ黑六へ行し時白七へ下り黑八へ行び白九へ當て黑十へ粘ぎ白十一を粘黑十二へ押へし時白十三へ押へるを以て卽ち白活なり此局白九へ當て十一へ粘ぎ而して十三へ當し手順妙なり

㋬角此形にして白先兩活となる手順を示せば白一と割込み黑二へ押へ白三へ附起し黑四へ白五と切り黑六へ取りし時白七を切り而して九へ尖みたる手順玄妙なり此時黑十へ粘ぎ白十一へ下り黑十二へ活を打ち白十三へ曲り卽ち兩活とはなりしなり



明治四十年十一月廿五日初版印刷
明治四十年十二月一日初版發行
明治四十年十二月廿五日再版印刷
明治四十年十二月廿八日再版發行
明治四十一年九月十五日三版印刷
明治四十一年九月二十日三版發行
明治四十二年十月八日四版印刷
明治四十二年十月十二日四版發行
明治四十四年十月十日五版印刷
明治四十四年十月十五日五版發行
大正三年九月十日六版印刷
大正三年九月十五日六版發行

(玄妙落穗集)
定價金四拾錢
郵稅金四錢

著作權所有

編輯者　井上保申
東京市牛込區下宮比町二番地

發行者　萬歲館　大野慶吉
東京市京橋區銀座二丁目十番地

印刷者　飯島省一
東京市本所區番場町四番地

印刷所　凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所　東京市京橋區銀座二丁目
大野萬歲館

圍碁玄妙落穂集

795
1472i2
(s)
00617859

795
I472 i2
(8)